



HP Z Remote Graphics Software (HP RGS)

初回導入ガイド v1.1



株式会社 日本HP
ソリューション技術本部
プリセールスエンジニア部
2026年5月



本ドキュメントの概要

この資料はHP ZCentral Remote Boostから製品名を「HP Z Remote Graphics Software (RGS)」へ変更し、バージョン26としてリリースされたRGSをテスト、導入していただく際に参考になる技術情報をまとめています。

※この資料はWindows版Sender / Receiver、MacOS版 Receiverの説明を対象にしています。

HP Z Workstations & HP Z Remote Graphics Software



製品型番	製品名
UR1P9SS	HP RGS 3年ライセンス (HP Z Workstationにバンドルライセンス)
UR1P6SL	HP RGS 1年ライセンス (スタンドアロンライセンス)
UR1P7SL	HP RGS 3年ライセンス (スタンドアロンライセンス)



デスクトップワークステーション
モバイルワークステーション

ラックマウント
ワークステーション

 HP Z Remote Graphics Software

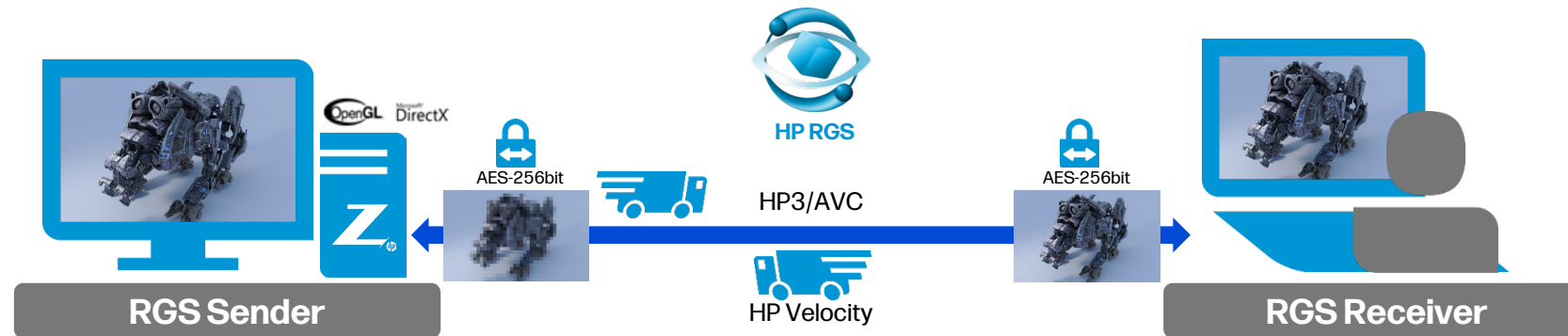


PC / ワークステーション / Windowsタブレット
シンククライアント / MacBook / キーボードPC

目次

1. RGSの動作の流れ	P.4
2. RGS v26のシステム要件	P.5
3. RGSのダウンロード	P.6
4. RGSのライセンス設定	P.7
5. RGS Senderのインストール (Windows版)	P.13
6. RGS Receiverのインストール (Windows版)	P.18
7. RGS Receiverのインストール (MacOS版)	P.23
8. RGSの接続の流れ	P.25
9. 代表的な機能の紹介	P.28
10. 設定メニューの解説	P.34
11. モニターレイアウトの解説	P.53
12. 便利な使い方	P.60
13. FAQ (よくあるご質問)	P.68
14. トラブルシューティング	P.75
15. 参考URL集	P.82

1. HP RGSの動作の流れ



1. ReceiverからSenderへ接続要求、ユーザー名とパスワード認証、ライセンスサーバーへの認証*
2. Sender側で画面の分析 (テキスト、グラフィックス、画面の差分情報等)
3. Sender側でエンコード・暗号化をし、圧縮して送信
4. Receiver側でデコード・復号化し、画面を表示
5. Receiver側のキーボード操作、マウス操作
6. Sender側にてキーボード操作、マウス操作の適用

※Senderから切断した際にはライセンスサーバーへライセンスを返却 (チェックアウト) されます。

◆用語の説明◆

HP3・・・デフォルトの画像圧縮CODEC (高画質・高速)

AVC・・・H.264を使った画像圧縮CODEC (高圧縮率で低帯域での利用向き)

HP Velocity・・・ネットワークの遅延やパケットロスを改善する機能

AES-256bit・・・256bitの高度な暗号化技術を使い通信する機能

2. RGS v26のシステム要件

サポートOS

Windows 10, 11
MacOS 10.14以降 (Receiverのみ)
RHEL 8, 9
Ubuntu 22.04, 24.04
HP ThinPro 7, 8, 9 (Receiverのみ)

Receiverのシステム要件

CPU : 4コア以上 / メモリ : 4GB (最小) 8GB以上 (推奨) / ストレージ : 100MB以上の空き容量

Senderのシステム要件

HP3 / AVC (CPUでのエンコード) の場合

CPU : 4コア以上 / メモリ : 8GB以上 (最小) / ストレージ : 150MB以上の空き容量

AVC (GPUでのエンコード) の場合

CPU : 4コア以上 / GPU : NVIDIA製GPU / メモリ : 8GB以上 (最小) / ストレージ : 150MB以上の空き容量

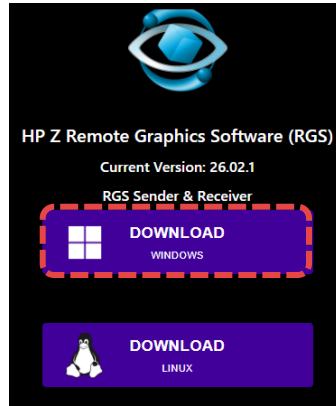
ライセンス

「HP Z Workstationにバンドルされた有効なライセンス」 もしくは **「有効なスタンドライセンス」** があり、クラウド or ローカルのライセンスサーバーにネットワークでアクセスできること











※有効なライセンスがないとReceiverから接続しようとしてもエラー画面が出て繋がりませんのでご注意ください。

3. RGSのダウンロード

<01> 以下URLにアクセスし、「RGS Sender & Receiver」以下にあるWindows版をダウンロードします。
<https://zdocs.datascience.hp.com/downloads>



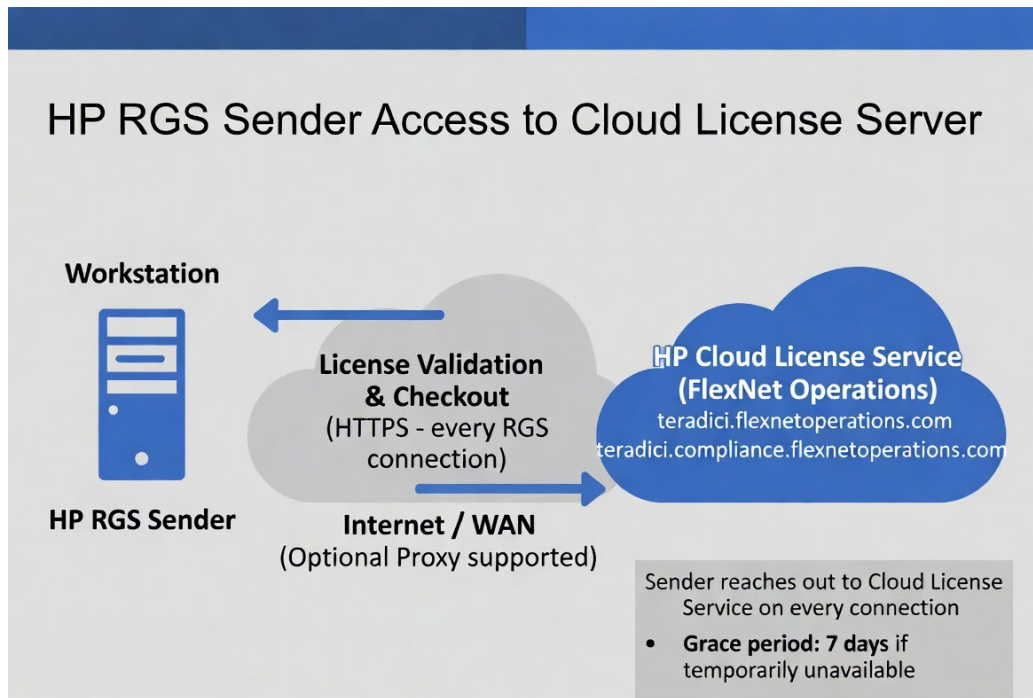
<02> 「RGS_26.02.1_WindowsSenderReceiver.zip」 (約374MB) ファイルを展開します。

 rgsCleanInstallFiles.bat	2026/04/23 木 16:01	Windows パッチ ファ...	5 KB
 HP VMouse.msi	2026/04/23 木 16:01	Windows インスト...	1,814 KB
 HPRGSUserGuide.pdf	2026/04/23 木 16:01	Adobe Acroba 文書	1,931 KB
 InstallReadme.pdf	2026/04/23 木 16:01	Adobe Acroba 文書	329 KB
 ReceiverSetup64.exe	2026/04/23 木 16:01	アプリケーション	44,532 KB
 SenderSetup64.exe	2026/04/23 木 16:01	アプリケーション	53,841 KB
 Third_Party_Licenses.txt	2026/04/23 木 16:01	テキストドキュメント	117 KB
 LICENSE.txt	2026/04/23 木 16:01	テキストドキュメント	15 KB
 README.pdf	2026/04/23 木 16:01	Adobe Acroba 文書	260 KB
 flexIm	2026/04/23 木 16:01	ファイル フォルダー	

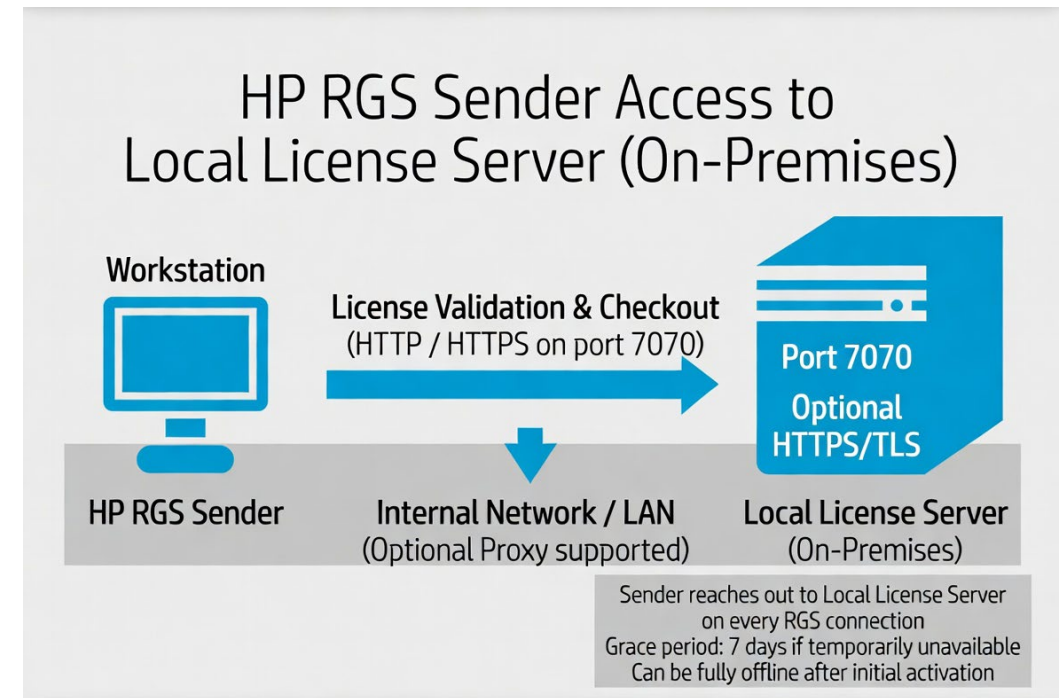
4-1. RGSのライセンス設定

ライセンスサーバーの形式

Sender側のワークステーションがクラウド上のサーバーにアクセスするクラウドライセンスの形式、オンプレミス環境のライセンスサーバーにアクセスするローカルライセンスの形式の2通りが利用可能です。Sender側のワークステーションがインターネット接続できないような環境の場合はローカルライセンスを使用する必要がありますが、自前でサーバーを準備していただく必要があります。手軽に利用可能なのはクラウドライセンスとなります。



クラウドライセンス



ローカルライセンス



※本ドキュメントではクラウドライセンスのみ解説しており、ローカルのライセンスサーバーの構築方法については別途手順書を準備しております。

4-2. RGSのライセンス設定

30日トライアルライセンスの申請方法

以下のリクエストフォームへアクセスし、トライアルライセンスを申請していただくことで**最大50台分**のSenderで利用できる**30日間**のライセンスが発行されます。ライセンスは有償ライセンスと同じようにEメールで納品され、通常、申請後24時間以内にライセンスが届きます。**※日本語ではなく必ず英語（半角英数字）で申請してください。**

◆RGSトライアルライセンスリクエストフォーム（英語）

<https://app.smartsheet.com/b/form/019d42e8715371a788d66f82478a549b>

以前トライアルライセンスを申請したことがある場合は「Yes」、はじめての場合は「No」

申請者のメールアドレス

会社名

ビル名、番地、町名

市、区、郡等の名前

都道府県名

国名

郵便番号



Account Information

Have you previously requested an HP RGS trial? *

No

Requestor Email *

@hp.com

End User Company Name *

HP Japan Inc.

Street *

21F Shinagawa Season Terrace, 1-2-70, Konan

City *

Minato-ku

Province/State *

If not applicable, please enter "N/A"

Tokyo

Country *

Japan

Post Code *

108-0075

ファーストネーム

ラストネーム

メールアドレス
(通常は申請者と同じ)

伝えたいコメントがあれば
英語で記入

申請内容のコピーを自分の
メールに送る場合はチェック

入力内容を確認後、
「Submit」ボタンで送信

通常、24時間以内にライセンスコードが
Eメールで届きます

Contact Information

First Name *

Taro

Last Name *

Yamada

End User Licensing Contact *

@hp.com

Additional Comments

Send me a copy of my responses

Submit

4-3. RGSのライセンス設定

クラウドライセンスの設定方法

RGSの評価ライセンスの発行を申請、RGSのライセンスをご購入いただくとEメールでレジストレーションコードが届きます。「CLOUD REGISTRATION CODE」下にある「XXXXXXXXXXXX@YYYY-YYYY-YYYY-YYYY」の形式になっているレジストレーションコードをコピーし、Senderインストール時にレジストレーションコードを登録します。インターネット接続の際にプロキシサーバーが必要な場合は、プロキシサーバーの情報（サーバーのアドレス、ポート番号）も入力します。

HP RGS License Code for Cloud License Service:

CLOUD REGISTRATION CODE

XXXXXXXXXXXX@YYYY-YYYY-YYYY-YYYY

Format: XXXXXXXXXXXXX@YYYY-YYYY-YYYY-YYYY

This registration code is unique to your organization.

Protect it as you would any sensitive data and don't share with other parties.

Use this registration code during HP RGS Sender install or after install via the RGS License utility tool described in the HP RGS User Guide, which can be found at www.hp.com/go/rgs, or via scripted method such as PowerShell.

Eメールで納品されたレジストレーションコードをコピー

レジストレーションコードを貼り付け

プロキシサーバーが必要な場合はここにチェックを付け、AddressとPort番号を入力

レジストレーションコードを入力後、Nextをクリック
登録後、Windowsの再起動を実施

HP Z Remote Graphics Software Sender - InstallShield Wizard

License Configuration

HP Z Remote Graphics Software requires a license for a remote connections. Please enter the registration code you received by email from HP.

I have a License Registration Code

License Registration Code

XXXXXXXXXXXX@YYYY-YYYY-YYYY-YYYY

Use a proxy server for Internet connection

Address Port

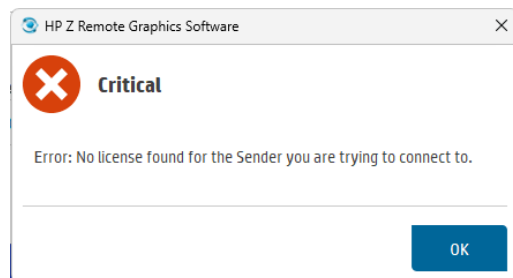
I will setup licensing later

InstallShield Next >

4-4. RGSのライセンス設定

クラウドライセンスの設定方法

クラウド用のレジストレーションコードの登録に成功している場合、Receiverから接続するとそのSenderに接続し画面が転送されますが、レジストレーションコードの登録が失敗している場合などは「Error: No license found for the Sender you are trying to connect to.」というエラーが表示されます。



Senderインストール時のGUIのインストールメニューでレジストレーションコード登録しなかった場合、「C:\Program Files\HP\Remote Graphics Sender\」以下にある「rb-license-tool.exe」というライセンス管理用のコマンドでレジストレーションコードを登録する必要があります。管理者権限でコマンドプロンプトやPowerShellを起動し、レジストレーションコードを登録するコマンド例は以下となります。

```
rb-license-tool.exe register --registration-code XXXXXXXXXXXX@YYYY-YYYY-YYYY-YYYY
```

プロキシサーバー経由の場合は、上のコマンドに「-proxy-server プロキシサーバーのIPアドレス or ホスト名」、「-proxy-port ポート番号」を追加して実行します。

```
C:\Program Files\HP\Remote Graphics Sender>rb-license-tool.exe register --registration-code [redacted]@[redacted]
Attempting to register with cloud license server instance [redacted].
... Done; Registration Successful.
Writing Properties to rgsenderconfig file
Successfully configured rgsenderconfig file.
Grace period prepped.
```



登録に成功すると、「Registration Successful」と表示されます。

4-5. RGSのライセンス設定

クラウドライセンスの設定方法

登録済みのレジストレーションコードを解除する場合は以下のコマンドになります。（※解除後も猶予期間として7日間はSenderに繋がります）

```
rb-license-tool.exe forget --registration-code XXXXXXXXXXXX@YYYY-YYYY-YYYY-YYYY
```

```
管理: コマンド プロンプト
C:\Program Files\HP\Remote Graphics Sender>rb-license-tool.exe forget --registration-code [redacted]@[redacted]
Successfully forgot customer Id
```

登録済みのレジストレーションコードがある状態でサブコマンドの「list」を付けて実行すると、ライセンスの失効日時、保有ライセンス本数、利用可能な本数などをご確認いただけます。

```
rb-license-tool.exe list
```

```
管理: コマンド プロンプト
C:\Program Files\HP\Remote Graphics Sender>rb-license-tool.exe list
Note- Licenses in use on this machine may not be reflected in the Available/Total counts.
-----
| Graphics RGS Sender requires features: Agent-Graphics and Agent-Session, or HP-RGS |
-----
| Licenses available from https://teradici.compliance.flexnetoperations.com/instances/[redacted]/request |
-----
| Feature          | Expiry                | Available | Total | Remaining days |
-----
| HP-RGS           | 27-Feb-2029 23:59:59 | 19        | 20    | 1021           |
-----
```

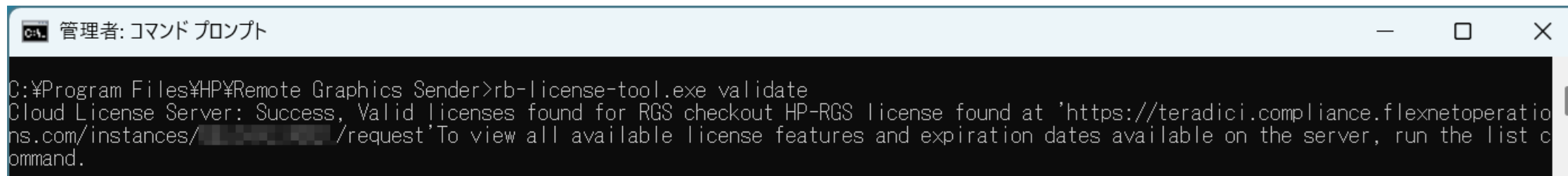


4-6. RGSのライセンス設定

クラウドライセンスの設定方法

サブコマンド「validate」を付けて実行すると、クラウドのレジストレーション用のサーバーに接続できるかのテストが実施されます。（※登録済みのレジストレーションコードは解除されません）

```
rb-license-tool.exe validate
```



```
管理者: コマンド プロンプト
C:\Program Files\HP\Remote Graphics Sender>rb-license-tool.exe validate
Cloud License Server: Success, Valid licenses found for RGS checkout HP-RGS license found at 'https://teradici.compliance.flexnetoperations.com/instances/[redacted]/request' To view all available license features and expiration dates available on the server, run the list command.
```

Proxyの設定も確認の上、validateを実行してもエラーが発生する場合は

```
FQDN : teradici.flexnetoperations.com、 teradici.compliance.flexnetoperations.com
IPv4 : 185.146.155.64/27
IPv6 : 2620:122:f003::/48
```

に接続許可がされているかをネットワーク管理部門にお問い合わせください。

どうしてもクラウドにアクセスできない場合はローカルライセンスへの切り替えもご検討ください。

※本ドキュメントではクラウドライセンスのみ解説しており、ローカルのライセンスサーバーの構築方法については別途手順書を準備しております。



5-1. RGS Senderのインストール (Windows版)

<01>

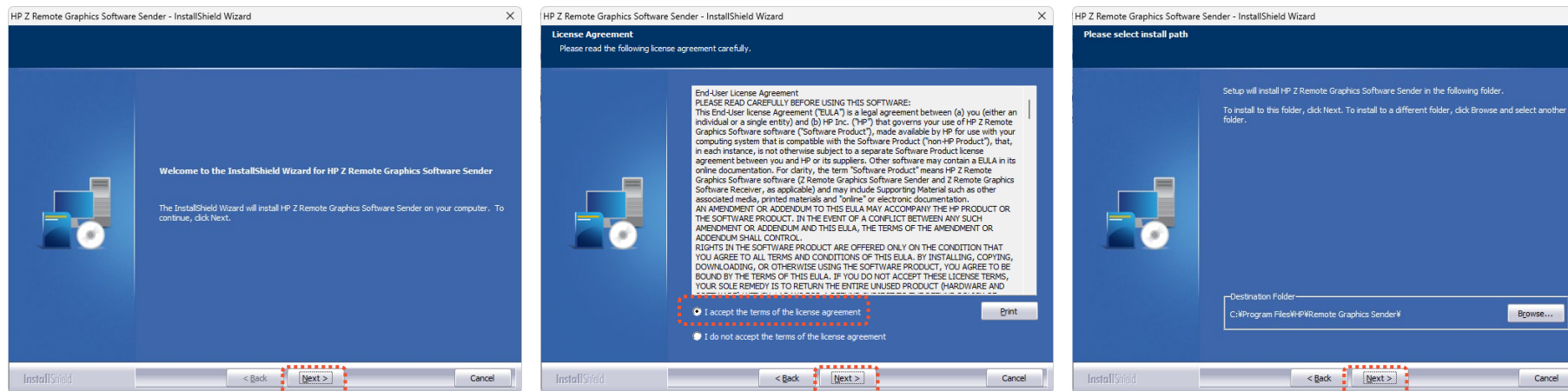
Senderとして利用するワークステーションにて「SenderSetup64.exe」を管理者として実行します。インストールウィザードが起動します。

「Welcome to the InstallShield Wizard for HP Z Remote Graphics Software Sender」の画面で「Next」をクリック。

続いて「License Agreement」の画面で「I accept the terms of the license agreement」にチェックを入れ「Next」をクリックします。

次に「Please select install path」画面が表示され、インストール先の設定を行います。

特にインストール先を変更しない場合は、そのまま「Next」をクリックします。



※上書きインストール

既に旧バージョンのRemote BoostやRGSがインストールされている場合でもアンインストール不要でRGS Senderの上書きインストールが可能です。

※VMouse (仮想マウスドライバー) のインストールについて

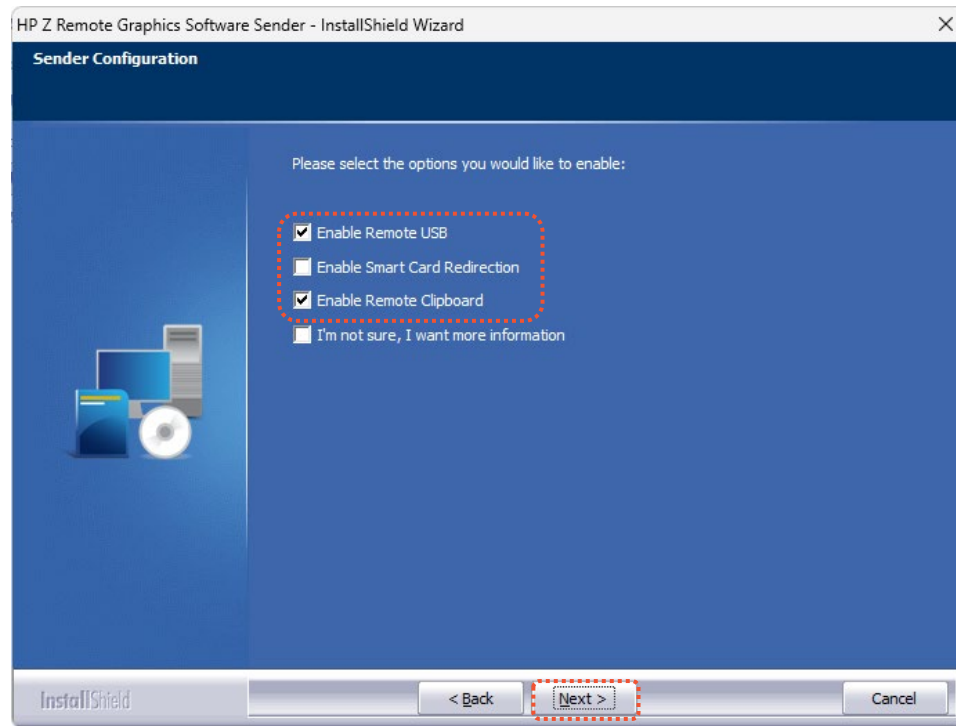
RGS v26.02.1よりSenderインストール時に自動的にVMouseもインストールされるようになりました。

それ以前のバージョンをインストールされる場合は、Senderのインストール後にVMouseもインストールしてください。

5-2. RGS Senderのインストール (Windows版)

<02>

オプションの選択メニューになります。デフォルトで「Enable Remote USB」と「Enable Remote Clipboard」が有効になっています。チェックボックスに「✓」を入れると機能が有効になり、「✓」をはずすと機能が無効になります。お好みの設定をし、「Next」をクリックします。



Enable Remote USB

Receiver側に接続したUSBデバイスをSender側へリダイレクトする機能です。SenderとReceiverの双方で有効の場合、RGS接続時にUSBデバイスを接続すると動作します。Senderのインストール後に変更する場合は再インストールが必要です。

Enable Smart Card Redirection

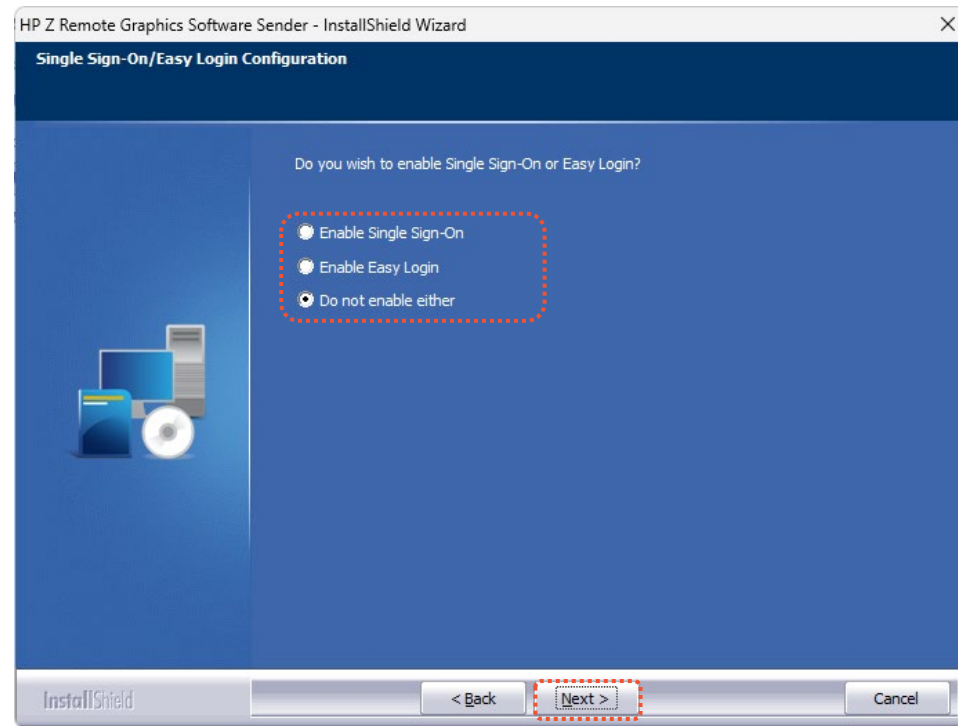
ユーザー認証時、Receiver側PCにUSB接続したスマートカードリーダーでSender側のユーザー認証が行える機能です。

Enable Remote Clipboard

SenderとReceiver双方でコピーしたテキスト情報や画像をコピー&ペーストできる機能です。(※ファイルのコピー&ペーストには対応していません) SenderとReceiverの双方で有効の場合、RGS接続時にテキストと画像のコピー&ペーストが動作します。Senderのインストール後に変更する場合は再インストールが必要です。

5-3. RGS Senderのインストール (Windows版)

<03> Senderへ接続する際のユーザー認証の方式を3通りから選択します。デフォルトでは「Do not enable either」が選択されています。お好みの認証方式を選び、「Next」をクリックします。



Enable Single Sign-On

SenderへRGS接続する際、ユーザー認証情報の入力Receiverのポップアップウィンドウで1回のみでデスクトップが表示され、Windowsのサインイン画面での認証情報入力は不要です。

Enable Easy Logon

Senderへ接続するとReceiverの認証用ポップアップウィンドウは表示されず、Windowsのサインイン画面がいきなり表示されます。

Do not enable either

デフォルトの標準認証方式。認証情報の入力が2回必要になります。1回目はReceiverのポップアップウィンドウ、2回目はWindowsのサインイン画面。

※認証方式はSenderソフトウェアインストール後も「SenderConfigApp.exe」という設定ツールでいつでも切り替えが可能です。

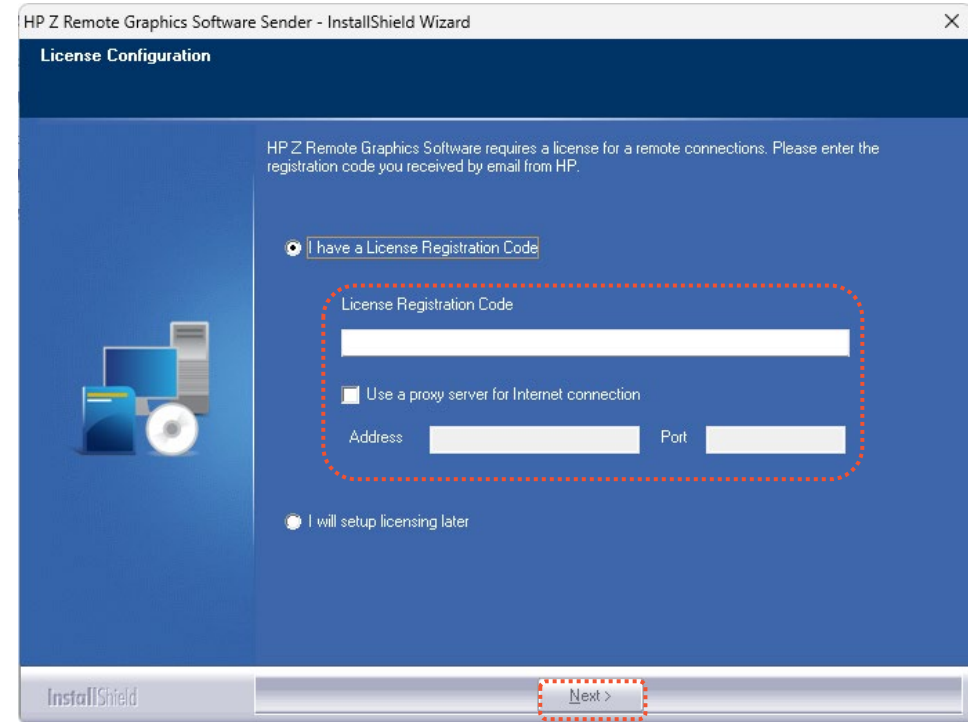
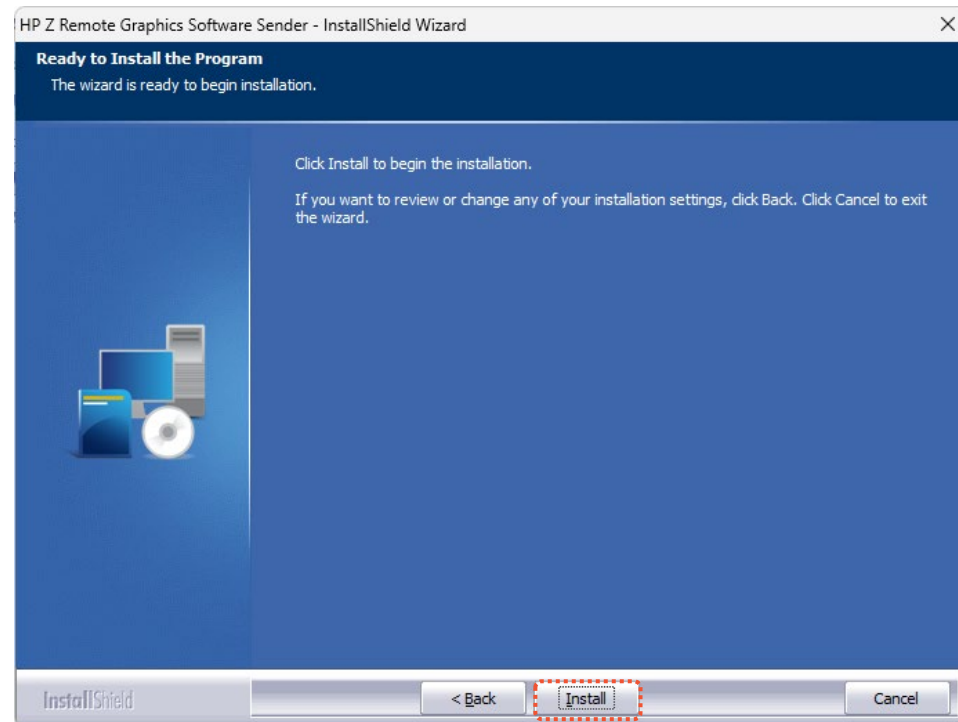
5-4. RGS Senderのインストール (Windows版)

<04>

「Install」をクリックするとインストールが開始されます。Senderのインストールが完了するとライセンス設定画面に移行します。レジストレーションコードを使用する場合は「I have a License Registration Code」にチェックを入れ、「License Registration Code」下にE-mailで納品されたレジストレーションコードを貼りつけます。登録にはクラウドのライセンスサーバーへの接続が必須なため、プロキシを使用必要がある場合はプロキシサーバーのアドレスとポート番号を入力します。

後でレジストレーションコードを登録する場合やローカルのライセンスサーバー (※自前でオンプレミスのライセンスサーバーを構築する必要があります) を利用する場合は「I will setup licensing later」にチェックを入れます。

設定が完了したら「Next」をクリックします。



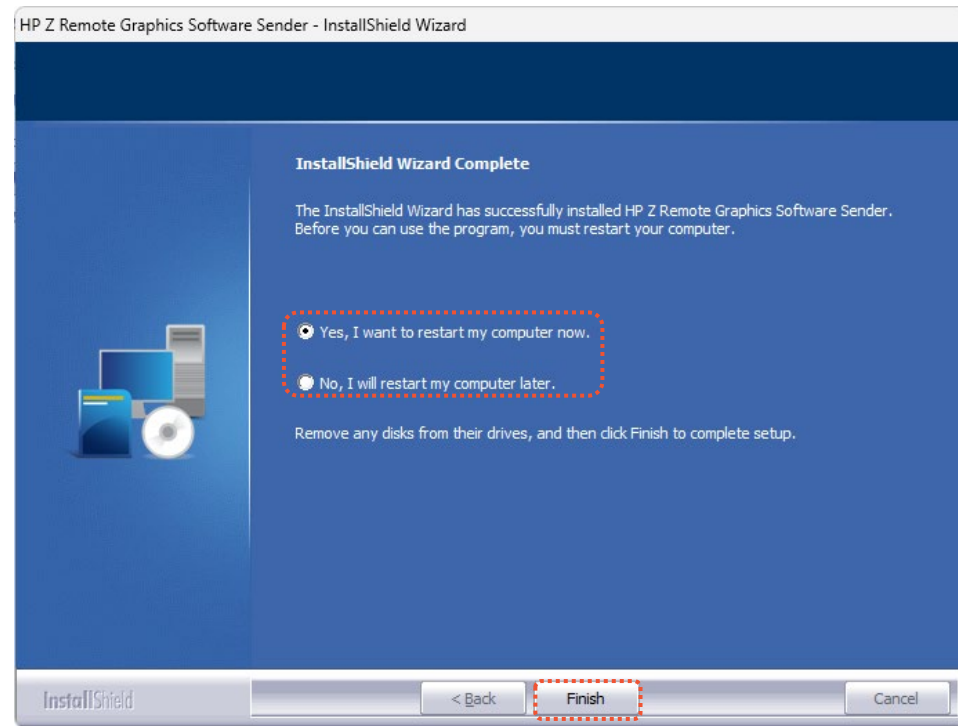
5-5. RGS Senderのインストール (Windows版)

<05>

Senderのインストールとライセンス設定が完了するとOSの再起動を求められます。

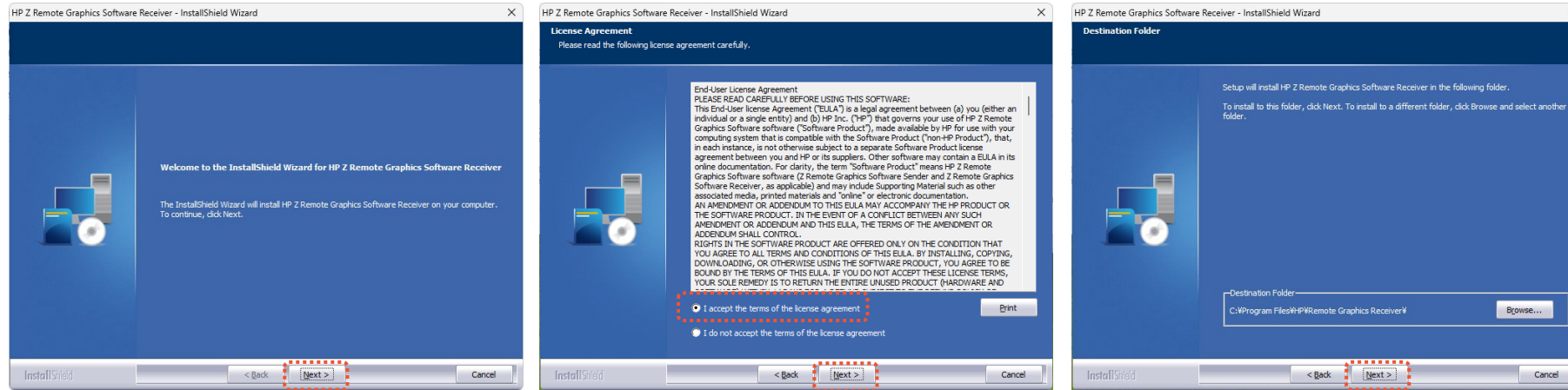
すぐに再起動をする場合は「Yes, I want to restart my computer now.」にチェックを入れ、「Finish」をクリックするとすぐにOSが再起動されます。

後にする場合は「No, I will restart my computer later.」をチェックし、「Finish」をクリックします。 (※Receiverから接続できるようにするにはOSの再起動が必須です)

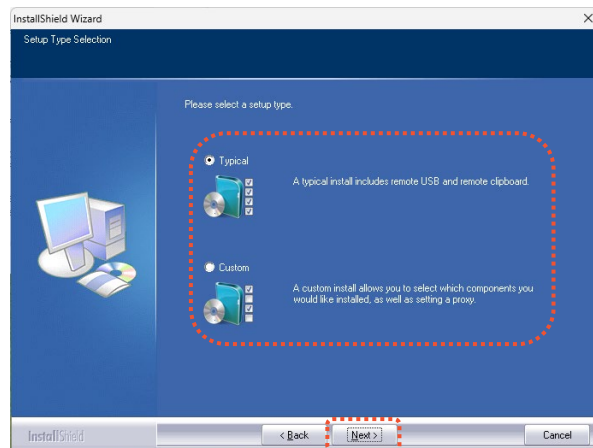


6-1. RGS Receiverのインストール (Windows版)

- <01> Receiverとして利用するWindows端末にて「ReceiverSetup64.exe」を管理者として実行します。インストールウィザードが起動します。「Welcome to the InstallShield Wizard for HP Z Remote Graphics Software Receiver」の画面で「Next」をクリック。続いて「License Agreement」の画面で「I accept the terms of the license agreement」にチェックを入れ「Next」をクリックします。次に「Destination Folder」画面が表示され、インストール先の設定を行います。特にインストール先を変更しない場合は、そのまま「Next」をクリックします。



- <02> 「Setup Types Selection」画面になります。デフォルト設定で進める場合は「Typical」にチェックをし、設定を変更されたい場合は「Custom」にチェックをして「Next」で次へ進みます。



デフォルト設定 (Typical) の場合

リモートUSB設定・・・USB devices are Local/Remote

リモートクリップボード・・・Yes (有効)

AVC用のProxy設定・・・使用しない (Do not use a proxy)

⇒次のページでCustomの場合の設定画面やその詳細を解説します。

※上書きインストール

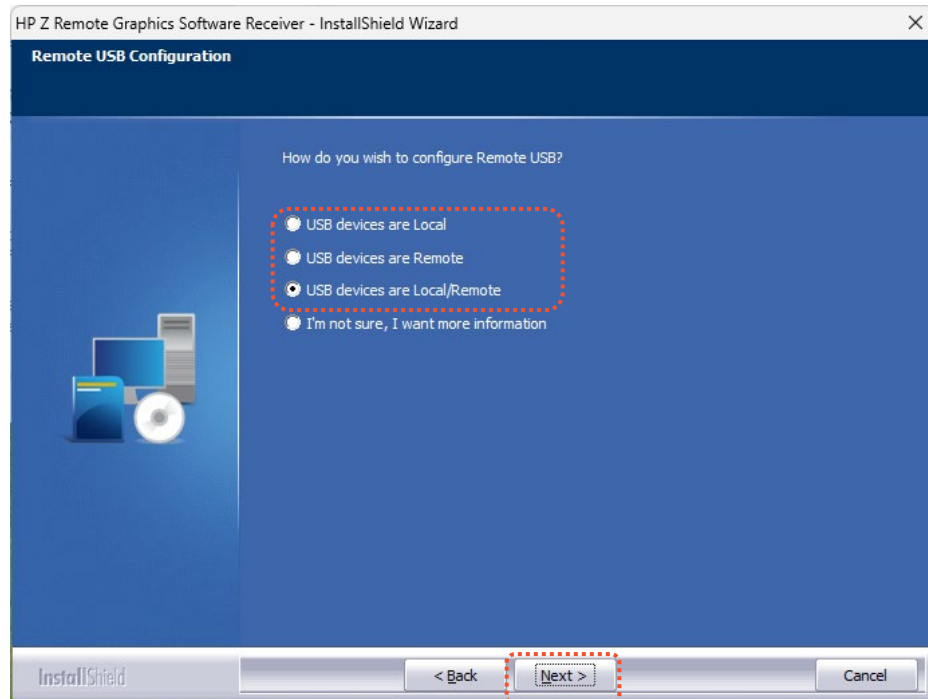
既に旧バージョンのRemote BoostやRGSがインストールされている場合でもアンインストール不要でRGS Receiverの上書きインストールが可能です。



6-2. RGS Receiverのインストール (Windows版)

<補足1>

「Custom」を選択した場合、リモートUSB設定、リモートクリップボード設定、AVC用のProxy設定をカスタマイズできます。
リモートUSB機能の詳細を解説します。



< リモートUSBの設定 >

USB devices are Local

Senderへリモート接続後もReceiver側のPCに接続したUSBデバイスはReceiver側PCでしか使用できません。

USB devices are Remote

Senderへリモート接続前にReceiver側PCに接続されていたUSBデバイス、リモート接続後に接続したUSBデバイスのどちらのパターンでもSender側のUSBデバイスとしてリダイレクトされます。
(そのUSBデバイスが仮想的にSender側ワークステーションに接続された状態)

USB devices are Local/Remote

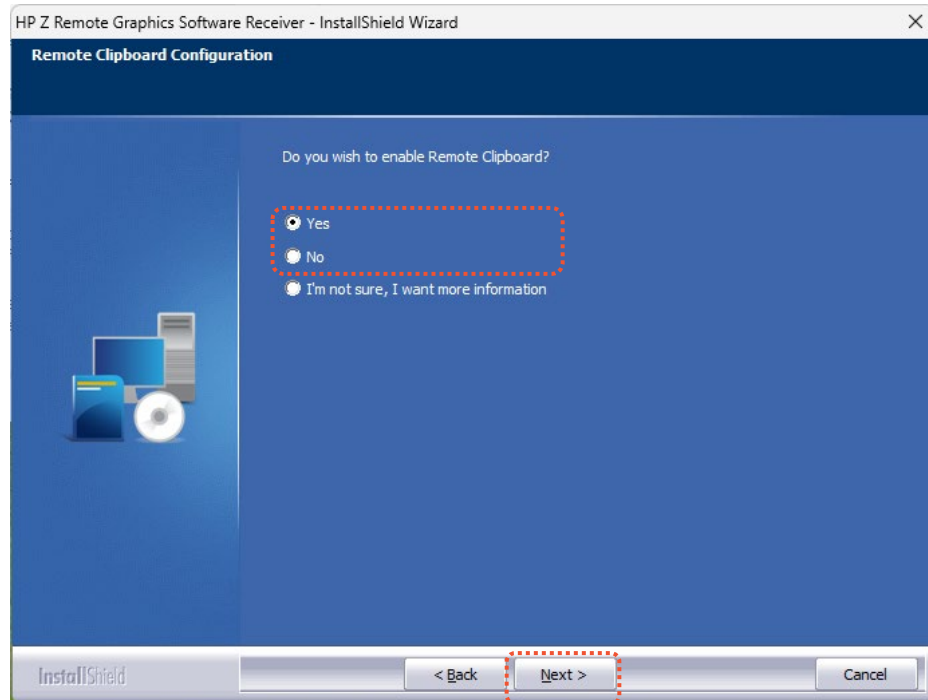
「Typical」時のデフォルト設定。
Senderへリモート接続前にReceiver側のPCに接続していたUSBデバイスはReceiver側PCのデバイスとして認識され、リモート接続後に接続したUSBデバイスはSender側ワークステーションへリダイレクトされます。

- ※ LinuxおよびMacOSはリモートUSBに対応していません。WindowsおよびThinProのみ対応。
- ※ Sender側でリモートUSBが無効になっている場合はReceiver側が有効でも機能しません。
- ※ リモートUSBの設定を変更するにはReceiverの再インストールが必要となります。

6-3. RGS Receiverのインストール (Windows版)

<補足2>

「Custom」を選択した場合、リモートUSB設定、リモートクリップボード設定、AVC用のProxy設定をカスタマイズできます。リモートクリップボード機能の詳細を解説します。



<リモートクリップボードの設定>

Yes

「Typical」時のデフォルト設定で、Receiver側のリモートクリップボード機能が有効になります。ただし、Sender側でもリモートクリップボードが有効になっていないとリモートクリップボード機能は動作しません。ReceiverとSender間で共有 (コピー & ペースト) できるのはテキスト情報と画像のみでファイルのコピー & ペーストには対応していません。

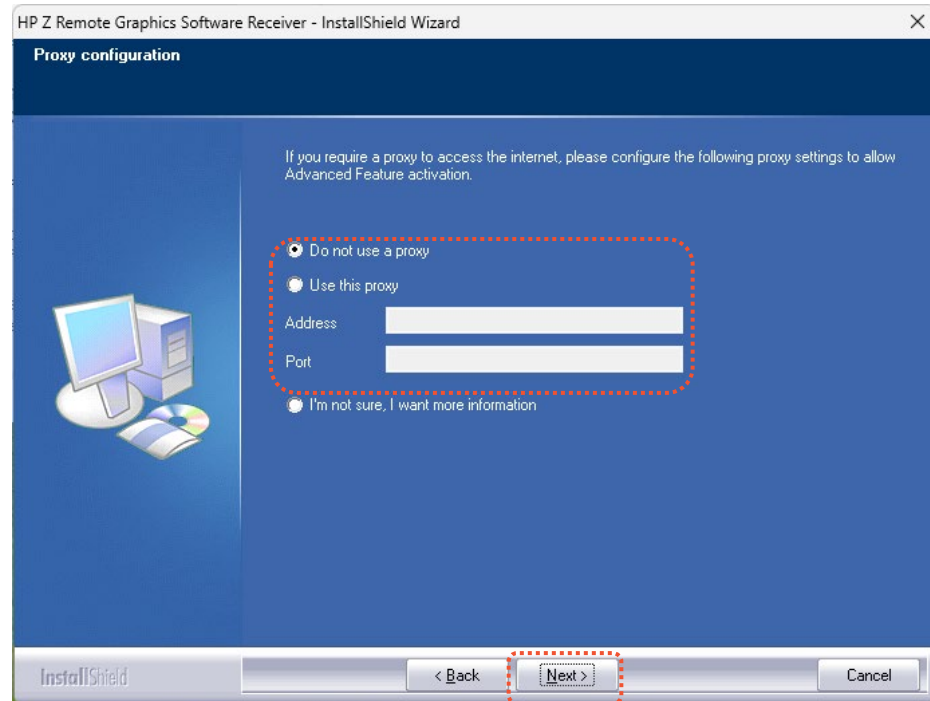
No

Receiver側のリモートクリップボード機能が無効になります。Sender側が有効でもReceiver側が無効の場合、リモートクリップボード機能は動作しません。

6-4. RGS Receiverのインストール (Windows版)

<補足3>

「Custom」を選択した場合、リモートUSB設定、リモートクリップボード設定、AVC用のProxy設定をカスタマイズできます。AVC用のProxy設定を解説します。



< AVC用のProxy設定 >

AVC (Advanced Video Compression) ※H.264ベースの画像圧縮CODEC を利用する際、初回のみアクティベーションでReceiver側のインターネット接続を使い、機能のアクティベーションを実施する必要があります。Receiver側のデバイスがインターネット接続する際にProxy経由でWANに接続する環境の場合、Proxyサーバーのアドレス (もしくはIPアドレス) とポート番号を入力します。このProxy設定はReceiverインターネット後でも設定メニューから変更可能です。

Do not use a Proxy

「Typical」時のデフォルト設定で、AVC機能のアクティベーション時にProxyサーバーを経由せず直接クラウド上にあるアクティベーション用のサーバーにアクセスしようとします。アクティベーションに失敗した場合はAVCは有効にならずデフォルトのHP3 CODECに変更された状態でSenderへ接続されます。

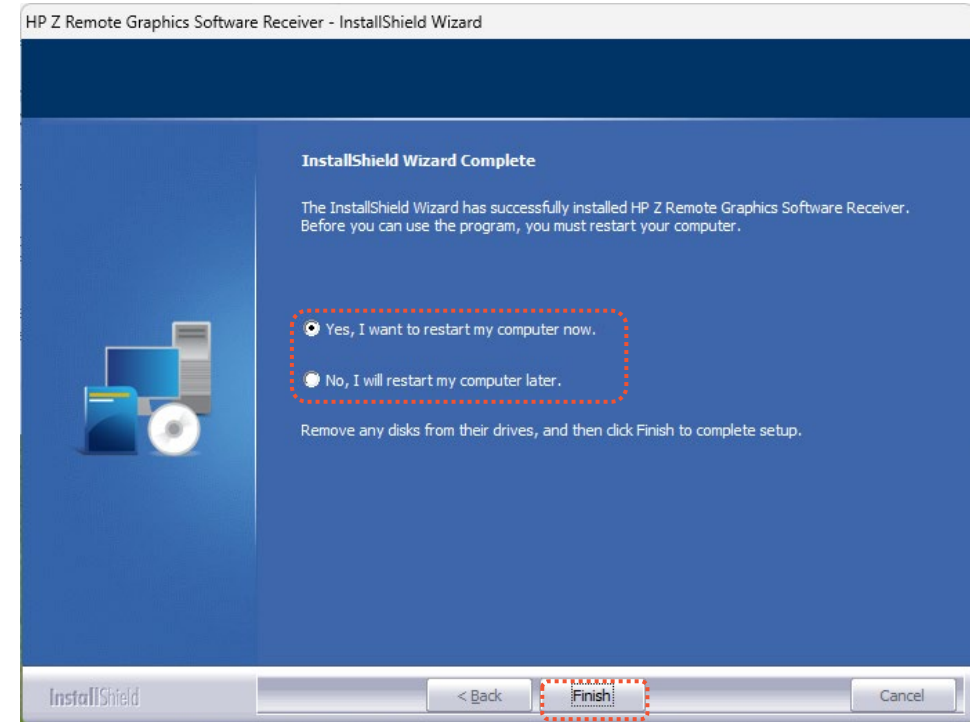
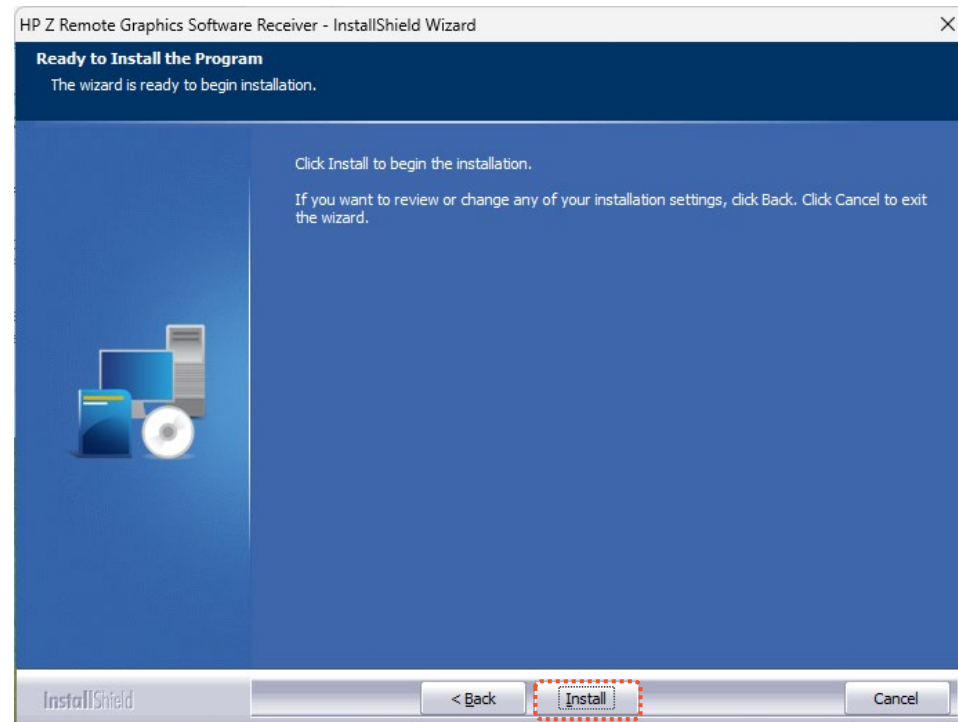
Use this Proxy

AVC機能のアクティベーション時に設定したProxyサーバーを経由してアクティベーション用のサーバーにアクセスしようとします。

6-5. RGS Receiverのインストール (Windows版)

<03>

「Install」をクリックするとインストールが開始されます。Receiverのインストールが完了するとOSの再起動を求められます。すぐに再起動をする場合は「Yes, I want to restart my computer now.」にチェックを入れ、「Finish」をクリックするとすぐにOSが再起動されます。後にする場合は「No, I will restart my computer later.」をチェックし、「Finish」をクリックします。

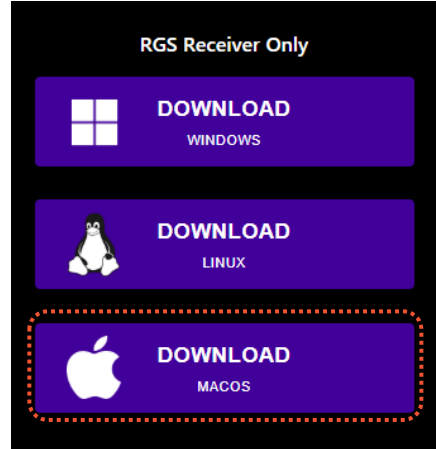


7-1. RGS Receiverのインストール (MacOS版)

<01>

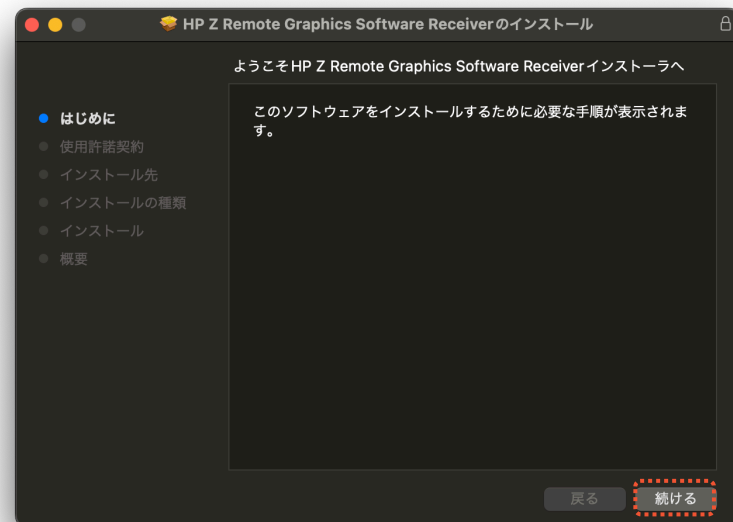
以下URLにアクセスし、「RGS Receiver Only」以下にあるMac版をダウンロードします。

<https://zdocs.datascience.hp.com/downloads>



<02>

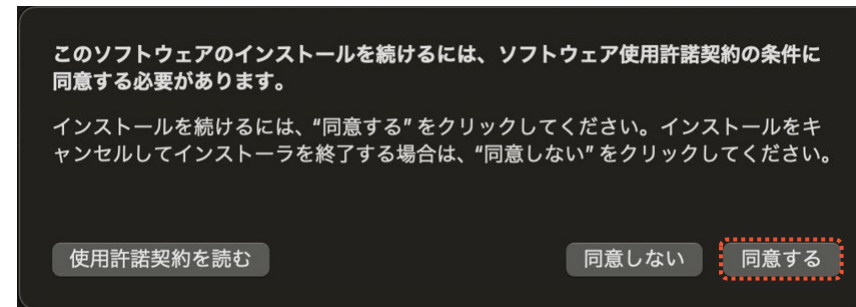
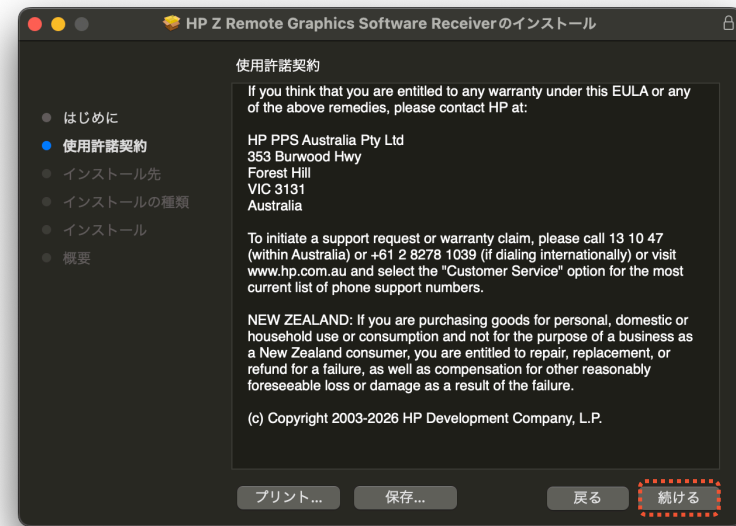
「RGS_26.02.1_MacReceiver.tar.gz」 (約42MB) ファイルを展開し、「HP RGS Receiver.pkg」ファイルを実行します。インストールメニューが起動するので、「続ける」をクリックします。



7-2. RGS Receiverのインストール (MacOS版)

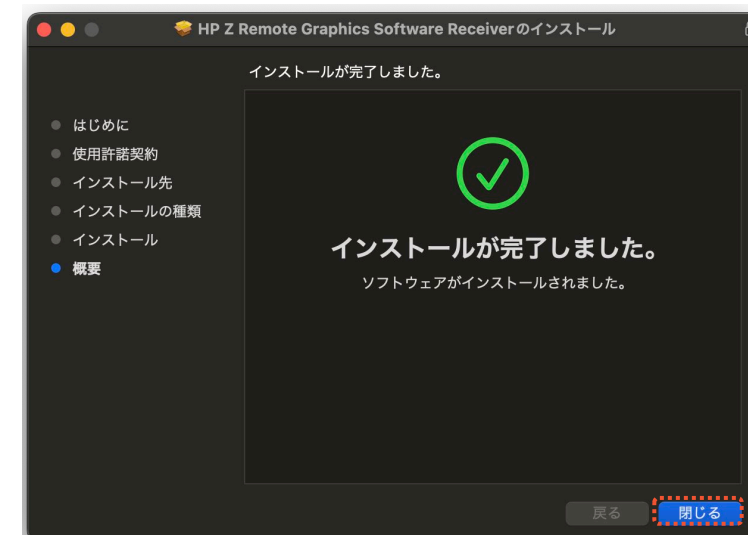
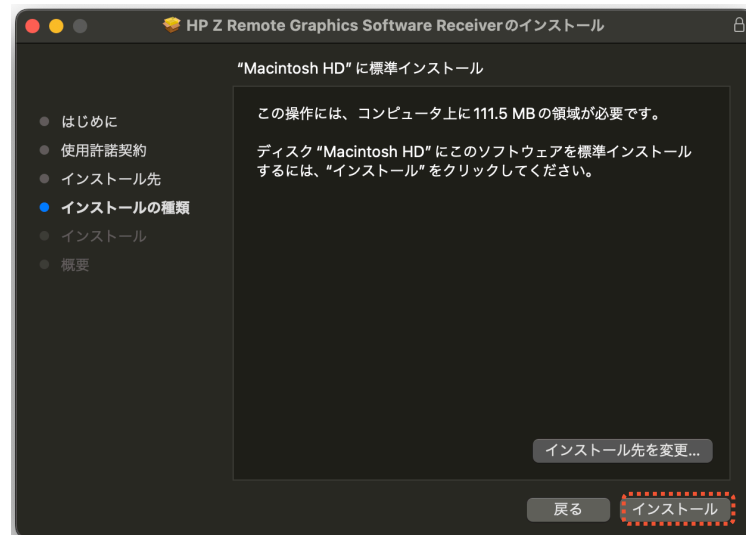
<03>

ライセンス規約の画面で「続ける」をクリックし、続いて「同意する」をクリックします。



<04>

インストール先を変更せずデフォルトで進める場合は「インストール」をクリックし、続いてパスワードを入力し、「ソフトウェアをインストール」をクリックします。「インストールが完了しました。」の画面が表示されたら、「閉じる」でインストールメニューを終了します。MacOS版は以上で完了ですぐにReceiverをご利用いただけます。



8-1. RGSの接続の流れ

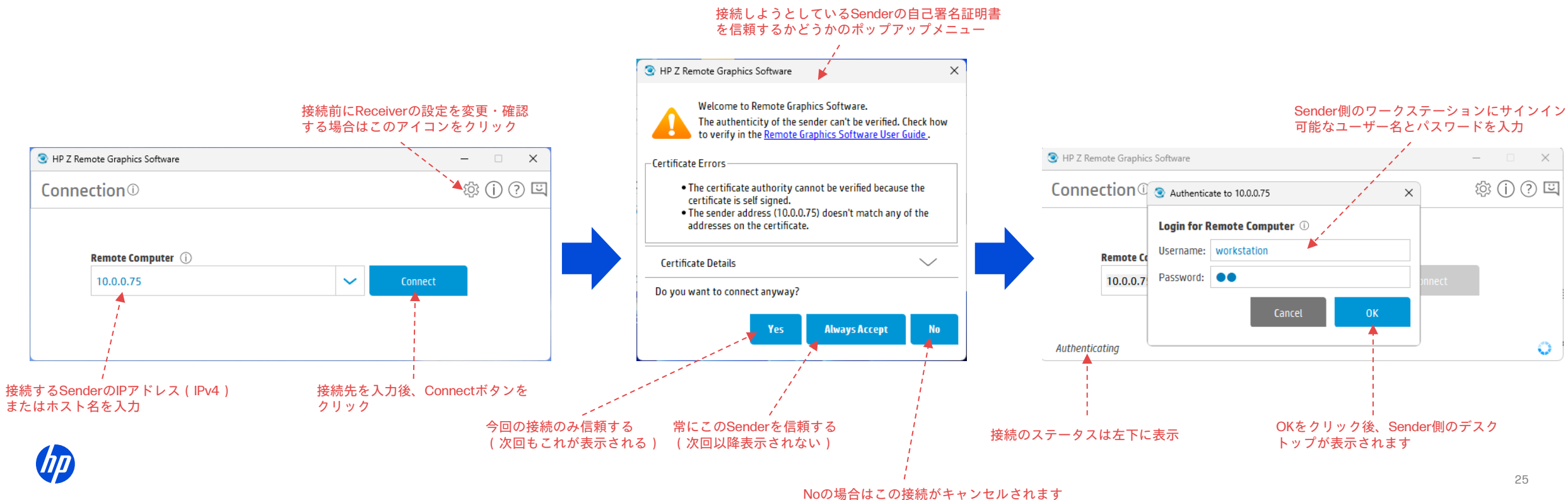
<01>

Receiverをインストールしたデバイスで「HP Z Remote Graphics Software Receiver」を起動します。
「Remote Computer」の欄にReceiverと通信可能な状態にあるSenderのIPアドレス (IPv4) またはホスト名を入力し「Connect」をクリックします。

初めて接続するSenderの場合、証明書に関するポップアップが表示されます。これはSender側の自己署名証明書に関する警告でReceiver側から見て信用できるSenderなのかを確認する内容になります。
「Yes」をクリックすると、次回接続時と同じポップアップが表示され、「Always Accept」の場合は次回以降表示されなくなります。「No」を選択した場合、この接続はキャンセルされます。
(※通常、社内LAN同士の接続の場合は、「Always Accept」で問題ありません)

続いて、Sender側 (ワークステーション) のOSにサインインするユーザーの情報が要求されますので、サインインしたいSender側のユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

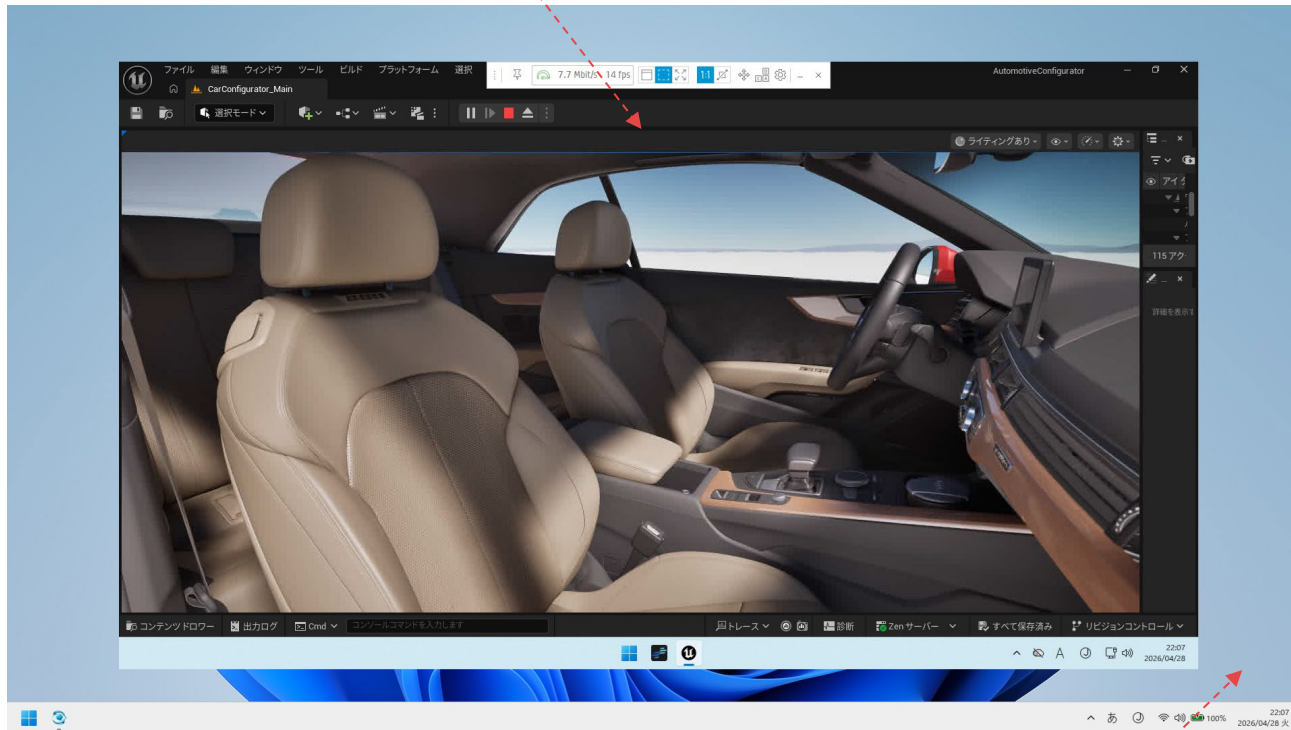
※レガシーのActive Directory環境の場合のユーザー名は「ドメイン名¥ユーザー名」となります。Entra ID (旧Azure AD) の場合は、「AzureAD¥メールアドレス」になります。
※Workgroup環境の場合、Senderへログオンするユーザーアカウントにはパスワード設定がされている必要があります。
※Senderとの通信にはデフォルトでTCP/UDP 42966番ポートが使用されます。社内のファイアウォールやエンドポイントセキュリティの設定許可が必要になる場合があります。



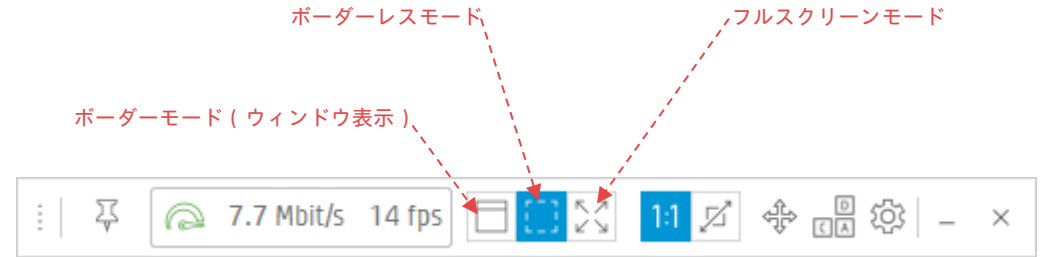
8-2. RGSの接続の流れ

<02> Senderのデスクトップ画面がReceiver側のモニターに表示され、操作可能になります。

Sender側 (ワークステーション) のデスクトップ画面



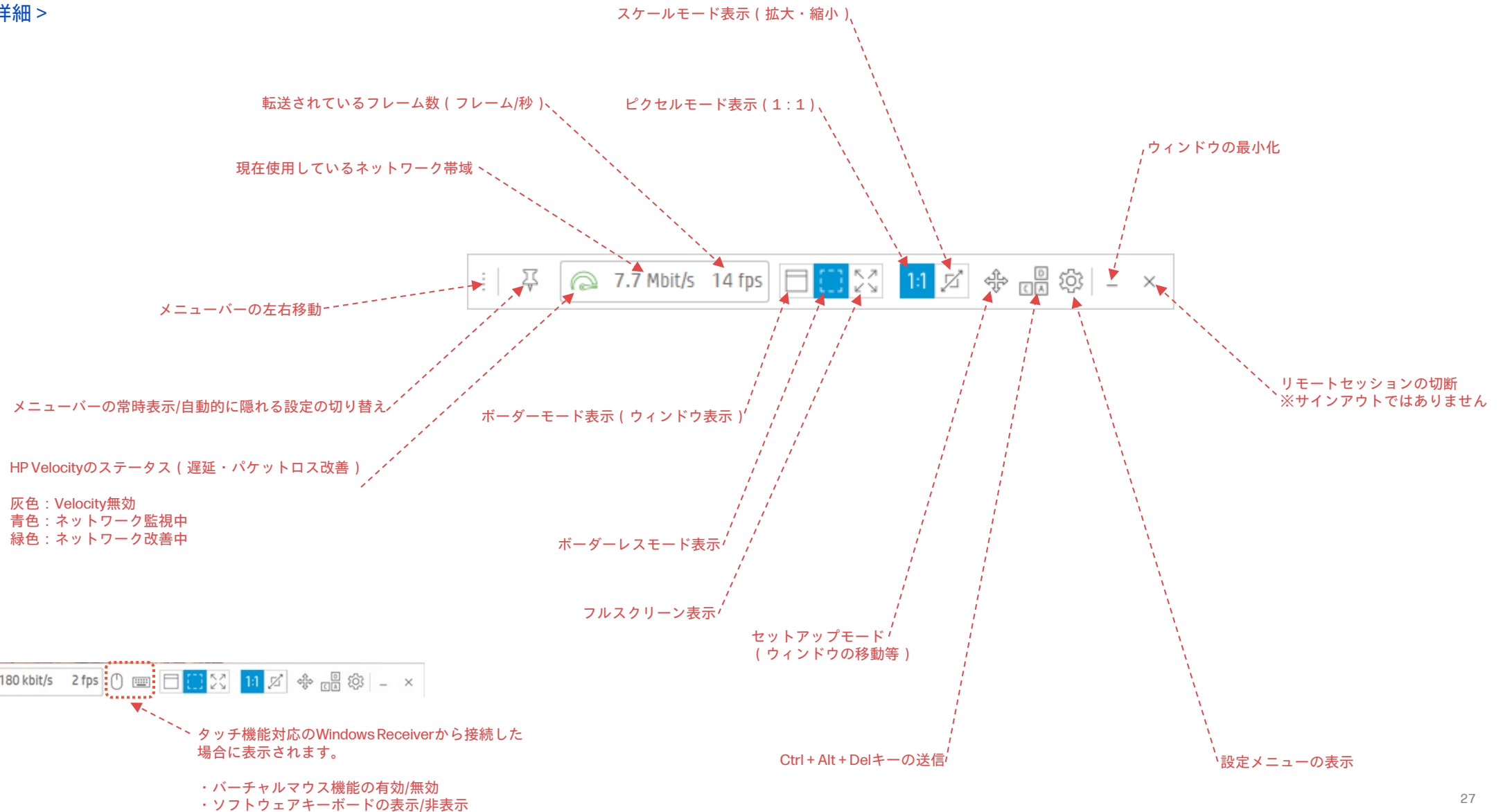
Receiver側のデスクトップ画面



デフォルトはウィンドウモードでデスクトップが表示されるため、表示モードをボーダーレスモードもしくはフルスクリーンモードへ切り替えると使いやすくなります。

8-3. RGSの接続の流れ

<メニューバーの詳細>



9-1. 代表的な機能の紹介

Advanced Video Compression (AVC)

より圧縮率の高いCODEC

H.264 CODECを使用し画像の差分情報をSender側で圧縮して送信。
Receiver側でH.264をデコードし、画像を表示します。

デフォルトのHP3 CODECに比べ、1/3~1/4程度のネットワーク帯域で画面転送ができます。通常はVPN経由など細い回線で使用する際にこの機能が役立ちます。

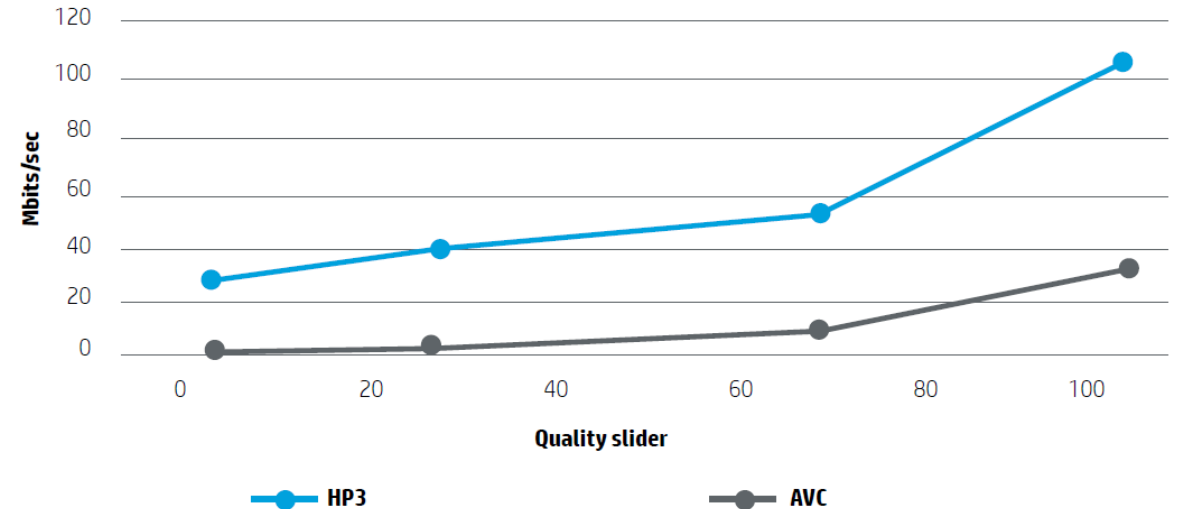
※Sender側はCPUエンコードまたはGPUエンコード、Receiver側はCPUデコードを行う関係上、HP3 CODECよりハードウェア要求仕様が高くなります。

※圧縮率を優先したCODECのため画質はHP3 CODECに劣ります。

※この機能を使うにはReceiver側のインターネット回線を使用し、アクティベーションが必要になります。

Bandwidth consumption vs. quality slider

(worst-case scenario with every pixel in constant change)



9-2. 代表的な機能の紹介

HP Velocity

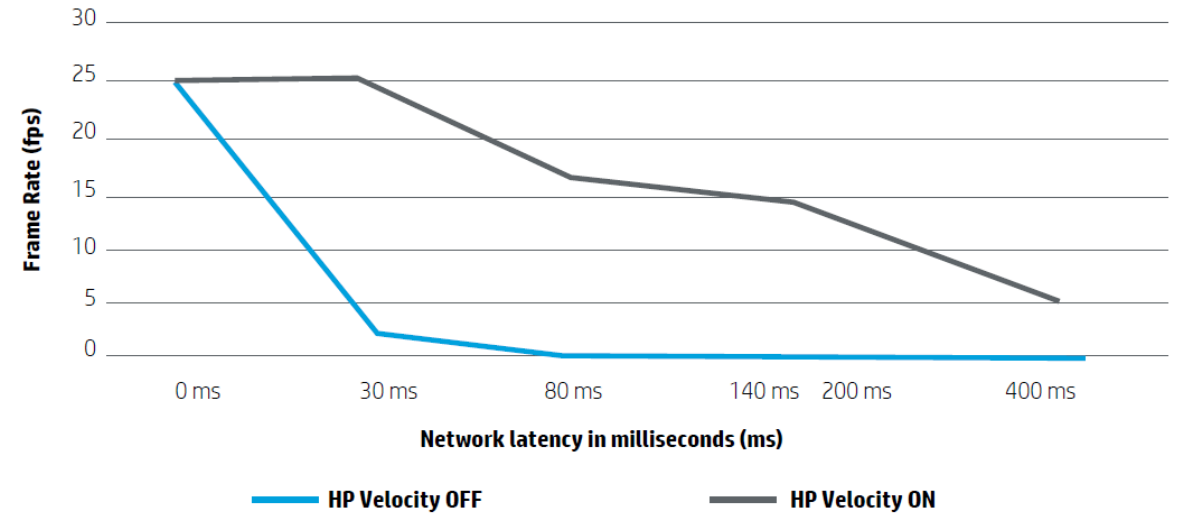
パケットロス改善・遅延改善

HP Velocityを使うことにより、ネットワークのパケットロス及び遅延の改善が行われ、条件が悪いネットワーク環境下でもSenderのデスクトップを快適に操作することができます。

右のグラフではネットワークの遅延が大きくなってもVelocityの機能によりフレームレートが落ちにくい（滑らかな表示ができる）ことを表しています。

Effect of HP Velocity on frame rates (fps)

RGS 7.0, Q=65, HP3 comp. 0.5% packet loss above 0 ms latency
(worst-case scenario with every pixel in constant change)



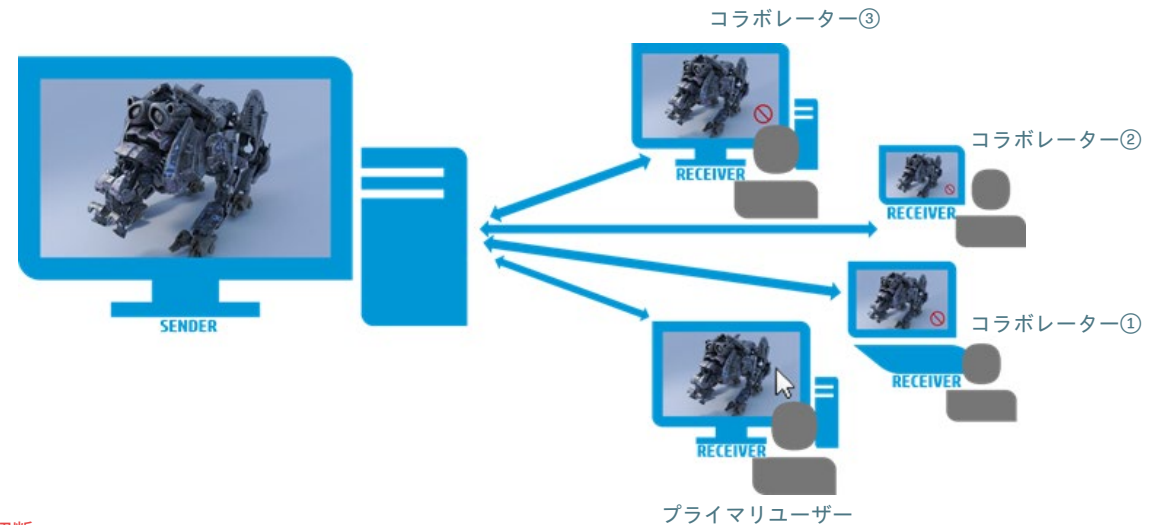
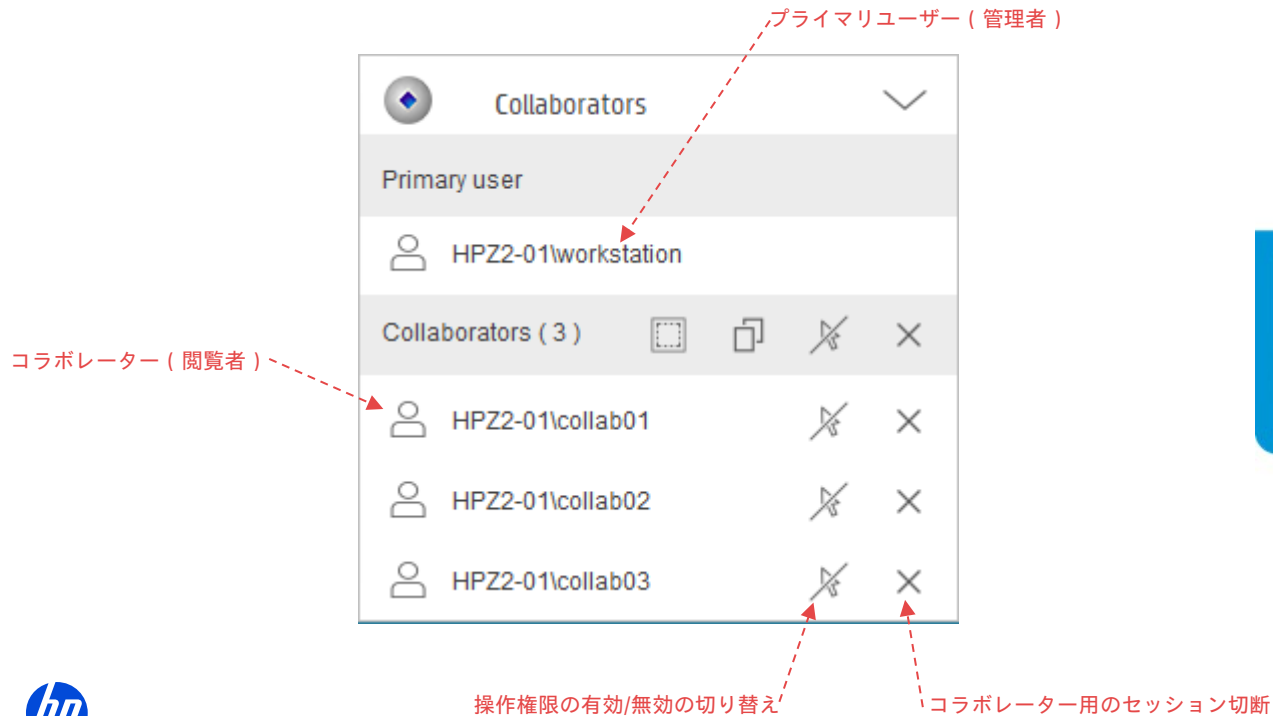
9-3. 代表的な機能の紹介

コラボレーション

Senderのデスクトップ画面を複数のReceiverで共有したり、操作させることができます。

ワークステーションで描画されている高負荷な3Dモデルの画面を共有し、ミーティングやトレーニング用途、3DCAD操作の遠隔サポートなどで有効活用できる機能です。

最初にワークステーションに接続したプライマリユーザーがGUIでコラボレーションユーザーのセッション管理、操作権限管理を行うことができます。

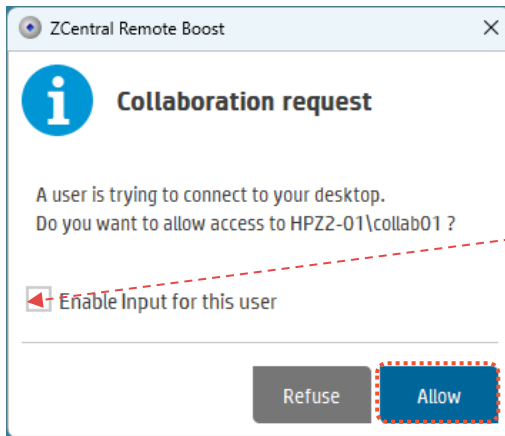


9-4. 代表的な機能の紹介

コラボレーション

◆コラボレーションの流れ

- ① 実際にデスクトップを使うユーザーアカウントでSender側のワークステーションへRGS接続 (このユーザーがプライマリユーザー)
- ② ①とは別のユーザーアカウントを使い、①と同じSenderへRGS接続 (このユーザーがコラボレーター)
- ③ プライマリユーザーの画面にウィンドウ表示されるので、「Allow」を押して許可する



「Enable Input for this user」にチェックを入れて「Allow」をクリックするとそのユーザーに操作権限 (マウス、キーボード) が付与された状態で画面共有されます。

- ④ コラボレーターにプライマリユーザーのデスクトップ画面が共有されます。
コラボレーション用メニューからユーザーの確認、操作権限の管理、セッションの管理が行えます。

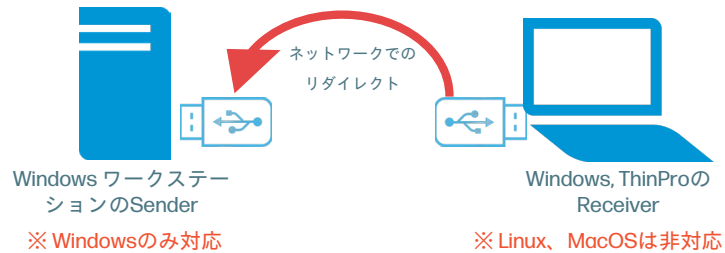
9-5. 代表的な機能の紹介

リモートUSB

Receiver側デバイスに挿入したUSB機器を仮想的にSender側ワークステーションへ挿入した形になるリモートUSB機能があります。

USBメモリやUSB接続のプリンターなど様々なデバイスのリダイレクトが可能です。

完全に無効にしたり、ファイルで定義することで使用できるUSB機器の制限をかけることもできます。



リモートクリップボード

ReceiverとSenderの双方で「テキスト情報」と「画像」の共有（コピーアンドペースト）が可能です。

例えばSender側のメモ帳でコピーした文字列をReceiver側PCで貼り付けたり、スクリーンショットやペイントなどの画像データも共有することができます。

※ ファイル自体をコピーアンドペーストすることはできません。

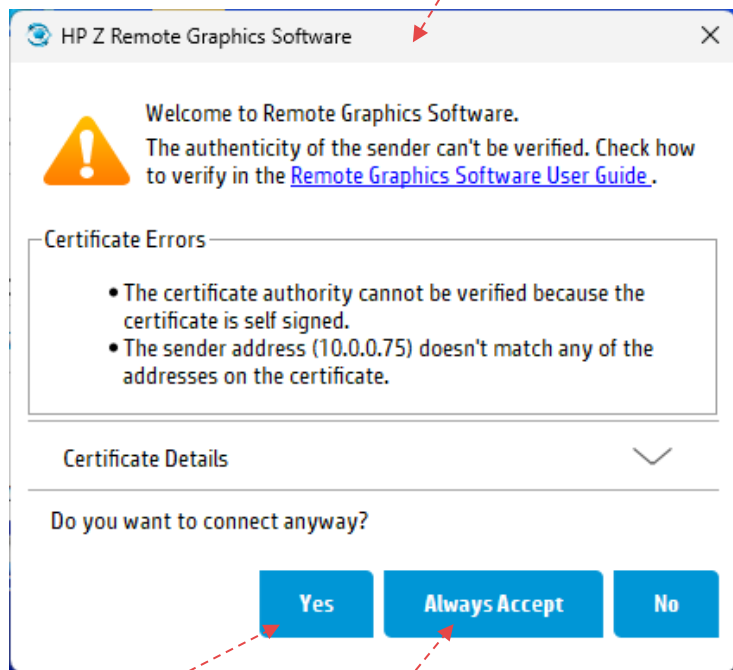
9-6. 代表的な機能の紹介

証明書機能

よりセキュアな接続を行うため、デフォルトで証明書機能が有効になっています。

ReceiverがSenderへ接続する際、Senderが信頼できるワークステーションかどうかを確認するポップアップメッセージが表示されます。

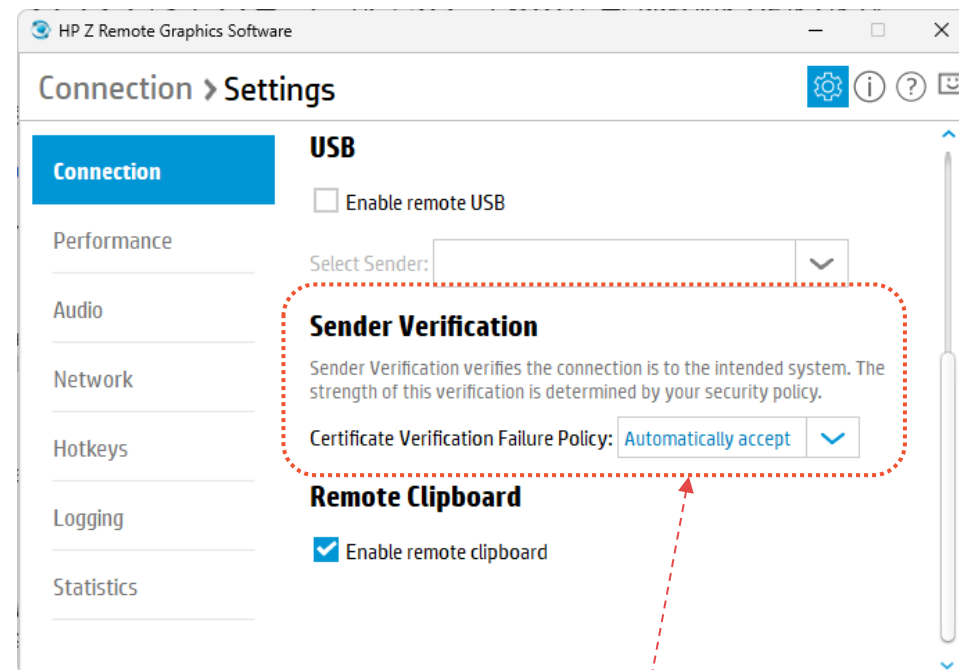
接続しようとしているSenderの自己署名証明書を信頼するかどうかのポップアップメニュー



今回の接続のみ信頼する
(次回もこれが表示される)

常にこのSenderを信頼する
(次回以降表示されない)

※通常はこの設定で構いません



全てのSenderを信頼し、ポップアップメッセージを表示させない場合は、Receiverの設定メニューで「Automatically accept」に変更



10-1. 設定メニューの解説 (Receiver)

Connectionタブ

◆ Prompt for username and password

チェックオンで接続開始時にReceiverのポップアップウィンドウでユーザー名、パスワードの入力を毎回求めるようになります。

◆ Do not change the Sender display(s)

Sender側で設定されているモニターの解像度、レイアウトを変更せずそのままReceiver側へ画面転送されます。

◆ Set Sender display(s) to match Receiver display(s)

Receiver側のモニターの解像度、レイアウトに合わせてSender側のモニターレイアウトが自動的に変更されて画面転送されます。

◆ Enable remote USB

チェックオンでリモートUSB機能が有効になります。(Sender側も有効が必要)
複数のSenderへ同時接続している場合、「Select Sender」よりリダイレクトさせるSenderを選択できます。

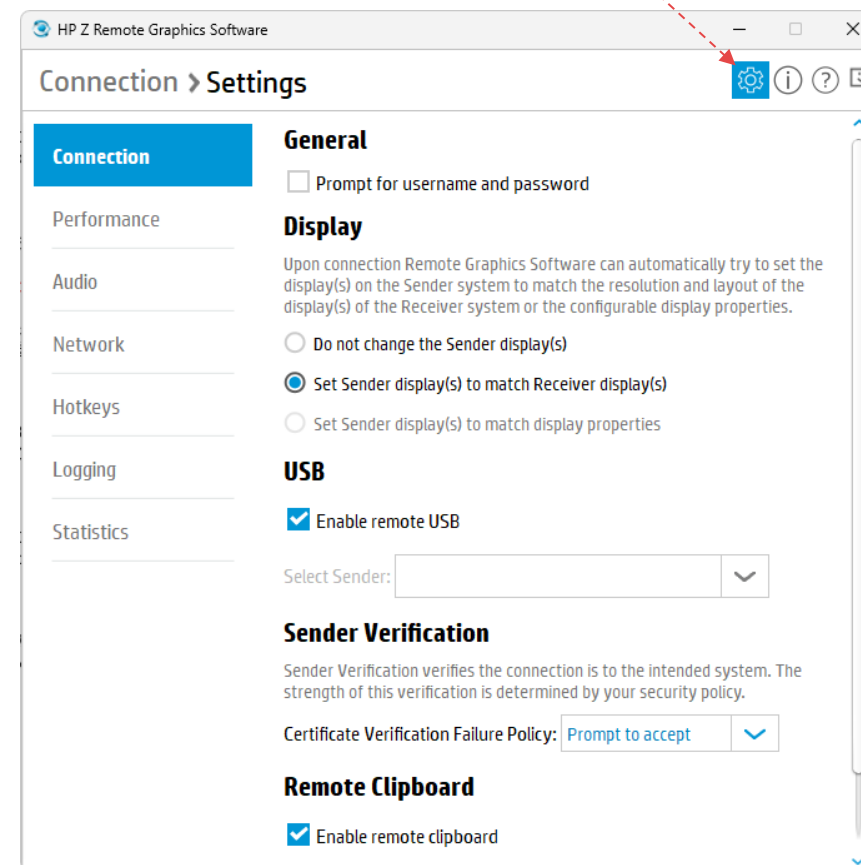
◆ Certificate Verification Failure Policy

よりセキュアな運用のために信頼したSenderとのみ接続ができるようにする機能です。デフォルトは「Prompt to accept」で接続時にポップアップが表示されます。

◆ Enable remote clipboard

クリップボードの有効/無効の切り替えを行います。使用する場合はSender側でも有効になっている必要があります。共有できるのはテキストデータ、画像データでファイルの共有はできません。

Receiverを起動し、右上の歯車のアイコンをクリックすると設定メニューが表示されます。



10-2. 設定メニューの解説 (Receiver)

Performanceタブ

◆ Enable HP Velocity

チェックオンでVelocityが有効になります。ネットワークを監視し、パケットロスや遅延が発生している場合はネットワーク環境の改善を行います。

◆ Enable Advance Video Compression on Sender

チェックオンでAVC (H.264を使った画像圧縮機能) が有効になります。デフォルトのHP3 CODECより高い圧縮率で画面転送ができるためネットワーク帯域が節約できます。細いネットワーク環境下で使うことを想定した機能です。デフォルトのHP3から切り替えるにはSenderへ接続前にこの項目にチェックを入れた状態で接続します。また、初回のみReceiver側からインターネット経由でこの機能のアクティベーションが必要となります。

◆ Image Quality

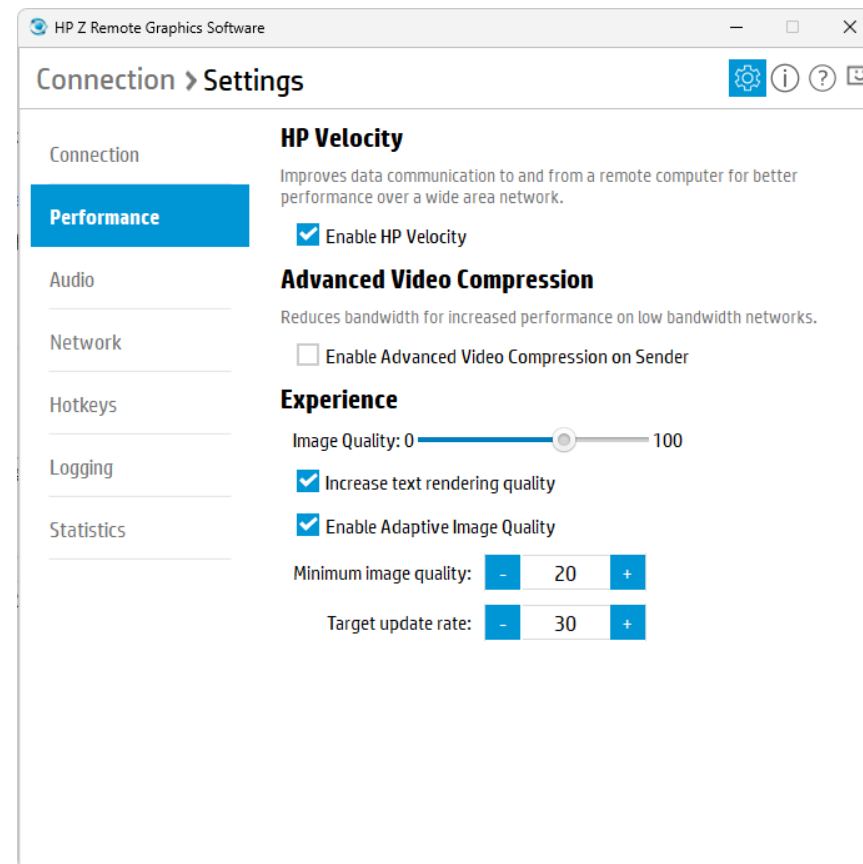
スライダーを操作することで画質の設定ができます。下限が0、上限が100で0に近いほど低画質になりネットワーク消費量が減り、100に近いほど高画質になりますがネットワーク消費量が増大します。

◆ Increase text rendering quality

チェックオンで文字のレンダリング品質が向上し、見やすくなります。こちらはHP3 CODEC利用時のみ有効にできます。AVC利用時にはご利用いただけません。

◆ Enable Adaptive Image Quality

チェックオンで最小の画質、目標とするフレームレート (1秒あたりに転送する画像の枚数) の設定ができます。こちらもAVC利用時にはご利用いただけません。「Minimum image quality」で最小の画質の設定、「Target update rate」で目標とするフレームレートの設定ができます。



10-3. 設定メニューの解説 (Receiver)

Audioタブ

◆ Stream audio from Sender

チェックオンでSender側ワークステーションで再生されているオーディオをReceiver側デバイスでも再生します。

◆ Stereo

チェックオンでステレオでオーディオを再生します。チェックオフはモノラルになります。

◆ Quality

オーディオの音質を3種類から選択できます「Low (11 KHz)」、「Medium (22 KHz default)」、「High (44 KHz CD Quality)」音質が上がれば使用されるネットワーク帯域も増えます。

◆ Audio follows focus

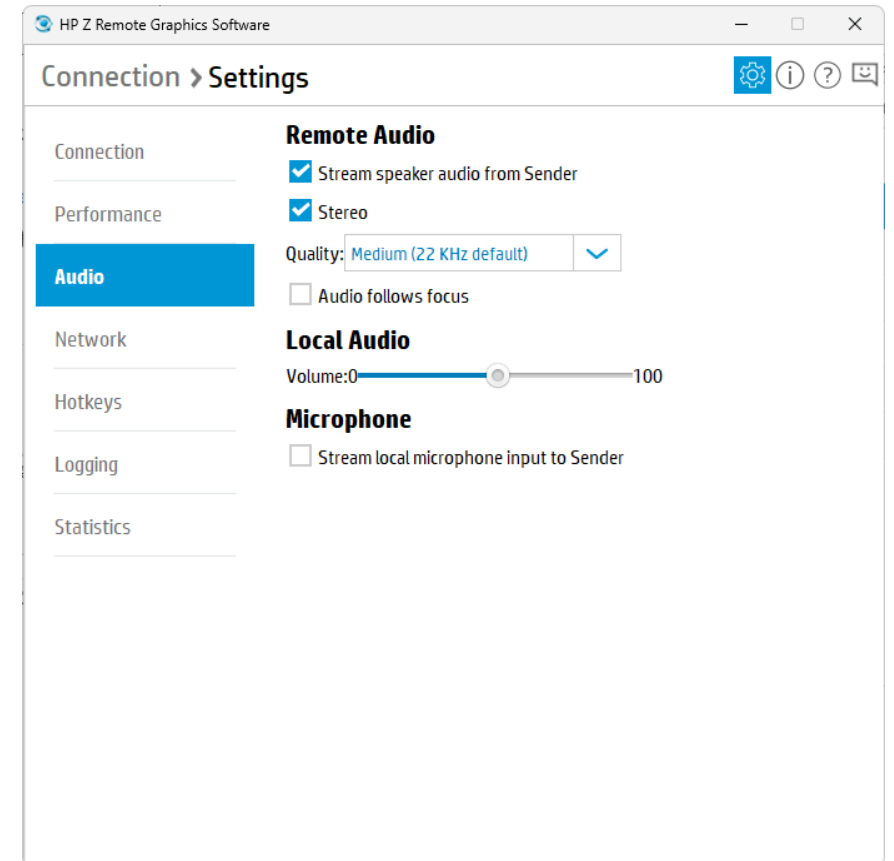
チェックオンでReceiverのウィンドウがアクティブな時のみ、Sender側のオーディオが再生されます。

◆ Local Audio

Receiver側のボリューム設定、最小が0 (消音)、最大が100になります。

◆ Stream local microphone input to Sender

チェックオンでReceiver側に接続されているマイクデバイスがSender側の仮想マイクデバイスとして認識され、マイクが利用できます。



10-4. 設定メニューの解説 (Receiver)

Networkタブ

◆ Error

既定値30秒。Senderから指定秒数応答がなかった場合にエラーになり、Senderから切断されます。

◆ Warning

既定値2秒。Senderから指定秒数応答がなかった場合、画面全体がピンク色になり警告表示されます。

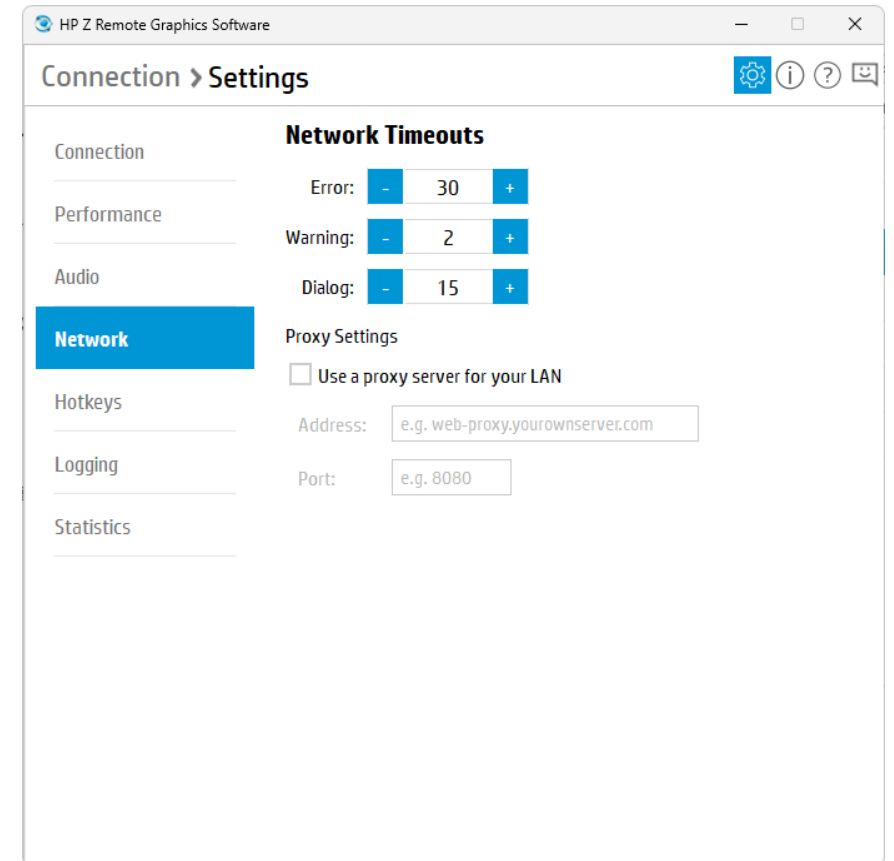
◆ Dialog

既定値15秒。Senderから指定秒数応答がなかった場合、ダイアログメッセージが表示されます。

◆ Use a proxy server for your LAN

AVCを利用時に初回のみインターネット経由でのアクティベーションが必要になります。Receiver側のデバイスがインターネット接続する場合にプロキシサーバーが必要な際に利用する機能です。チェックオンでプロキシサーバーを使う設定になり、「Address:」にはプロキシサーバーのホスト名もしくはIPアドレス、「Port:」にはポート番号を入力します。

※PACやWPAC形式のプロキシには対応していません。



10-5. 設定メニューの解説 (Receiver)

Hotkeysタブ

◆ Send First Key

チェックオンでローカル ホットキー シーケンスの最初のキーをSender側ワークステーションへ強制的に送信します。

◆ Send CTRL-ALT-END key sequence as CTRL-ALT-DEL

チェックオンでReceiver側キーボードで入力した「Ctrl+Alt+End」キーをSender側に「Ctrl+Alt+Del」として送信します。

◆ Key Repeat

チェックオンでShiftキーを長押ししているときにShiftキーが連続して入力されるようになります。既定はオフでShiftキーを長押しした状態でSpaceキーを押すとセットアップモードに移行します。

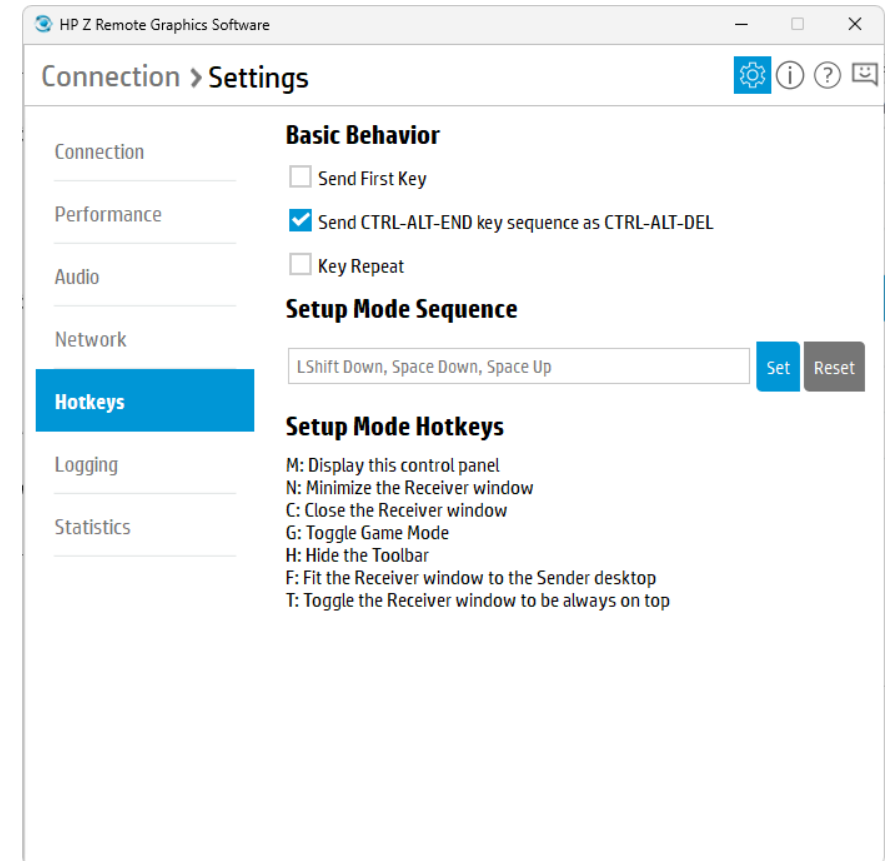
◆ Setup Mode Sequence

セットアップモードに入るショートカットキーの設定ができます。デフォルトでは左Shiftキー長押しした状態でSpaceキーを押して離すとセットアップモードに入ります。(※セットアップモード中にはSenderの画面が薄暗く表示されます)

◆ Setup Mode Hotkeys

セットアップモード中に以下のキーを押すことで対応したアクションが実行されます。

- M : Receiverの設定メニューを表示します
- N : Senderのウィンドウを最小化します
- C : RGSのセッションを切断します
- G : ゲームモード (Sender側のマウスカーソルをそのまま表示) の切り替え
- H : Senderウィンドウ上部のツールバーを非表示/表示の切り替え
- F : ReceiverのウィンドウをSenderのデスクトップに合わせます
- T : Senderのウィンドウを常に手前に表示します



10-6. 設定メニューの解説 (Receiver)

Loggingタブ

◆Enable message logging

チェックオンでReceiverのログの記録が有効になります。

◆Log file path

ログファイルの保存場所を指定できます。

◆Log level

記録するログのレベルをプルダウンから選べます。

◆Max logfile size (KB)

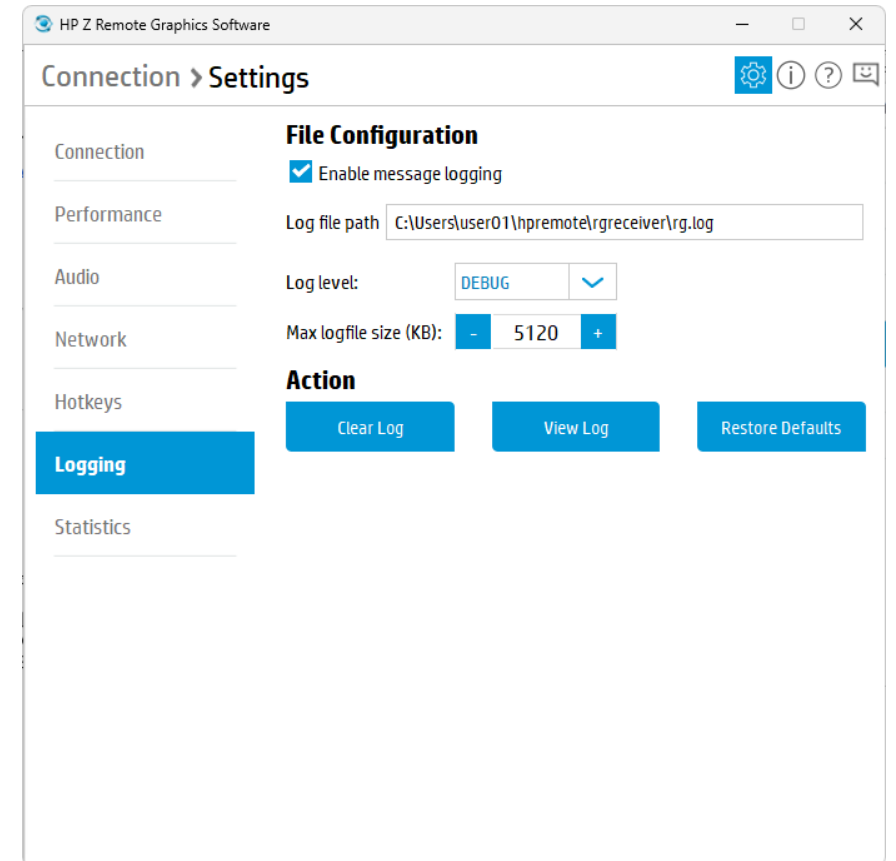
記録するログファイルの最大ファイルサイズを指定できます。

◆Action

Clear Log : ログファイルを削除します。

View Log : ログファイルを閲覧します。

Restore Defaults : デフォルト設定に戻します。



10-7. 設定メニューの解説 (Receiver)

Statisticsタブ

◆ Total network usage (Mbits/sec)

Senderとの通信で使用しているネットワーク消費量 (Mbps)

◆ Image updates per second

表示しているフレームレート (1秒あたり)

◆ Current network loss with HP Velocity

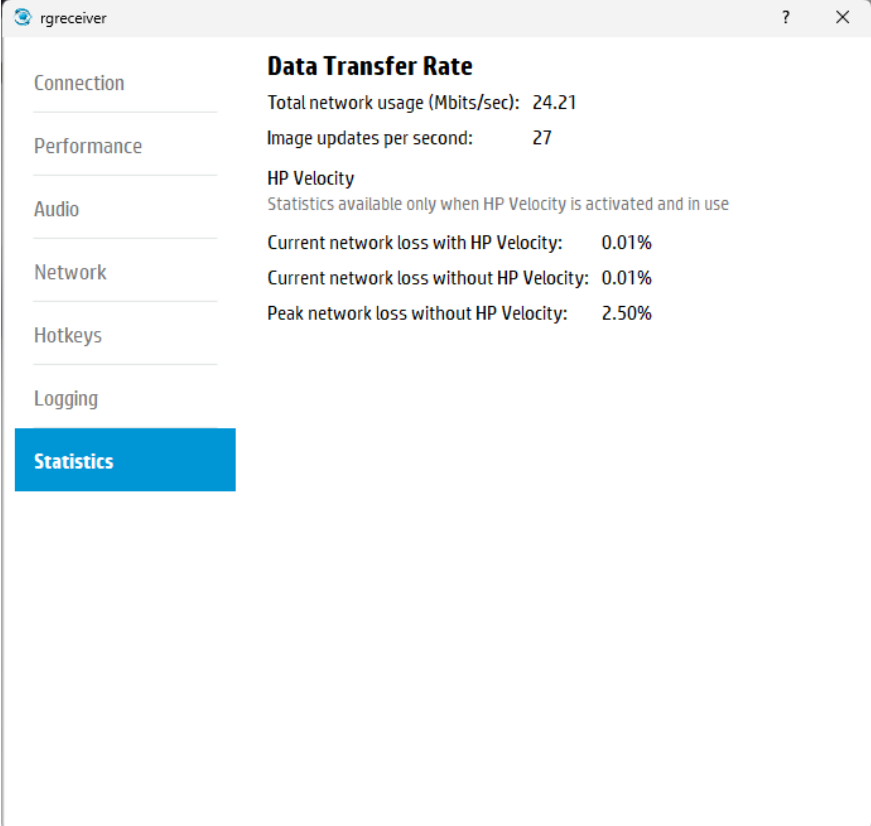
Velocityを使用した際の現在のネットワークロスの割合

◆ Current network loss without HP Velocity

Velocityを使用しない場合のネットワークロスの割合

◆ Peak network loss without HP Velocity

Velocityを使用しない場合の最大ネットワークロスの割合



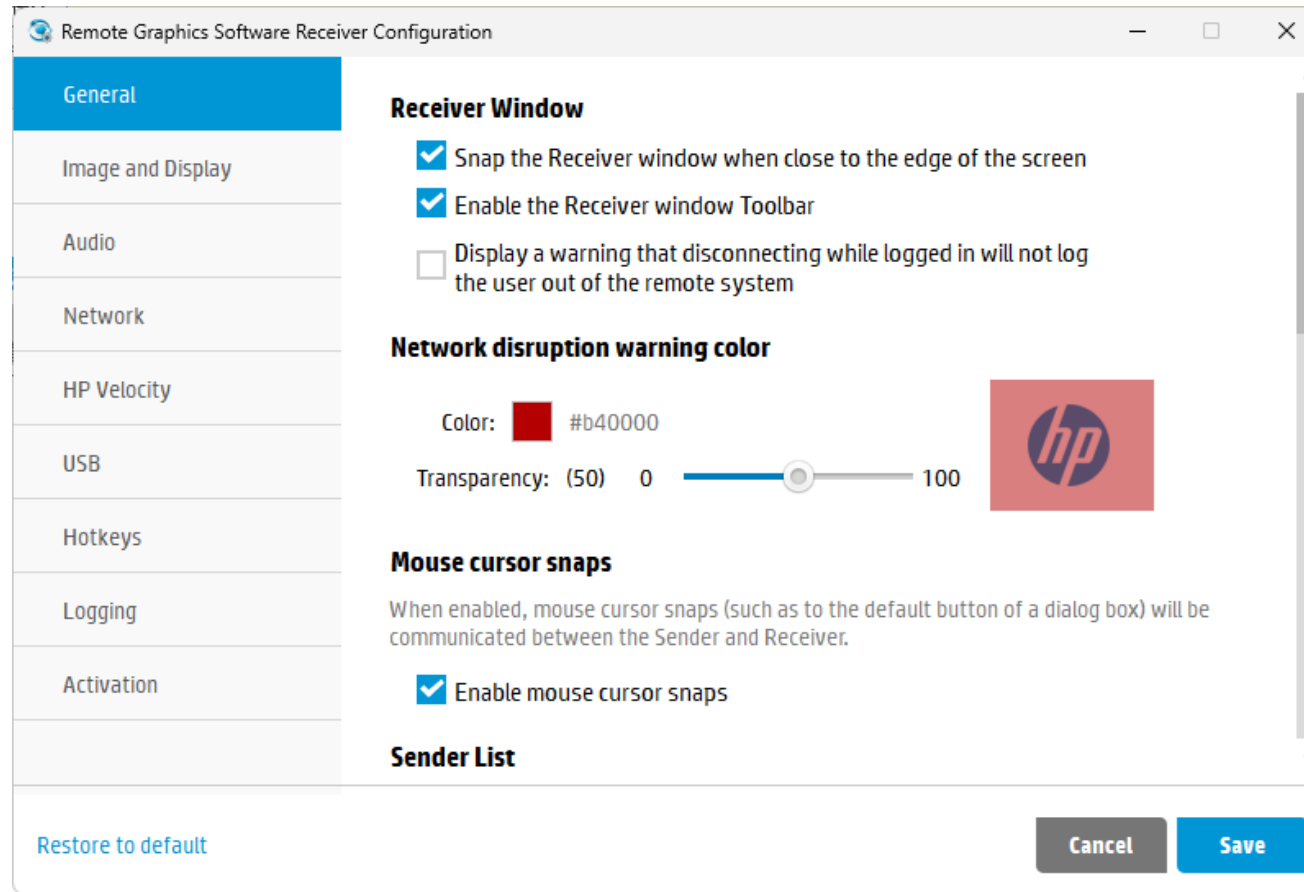
The screenshot shows the 'rgreceiver' application window with the 'Statistics' tab selected. The window title is 'rgreceiver'. The left sidebar contains a menu with the following items: Connection, Performance, Audio, Network, Hotkeys, Logging, and Statistics (which is highlighted in blue). The main content area displays the following data:

Data Transfer Rate	
Total network usage (Mbits/sec):	24.21
Image updates per second:	27
HP Velocity	
Statistics available only when HP Velocity is activated and in use	
Current network loss with HP Velocity:	0.01%
Current network loss without HP Velocity:	0.01%
Peak network loss without HP Velocity:	2.50%

10-8. 設定メニューの解説 (Receiver)

Receiver側の詳細設定メニュー「ReceiverConfigApp」

Receiverのより詳細な設定が可能なGUIが用意されています。デフォルトでは「C:\Program Files\HP\Remote Graphics Receiver」以下に「ReceiverConfigApp.exe」が格納されており、起動には管理者権限が必要になります。AVC利用時のSender側でエンコードに使うリソースの設定 (CPU or GPU) など他にも多くの設定が可能です。



10-9. 設定メニューの解説 (Sender)

Sender側の詳細設定メニュー「SenderConfigApp」

Senderの設定変更は「SenderConfigApp.exe」で行います。デフォルトでは「C:\Program Files\HP\Remote Graphics Sender」以下にEXEが格納されており、起動には管理者権限が必要になります。

Generalタブ

◆ End the session and disconnect all collaborators when the primary user logs out

チェックオンでコラボレーションモード時にプライマリユーザーのセッションが切れた場合は、他のコラボレーションユーザーのセッションも切断されます。

◆ Enable session reconnection after logout or fast user switching

チェックオンでサインアウトまたはユーザー切り替え後の再接続が有効になります。

◆ Enable monitor blanking on Sender computer when a remote user connects

チェックオンでRGS接続時にSender側ワークステーションに繋がっているモニターはブラックアウトし、マウスカーソルのみが表示されます。オフでRGS接続時にブラックアウトせずReceiverと同じ映像がモニターに表示されます。

◆ Enable Remote Audio

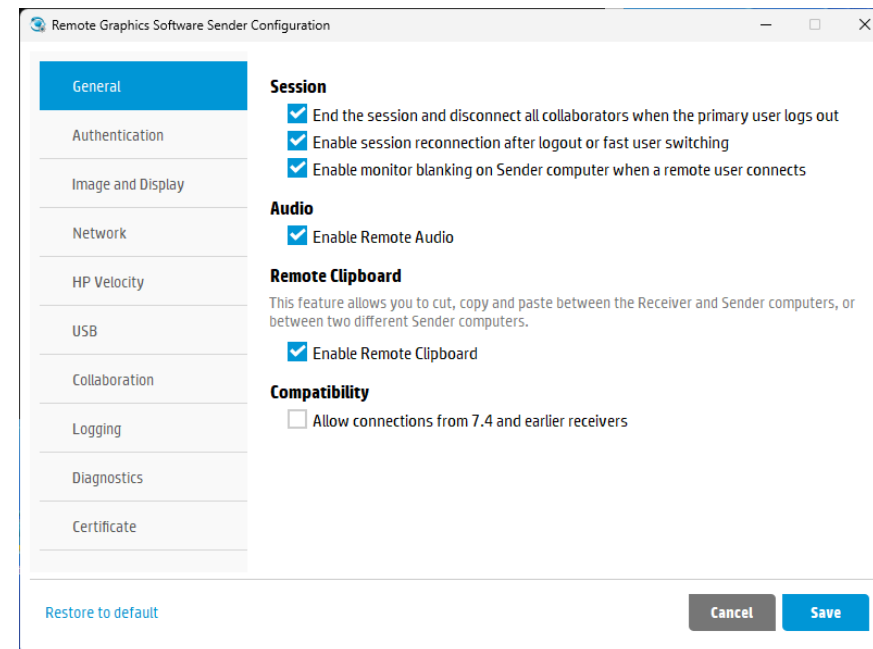
チェックオンで音声をReceiver側に送信します。Receiver側でもリモートオーディオが有効になっている必要があります。

◆ Enable Remote Clipboard

チェックオンでクリップボードが有効になります。Receiver側でもクリップボードが有効になっている必要があります。

◆ Allow connection from 7.4 and earlier receivers

チェックオンでRGSバージョン7.4以前のReceiverからの接続を有効にします。



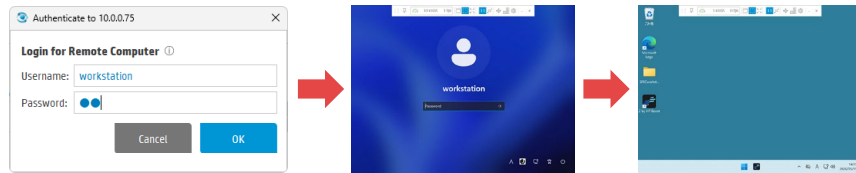
10-10. 設定メニューの解説 (Sender)

Authenticationタブ

Senderへ接続する際にユーザー認証方式の切り替えができます。

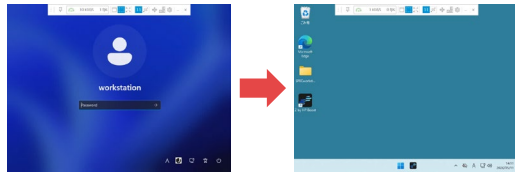
◆ Use standard authentication

標準の認証方式です。Senderへ接続時にReceiver側で認証用のポップアップが表示され、更にWindowsのサインイン画面も表示され、ユーザー名とパスワードを合計2回入力する必要があります。



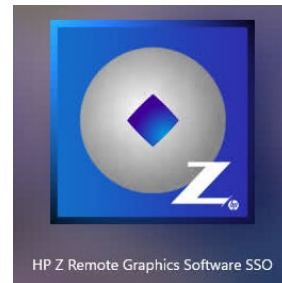
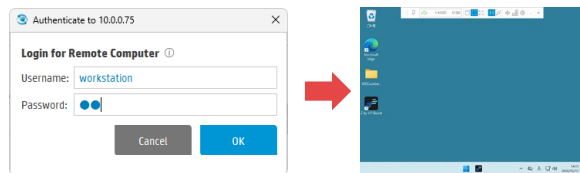
◆ Use Easy Logon

ポップアップの認証画面が表示されず、いきなりWindowsのサインイン画面が表示され、サインインしたいユーザー名とパスワードでサインインします。

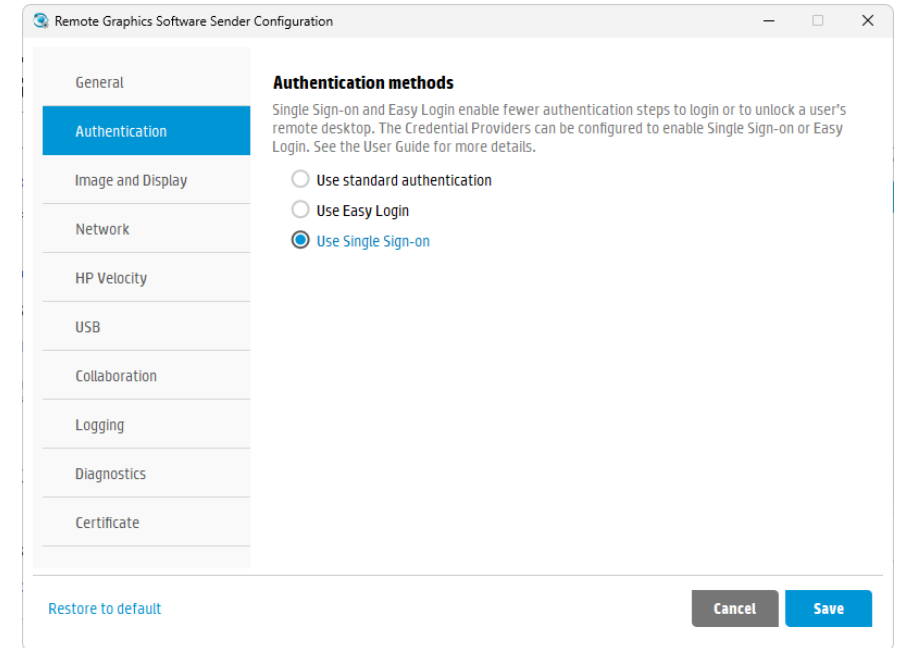


◆ Use Single Sign-on

ポップアップに認証情報を入力するとすぐにデスクトップが表示されます。



シングルサインオンモードの場合、Windowsのサインイン画面に「HP Z Remote Graphics Software SSO」というアイコンが表示されますが、こちらはユーザーアカウントではありません。



10-11. 設定メニューの解説 (Sender)

Image and Displayタブ

◆ Maximum number of cores

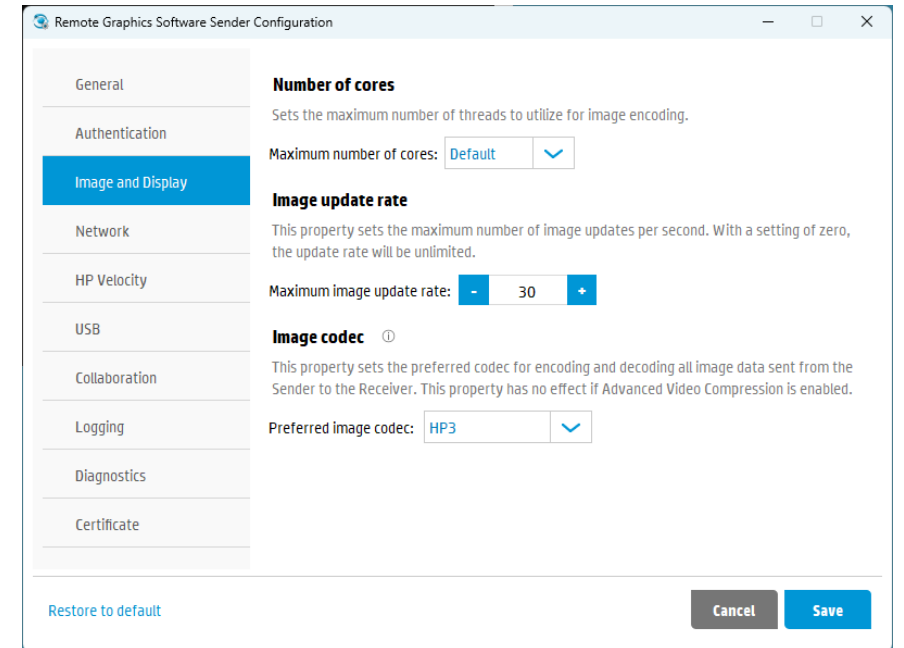
Sender側で画像を圧縮する際に使用するCPUコア数を「Default (全コア)」、「1」、「2」、「4」、「8」から設定できます。

◆ Maximum Image update rate

SenderからReceiverへ転送する1秒当たりの最大フレーム数を設定できます。デフォルトは30フレーム/秒で、上限はありません。

◆ Image codec

画像のCODECを「HP3」、「Lossless (JPEG-LS)」から選択できます。
デフォルトはHP3ですが、劣化のない鮮明な画質で画面転送されたい場合はLosslessに変更して下さい。
(※ネットワーク帯域は増加します)



10-12. 設定メニューの解説 (Sender)

Networkタブ

◆ Error timeout(seconds)

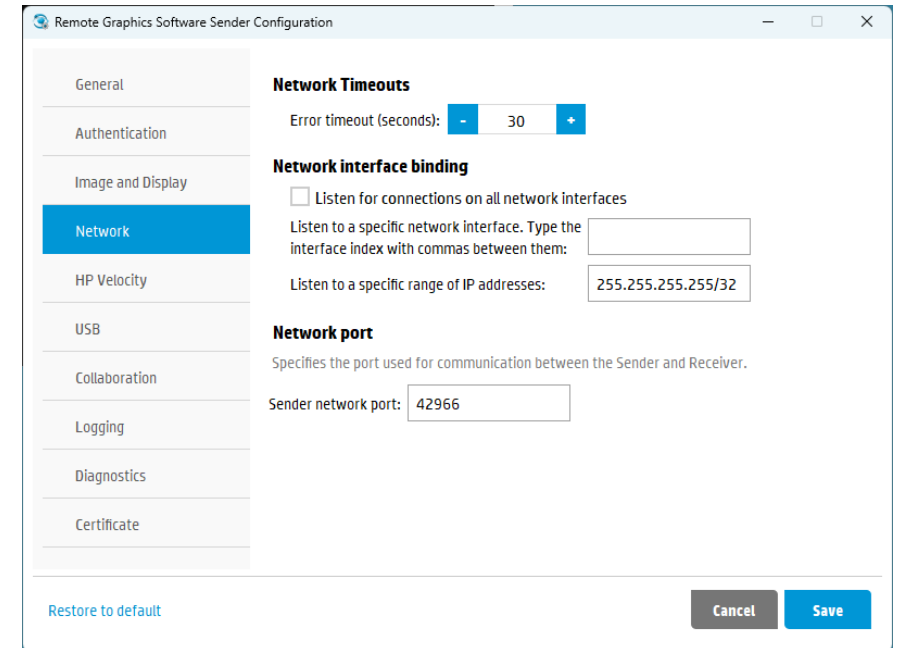
リモート接続がタイムアウトするまでの秒数を指定できます。

◆ Listen for connections on all network interfaces

チェックオン (デフォルト) でSender側ワークステーションの全てのネットワークアダプタ経由でRGS接続ができます。チェックをオフにし、ネットワークアダプタやネットワークアドレスなどで制限をかけることもできます。

◆ Networkポート

SenderとReceiverの間のRGS接続で使うポート番号を変更できます。デフォルトは42966番になります。変更した場合、ReceiverからそのSenderへ接続する際の宛先には「IPアドレス or ホスト名:変更後のポート番号」を追加で入力する必要があります。

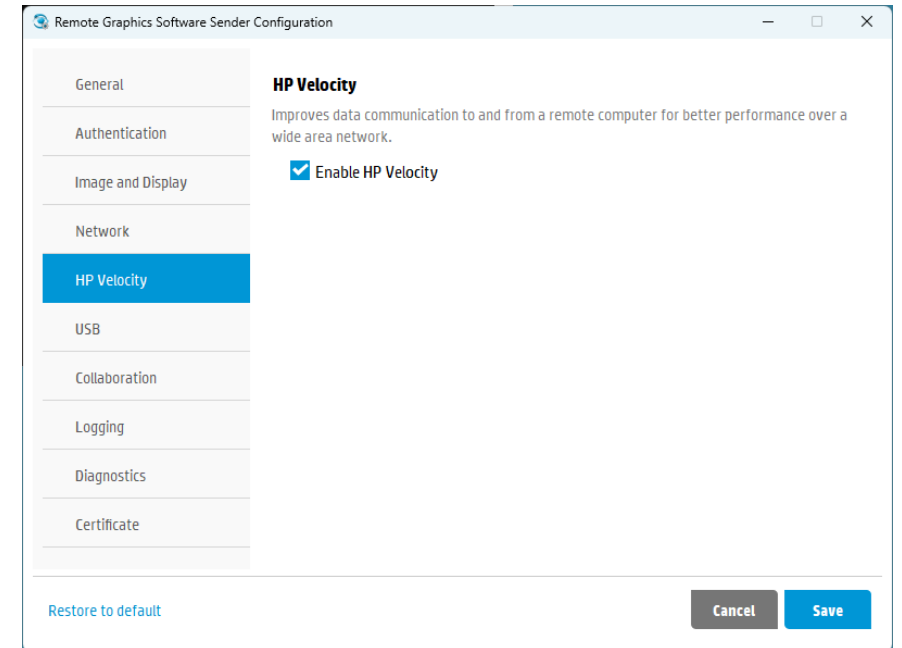


10-13. 設定メニューの解説 (Sender)

HP Velocityタブ

◆ Enable HP Velocity

チェックオンでHP Velocityでの接続を許可します。HP Velocityを利用するにはReceiver側でも有効にしておく必要があります。



10-14. 設定メニューの解説 (Sender)

USBタブ

デフォルトではリモートUSB利用時、使用できるUSBデバイスに制限は掛けられていませんが、ACLの設定をすることでベンダーIDやデバイスIDなどでリモートUSBを許可する、禁止するなどの制限をかけることができます。

◆ ACL file name (XML)

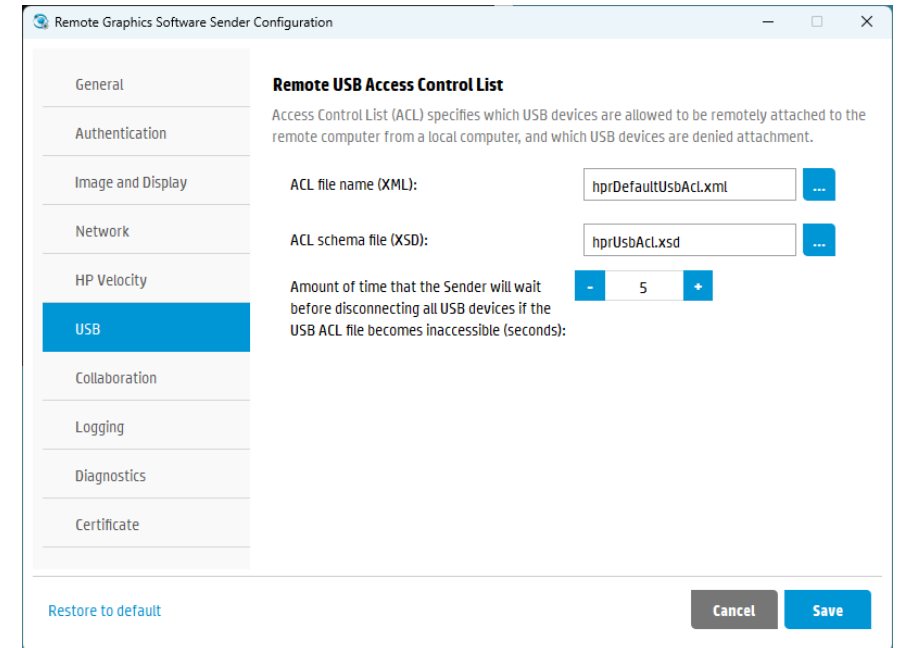
ACL (Access Control List) のXMLファイル名を指定します。

◆ ACL schema file (XSD)

ACLスキーマのXSDファイル名を指定します。

◆ Amount of time that the Sender will wait~

ACLファイルにアクセスできなくなったりした場合に、SenderがすべてのUSBデバイスを切断する前に待機する時間を秒単位で設定します。タイムアウト期間が経過する前にファイルが復元された場合、USBデバイスは接続されたままになります。(デフォルトは5秒)



10-15. 設定メニューの解説 (Sender)

Collaborationタブ

◆ Display list of users connected to the remote computer

チェックオンでコラボレーション有効時、ユーザー一覧情報や捜査権限の管理、セッションの切断ができるメニューを表示します。オフの場合、このメニューは表示されません。

◆ Automatically give permission for authorized collaborators to join the session

チェックオンでコラボレーションに入ってきたユーザーにSenderの操作権限を自動的に付与します。デフォルトはオフで画面の閲覧のみ可能です。

◆ Deny collaboration request after (seconds)

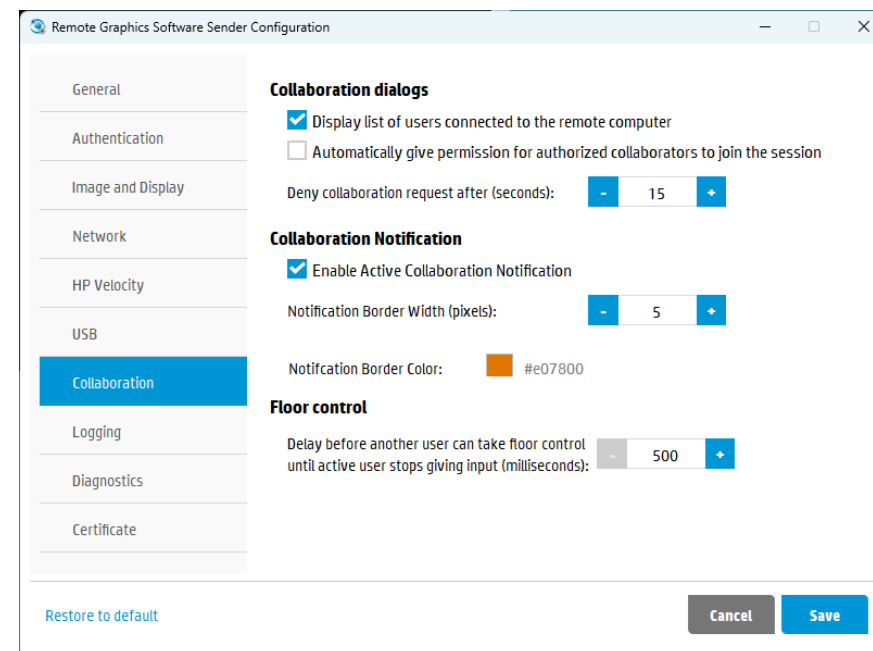
コラボレーションの接続許可のポップアップを表示する時間を秒単位で設定します。指定した時間が経過した場合はコラボレーションが自動的に拒否され切断されます。

◆ Enable Active Collaboration Notification

チェックオンでコラボレーション有効時にSender画面の外枠に線が表示されます。デフォルトで5ピクセルのオレンジ色の線が四角で表示されます。「Notification Border Width (pixels)」で線の太さをピクセル単位で指定し、「Notification Border Color」で線の色を指定できます。

◆ Delay before another user can take floor control

コラボレーション有効時、複数のユーザーが操作できる場合、最後に操作を行ってから何秒後に他のユーザーが操作可能になるかの秒数 (ミリ秒) を設定できます。



10-16. 設定メニューの解説 (Sender)

Loggingタブ

◆ Log Level

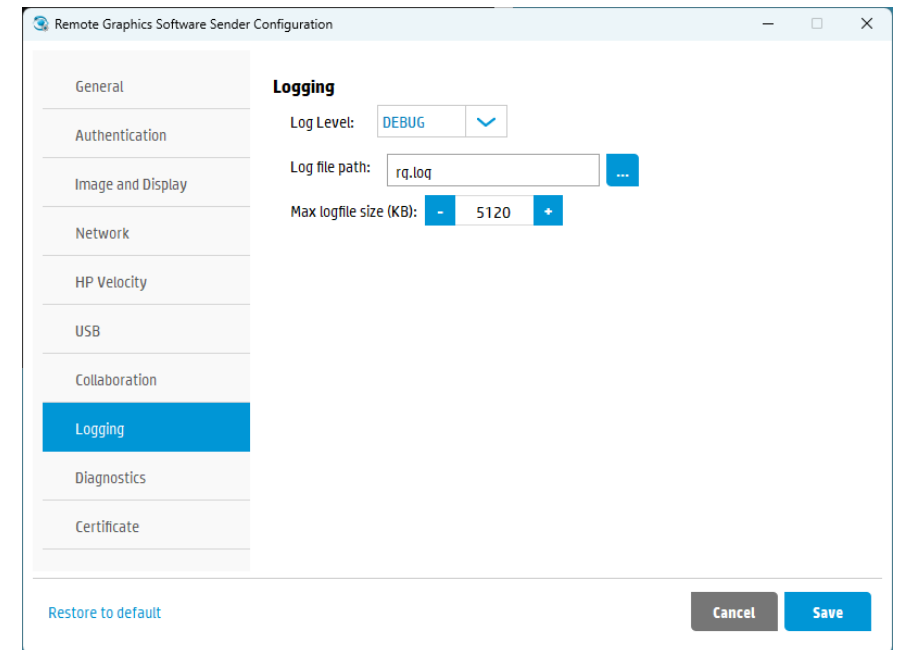
記録するログレベルを指定します。「DEBUG (デフォルト)」、「ERROR」、「WARN」、「INFO」、「FATAL」

◆ Log file path

ログの保存場所を指定します。デフォルトは「C:\Program Files\HP\Remote Graphics Sender」以下に「rg.log」というファイル名で保存されます。

◆ Max logfile size (KB)

ログファイルの最大サイズを指定します。最大サイズを超えた場合、古いログが削除されます。



10-17. 設定メニューの解説 (Sender)

Diagnosticsタブ

Sender側の診断結果が表示されます。Receiver側から接続できない場合、この診断テストを実施し、Senderの状態を確認してみてください。

◆ Windows Firewall

ファイアウォールがRGSの通信ポート（主にTCP 42966など）を正しく許可しているかをチェック。ブロックされていると接続できません。

◆ Force Guest

Windowsの「Guestアカウントでの強制ログイン」ポリシーが無効になっているを確認。セキュリティ上、Guestログインを無効化しておくためのチェックです。

◆ Multiple Sessions

複数のReceiverから同時にSenderに接続（コラボレーション機能）できるかどうかをテスト。

◆ Single Sign-on

シングルサインオン（SSO）が利用可能かをチェック。Windowsドメイン環境で、Receiver側で入力した認証情報をSenderに自動的に渡せる機能です。

◆ Easy Login

Easy Login（簡易ログイン）が正しく設定されているを確認。SSOや標準ログインが有効な場合にはチェックされません。

◆ Service dependencies

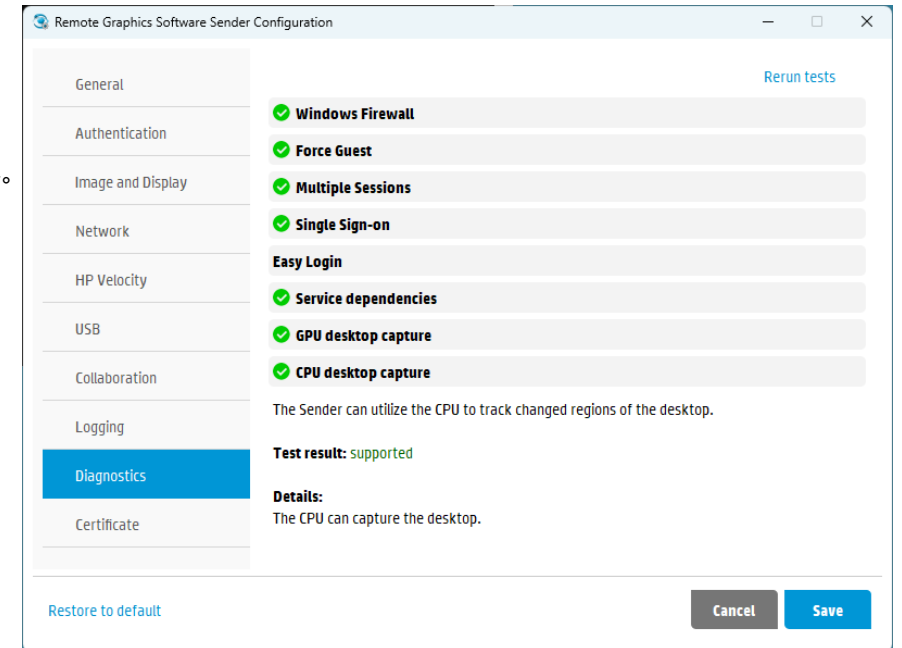
Senderサービスが依存するWindows関連のサービスが正しく起動・依存関係が整っているかを診断。

◆ GPU desktop capture

GPUを使ったデスクトップキャプチャが利用可能かをチェック。

◆ CPU desktop capture

CPUを使ったデスクトップキャプチャが利用可能かをチェック。



10-18. 設定メニューの解説 (Sender)

Certificateタブ

Sender側の診断結果が表示されます。Receiver側から接続できない場合、この診断テストを実施し、Senderの状態を確認してみてください。

◆ Automatic

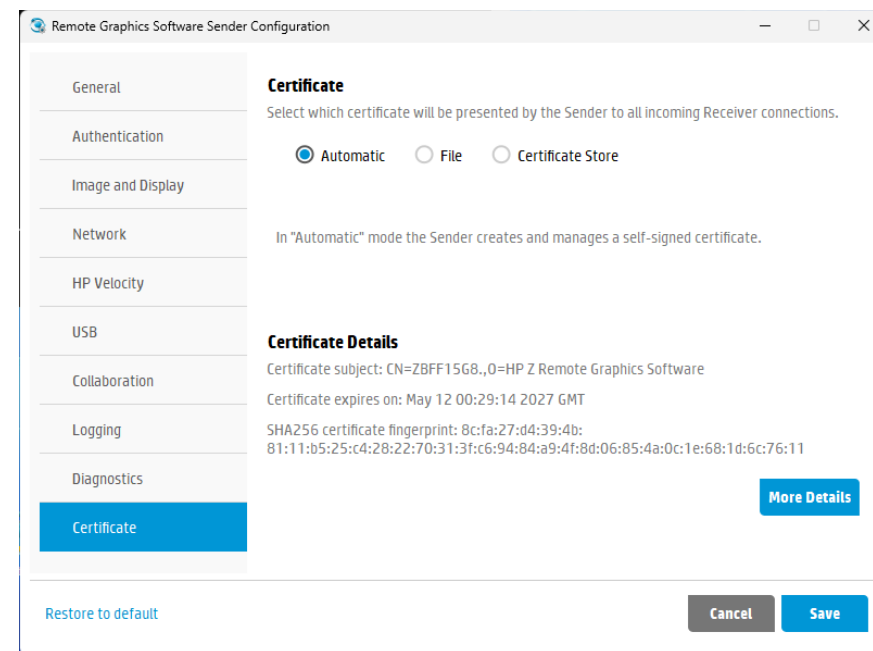
Senderが自動的に自己署名証明書を作成し管理します。(デフォルト設定)

◆ File

自分で用意した証明書ファイル(.pemや.pfxなど)と秘密鍵を直接指定して使う場合に選択します。

◆ Certificate Store

Windowsの証明書ストアに登録してある証明書を使う場合に選択します。(企業でCA(認証局)が発行した証明書を使いたい場合等)



10-19. 設定メニューの解説 (AVC / HP Velocity)

Advanced Video Compression (AVC) とHP Velocityの利用

HP Velocityは通信時のパケットロスや遅延を改善する機能、AVCはSender側の画像をH.264で圧縮することでデフォルトのHP3 CODECより消費帯域を減らす細い回線での利用に適した機能です。AVCの利用にはReceiver側でインターネット接続によるアクティベーションが必要です。

AVCやHP Velocityを使って接続するには、Receiverの設定メニューより「Enable HP Velocity」や「Enable Advanced Video Compression on Sender」にチェックの上、Senderへ接続してください。

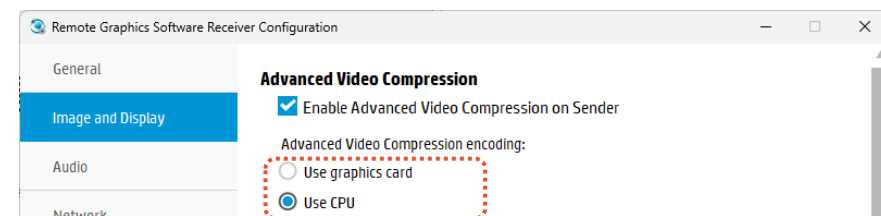
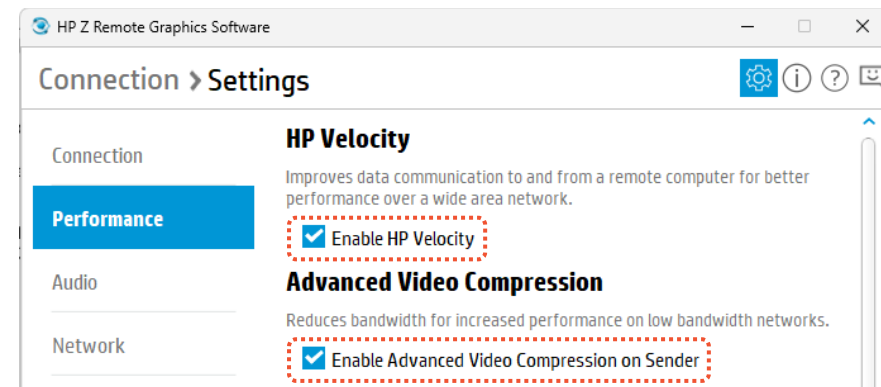
AVCに関しては、Receiver側のインターネット回線を使って初回接続時にアクティベーションが行われ、アクティベーションに成功するとAVCが利用できるようになります。

インターネット接続にProxyサーバーの設定が必要な環境でアクティベーションを行われる場合、Receiverの設定メニューからProxyサーバーのIPアドレスまたはホスト名、ポート番号を指定してください。(※pac形式、wpad形式のProxyには対応していません。)

AVC利用時、Sender側で画像を圧縮 (エンコード) する際に使用するリソースをCPUかGPUのどちらかを設定できます。

設定は「ReceiverConfigApp.exe」を管理者権限で起動し、「Image and Display」タブにあるメニューから行います。

デフォルトではSender側ワークステーションのCPUを使ってエンコードしますが、ワークステーションに搭載されているGPUを使用してエンコードさせたい場合は「Use Graphics card」にチェックを入れSaveします。



11-1. モニターレイアウトの解説

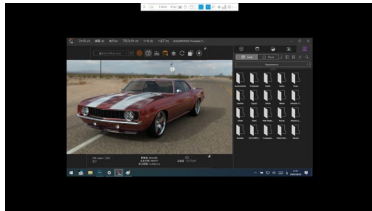
Sender画面の拡大・縮小表示機能

画面表示には1:1のピクセルモード、拡大・縮小表示をするスケールモードの2種類があり、メニューバーのボタンで切り替えることができます。

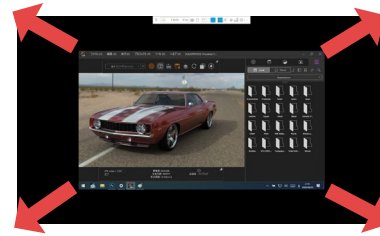


◆拡大表示の例

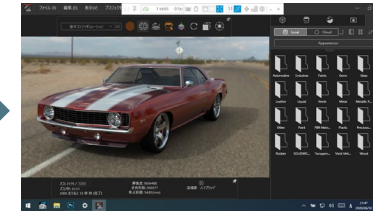
ピクセルモード



Receiver側のモニターの解像度がSender側より高い場合、ピクセルモードではSenderの画面が1:1で表示されるため、その外周は黒く表示されます。



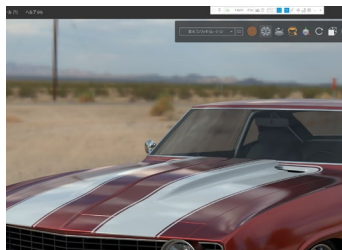
スケールモード



スケールモードに切り替えると、Receiver側のモニターに収まるように拡大表示されます。

◆縮小表示の例

ピクセルモード



Receiver側のモニターの解像度がSender側より低い場合、ピクセルモードではSenderの画面が1:1で表示されるため、Receiver側のモニターには収まらず、Senderの画面は一部分しか表示されません。



スケールモード



スケールモードに切り替えると、Receiver側のモニターに収まるように縮小表示されます。

11-2. モニターレイアウトの解説

仮想ディスプレイ機能 (モニターが接続されていないSenderへの接続)

Senderとなるワークステーションにモニターが接続されていない、もしくはモニターの電源がOFFになっているなど映像信号がない場合にこの設定が必要になります。

◆Sender側の設定方法

「C:\Program Files\HP\Remote Graphics Sender\rgsenderconfig」 ファイルをメモ帳等で開き、以下2点のパラメーターを編集し、上書き保存します。(要管理者権限)。保存後、「HP Z Remote Graphics Software Sender」サービス (rgsender) の再起動を行います。

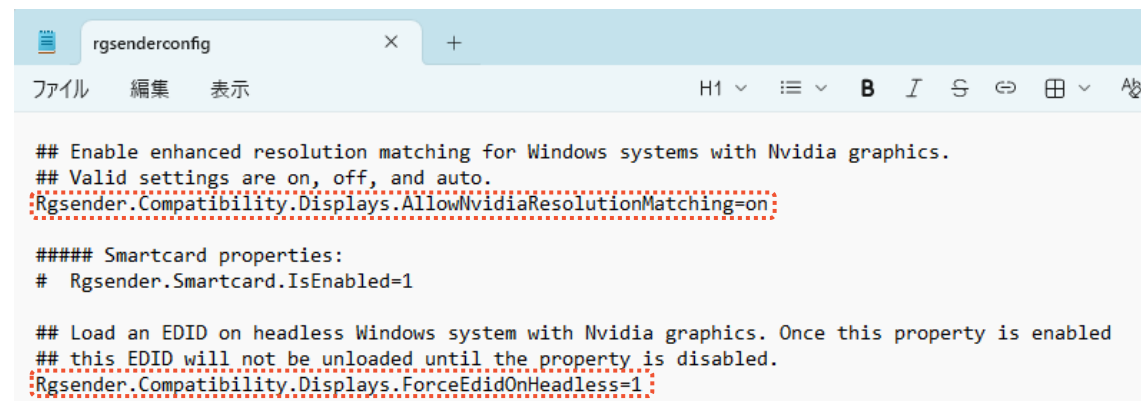
```
#Rgsender.Compatibility.Displays.AllowNvidiaResolutionMatching=auto  
↓  
Rgsender.Compatibility.Displays.AllowNvidiaResolutionMatching=auto ( autoもしくはonのどちらか )
```

```
#Rgsender.Compatibility.Displays.ForceEdidOnHeadless=0  
↓  
Rgsender.Compatibility.Displays.ForceEdidOnHeadless=1
```

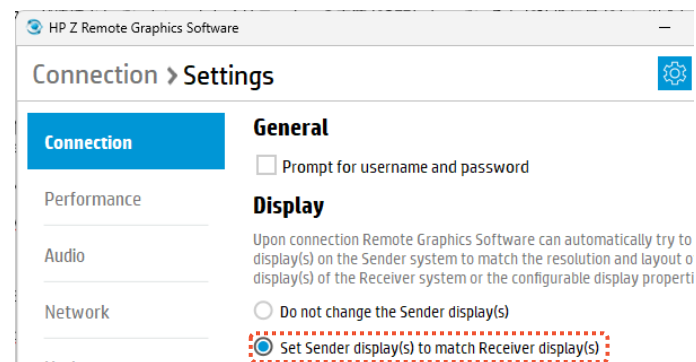
◆Receiver側の設定方法

仮想ディスプレイの設定をしたSenderへ接続する前にReceiverも設定変更が必要です。設定メニューより「Set Sender display(s) to match Receiver display(s)」にチェックした状態でSenderへ接続します。

Receiver側に複数のモニターが接続されている場合でも仮想ディスプレイ機能により同じモニターレイアウトを仮想的に作成し、Receiver側にのモニターレイアウトに収まる形で画面転送されます。



```
rgsenderconfig  
ファイル 編集 表示 H1 Ⅱ B I S ↺ ↻ ⌂  
  
## Enable enhanced resolution matching for Windows systems with Nvidia graphics.  
## Valid settings are on, off, and auto.  
Rgsender.Compatibility.Displays.AllowNvidiaResolutionMatching=on  
  
##### Smartcard properties:  
# Rgsender.Smartcard.IsEnabled=1  
  
## Load an EDID on headless Windows system with Nvidia graphics. Once this property is enabled  
## this EDID will not be unloaded until the property is disabled.  
Rgsender.Compatibility.Displays.ForceEdidOnHeadless=1
```



11-3. モニターレイアウトの解説

パターン1 : Senderに異なる解像度のモニターが接続されている場合



Receiverの設定メニュー

Display

Upon connection Remote Boost can automatically try to set the display(s) on the Sender system to match the resolution and layout of the display(s) of the Receiver system or the configurable display properties.

- ① Do not change the Sender display(s)
- ② Set Sender display(s) to match Receiver display(s)
- ③ Set Sender display(s) to match display properties

①の場合

Sender側で設定されている解像度の状態そのままReceiver側へ転送されます。この例ではSender側モニターの解像度が高いため、Receiver側モニターではすべての領域を表示することができません。新機能であるスケールモードを使うことでSenderの画面領域をすべてReceiverのモニターに表示させることもできます。

②の場合

Receiverの解像度情報を取得し、Sender側で解像度変更をした状態で画面転送されます。この例では3840x2160から1920x1080へ変更された状態でReceiver側のモニターにSenderのデスクトップが表示されます。

③の場合

rgreceiverconfigファイルにカスタムの解像度情報を記載することで利用できるモードになります。
(応用的な使い方)

11-4. モニターレイアウトの解説

パターン2 : Senderにモニターが接続されており、解像度とアスペクト比が異なる場合



Receiverの設定メニュー

Display

Upon connection Remote Boost can automatically try to set the display(s) on the Sender system to match the resolution and layout of the display(s) of the Receiver system or the configurable display properties.

- ① Do not change the Sender display(s)
- ② Set Sender display(s) to match Receiver display(s)
- Set Sender display(s) to match display properties

①の場合

Sender側で設定されている解像度の状態そのままReceiver側へ転送されます。この例では1920x1200に設定されたデスクトップが1600x1200のモニターに表示されるため、一部の領域が表示されません。

②の場合

Receiverの解像度情報を取得し、Sender側で解像度変更を試みようとします。Sender側のモニターとグラフィックスカードの組み合わせでReceiver側の解像度に変更できない場合、エラーメッセージが表示され、Sender側でもともと設定した解像度のまま画面転送されます。NVIDIAコントロールパネルでカスタム解像度を作成し、Receiver側が持つ解像度した場合、解像度は自動的に変更されるようになります。

11-5. モニターレイアウトの解説

パターン3 : Senderにモニターが接続されていない場合 (ヘッドレスモード)



Receiverの設定メニュー

Display

Upon connection Remote Boost can automatically try to set the display(s) on the Sender system to match the resolution and layout of the display(s) of the Receiver system or the configurable display properties.

- ① Do not change the Sender display(s)
- ② Set Sender display(s) to match Receiver display(s)
- Set Sender display(s) to match display properties

モニターが接続されていない場合、デフォルトでは正常に画面転送ができないため、RGS側での仮想ディスプレイの設定を有効にされるか、もしくはNVIDIAコントロールパネルから手動でEDIDを固定化し、モニターが擬似的に接続されている状態を保持する必要があります。

RGSで仮想ディスプレイの設定をするには「11-2. モニターレイアウトの解説」をご参照ください。

①の場合

RGSの仮想ディスプレイまたはEDIDの手動固定をした場合、Sender側のネイティブ解像度のままReceiver側へ画面転送されます。

②の場合

Receiver側と同じ解像度に変更した状態で画面転送されます。

11-6. モニターレイアウトの解説

パターン4 : Sender側がヘッドレス、Receiver側がマルチモニターの場合



Receiverの設定メニュー

Display

Upon connection Remote Boost can automatically try to set the display(s) on the Sender system to match the resolution and layout of the display(s) of the Receiver system or the configurable display properties.

- ① Do not change the Sender display(s)
- ② Set Sender display(s) to match Receiver display(s)
- Set Sender display(s) to match display properties

この例では、EDID手動固定の場合、事前にReceiver側のモニター台数分のEDIDを固定化しておく必要があるため運用が少々面倒です。

RGS側で仮想ディスプレイの設定を実施しておくことをオススメします。

①の場合

仮想ディスプレイの設定をした場合、正常に画面転送されますが、もともとSender側で設定されたモニター1枚分がネイティブ解像度で転送されます。

②の場合

Receiver側の解像度、モニターの枚数、モニターのレイアウト情報を取得し、モニターの台数分のEDIDが自動的に生成され、Receiver側のモニターレイアウトにぴったり収まる形で画面転送されます。Receiver側が4画面や4Kモニター、解像度の異なる複数のモニター等の場合でもそれに合う形で表示されます。

11-7. モニターレイアウトの解説

パターン5 : Sender側マルチモニター環境の場合



Receiverの設定メニュー

Display

Upon connection Remote Boost can automatically try to set the display(s) on the Sender system to match the resolution and layout of the display(s) of the Receiver system or the configurable display properties.

- ① Do not change the Sender display(s)
- ② Set Sender display(s) to match Receiver display(s)
- Set Sender display(s) to match display properties

①の場合

Sender側で表示されているモニターレイアウトそのままの状態Receiver側へ転送されます。この例では3840x2160を2画面で転送されますので、Sender側より低い解像度かつ1画面しかないReceiver側ではすべての領域を表示することができませんが、スケールモードを有効にすることで全画面を表示できます。

②の場合

Receiver側の解像度、モニターの枚数、モニターのレイアウト情報を取得し、それに合う形でSender側のモニターが調整され、画面転送されます。

この例ではSender側が2画面、Receiver側が1画面のため、Sender側ではセカンドモニターを無効化し、メインモニターのみ状態にし、更に解像度をReceiver側の1920x1080に変更した状態で画面転送します。

12-1. 便利な使い方

外出先から社内のワークステーションへRGS接続

RGSは社内LAN同士だと問題なく接続できますが、外出先から社内LANにあるワークステーションへRGS接続する際にはVPN等が必要となります。
※VPN以外にもグローバルIPアドレス (IPv6には非対応)、NAT、ポートフォワーディング、LEOSTREAM環境 (コネクションブローカー) などでも接続は可能です。

① RGSのインストール (手持ちのPC、社内のワークステーション)

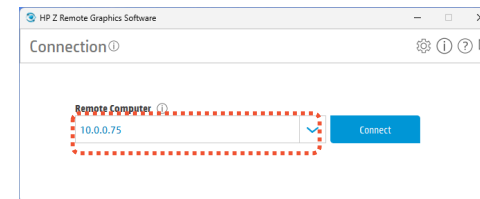


② PCからVPN等で社内ネットワーク環境へアクセス



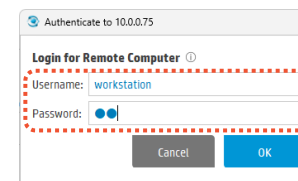
社内イントラサイトやサーバー等にアクセスし、社内LANに入っていることを確認。
ファイアウォール等の設定でRGSで使用するTCPおよびUDPの42966番のポートが開放されている必要があります。

③ Receiverを起動、接続先ワークステーションの入力

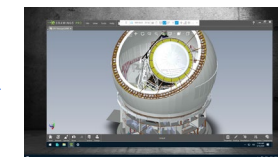


SenderがインストールされたワークステーションのIPv4アドレスまたはホスト名を入力し、「Connect」ボタンを押す (※IPv6には対応していません)
※ネットワーク回線の状況によりAVCやHP Velocityを有効にした状態でお使い下さい。

④ ユーザー認証情報入力、接続完了、ワークステーション利用開始



ユーザーの認証情報を入力



サインインするSender側のユーザー認証情報 (Windowsのユーザー名、パスワード) を入力し、「OK」をクリック。ワークステーションのデスクトップ画面が表示されます。

12-2. 便利な使い方

ワークステーションのリモート管理 (電源)

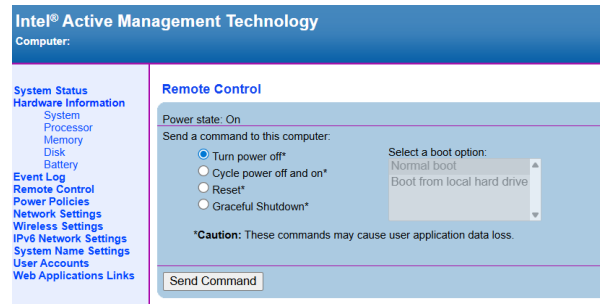
RGSで接続するワークステーションの電源がONの状態でないため、遠隔地からワークステーションの電源管理の方法をご紹介します。

1. Wake on LAN (WOL)



HPのワークステーションは全てWake on LAN (WOL) がデフォルトで有効になっています。マジックパケットを送信することでワークステーションの電源を入れることができます。

2. Intel AMT



HPのワークステーションでIntelのネットワークアダプターを搭載したモデルはIntel AMT経由で電源管理ができます。(Webブラウザ、MeshCommander)

3. HP Remote System Controller (RSC)

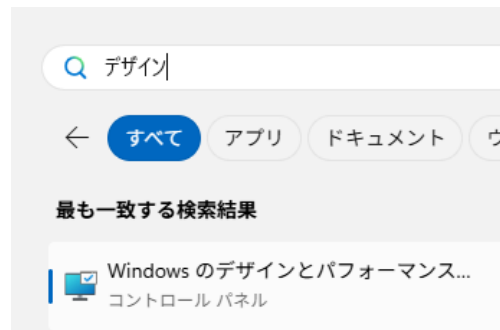


HPのワークステーションにRSCを取り付けることで電源管理に加え、KVMなど高度なりモート管理を行うことができ、設置場所へ行く必要がなくなります。

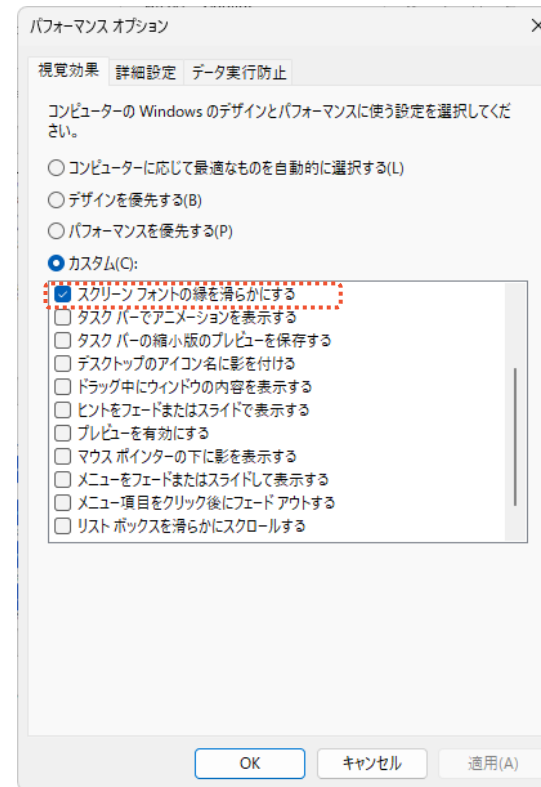
12-3. 便利な使い方

Sender側の軽量化・細いネットワーク環境での最適化

Sender側のWindowsの透過やアニメーションなどの視覚効果が不要な場合、GUIのデザイン設定を変更することで、RGS接続時の操作の軽量化やネットワーク帯域の削減につながります。その他の最適化方法として、Senderから転送される解像度を下げる、Sender側設定でリフレッシュレートの上限を低めに設定する、Receiverの設定メニューにある「Enable Adaptive Image Quality」を有効にし、最低画質とターゲットのリフレッシュレートを低めに変更する、AVC (Advanced Video Compression) とHP Velocity有効にして接続なども細いネットワーク環境で使われる際に有効な設定になります。



「デザイン」等で検索し、「Windowsのデザインとパフォーマンスオプション」を起動します。



「資格効果」タブで「パフォーマンスを優先する」にチェックを入れ、すべて選択が解除された状態で「スクリーンフォントの縁を滑らかにする」のみにチェックを入れ、「OK」をクリックします。

12-4. 便利な使い方

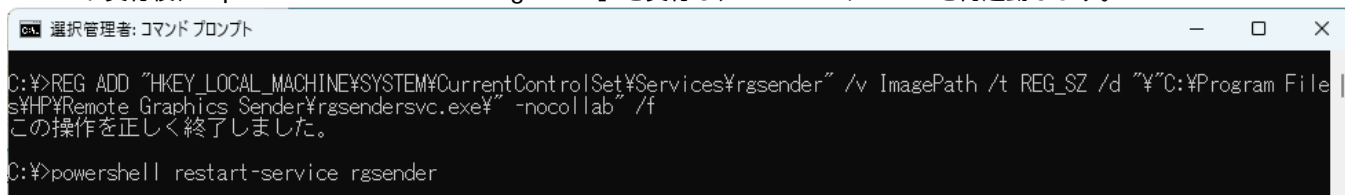
コラボレーション機能の無効化

RGSはデフォルトでコラボレーション機能が有効になっています。別のユーザーが同じSenderへ接続をしようとするとう最初にSenderへ接続したユーザー（プライマリユーザー）のデスクトップ画面にコラボレーションリクエストのポップアップメニューが表示され、それが邪魔になるという場合はコラボレーション機能を無効化されることをお勧めします。

Sender側WindowsでコマンドプロンプトもしくはPowerShellを管理者権限で起動し、以下コマンドを実行します。

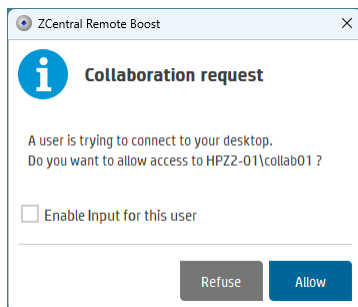
```
REG ADD "HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\rgsender" /v ImagePath /t REG_SZ /d "%C:\Program Files\HP\Remote Graphics Sender\rgsendersvc.exe" -nocollab /f
```

コマンド実行後、「powershell restart-service rgsender」を実行し、Senderのサービスを再起動します。

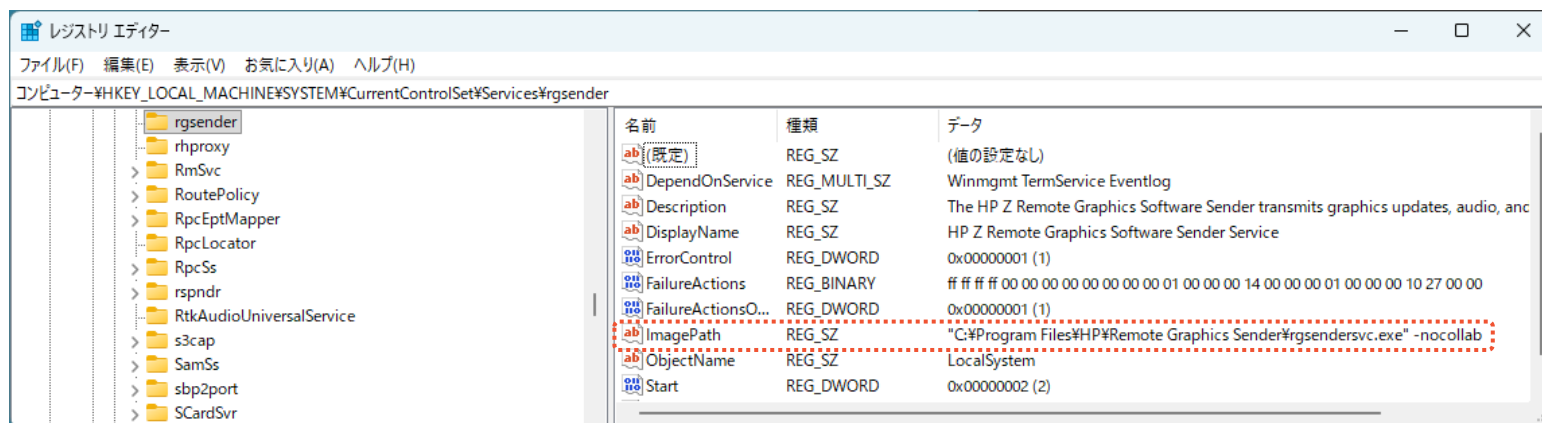


```
選択管理者: コマンドプロンプト
C:\>REG ADD "HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\rgsender" /v ImagePath /t REG_SZ /d "%C:\Program Files\HP\Remote Graphics Sender\rgsendersvc.exe" -nocollab /f
この操作を正しく終了しました。
C:\>powershell restart-service rgsender
```

レジストリの「ImagePath」に「-nocollab」が追加され、コラボレーションが無効化されます。再度コラボレーション機能を有効化する場合は、「-nocollab」を削除し、Senderのサービスを再起動します。



コラボレーションリクエストのポップアップメニュー

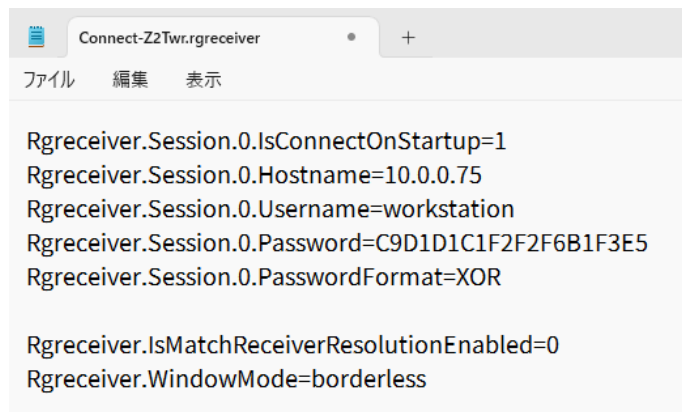


12-5. 便利な使い方

色々な接続方法

RGSにはReceiverを起動し、接続先やユーザーの認証情報を入力して接続する方法が一般的ですが、自動接続用のファイルを作成してファイルのダブルクリックで自動接続したり、コマンドラインで接続先を指定してReceiverを起動する方法など、いくつかの便利な接続方法があります。

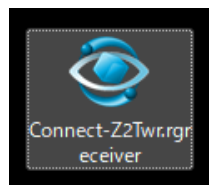
1. .rgreceiverファイルからの接続



```
Connect-Z2Twr.rgreceiver
ファイル 編集 表示

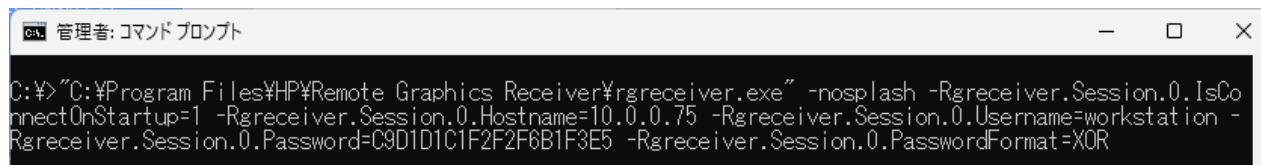
Rgreceiver.Session.0.IsConnectOnStartup=1
Rgreceiver.Session.0.Hostname=10.0.0.75
Rgreceiver.Session.0.Username=workstation
Rgreceiver.Session.0.Password=C9D1D1C1F2F2F6B1F3E5
Rgreceiver.Session.0.PasswordFormat=XOR

Rgreceiver.IsMatchReceiverResolutionEnabled=0
Rgreceiver.WindowMode=borderless
```



このような自動接続用のパラメーターをメモ帳等で記入し、ファイルの拡張子を「.rgreceiver」にすることで接続先やユーザー認証情報を入力不要で自動的にSenderの画面が表示されます。この例では接続先が10.0.0.75、ユーザー名はworkstation、パスワードはXORで暗号化されている16進数を設定しています。「Rgreceiver.Session.0.PasswordFormat=Clear」にすることでパスワードを直打ちすることもできます。また、その他接続時に設定したいパラメーターを追加しておくと、その設定が反映されて接続されます。

2. CLIからの接続



```
管理: コマンドプロンプト
C:\>"C:\Program Files\HP\Remote Graphics Receiver\Rgreceiver.exe" -nosplash -Rgreceiver.Session.0.IsConnectOnStartup=1 -Rgreceiver.Session.0.Hostname=10.0.0.75 -Rgreceiver.Session.0.Username=workstation -Rgreceiver.Session.0.Password=C9D1D1C1F2F2F6B1F3E5 -Rgreceiver.Session.0.PasswordFormat=XOR
```

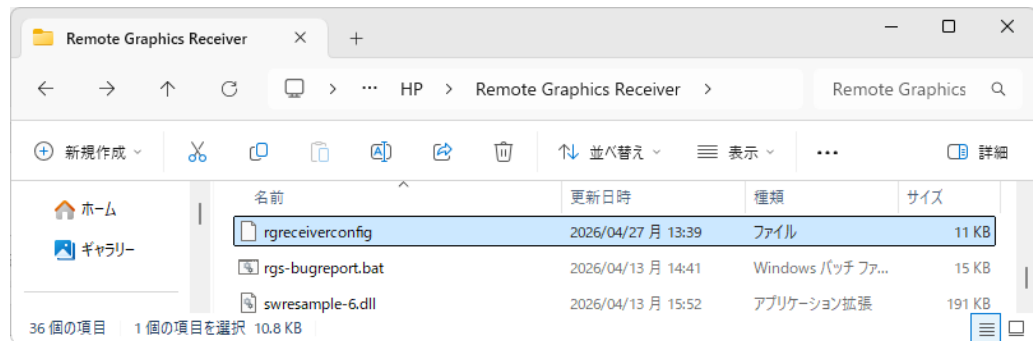
Rgreceiver.exeファイルをコマンドで実行することで、.rgreceiverファイルと同じように自動接続させることができます。ユーザー名やパスワードの項目を無くすと、設定した接続先に接続され、認証情報はGUIで入力して接続する使い方もできます。「-nosplash」でReceiver起動前のRGSロゴを非表示にすることができます。

12-6. 便利な使い方

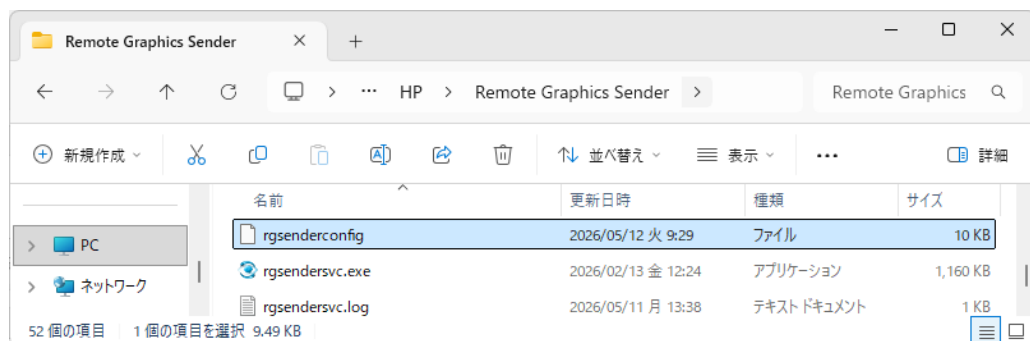
RGSの設定を統一

Receiver側のデバイスやSender側のワークステーションの台数が多い場合、RGSの設定を1台1台行うことは現実的ではありません。Receiverの設定はReceiverConfigApp.exeのGUI、SenderはSenderConfigApp.exeのGUIで行いますが、大元の設定は「rgreceiverconfig」ファイルと「rgsenderconfig」ファイルで管理されています。このコンフィグファイルをカスタマイズし、ファイル配信ソフト等で各デバイスに配信して上書きすることで、多くのデバイスに対して同じ設定を一括で行うことができます。

“C:¥Program Files¥HP¥Remote Graphics Receiver¥rgreceiverconfig”



“C:¥Program Files¥HP¥Remote Graphics Sender¥rgsenderconfig”



<注意>

rgsenderconfigファイルにライセンスサーバーの情報（クラウドの場合はインスタンス名、ローカルの場合はローカルのサーバー名）が記載されています。ライセンスサーバーの参照先が異なるSenderにrgsenderconfigを配信するとライセンスが参照できなくなり、Receiverから繋がらなくなる場合がありますので、ご注意ください。

```
rgsenderconfig
File Edit View H1 ≡ B I S ⇄ ⌂
## Cloud licensing properties
Rgsender.Pcoip.LicenseServer=https://teradici.compliance.flexnetoperations.com/instances/ /request
# Rgsender.Pcoip.UseMacAddressAsHostID=0
# Rgsender.Pcoip.LicenseProxyServerEnabled=0
# Rgsender.Pcoip.LicenseProxyServerAddress=
# Rgsender.Pcoip.LicenseProxyServerPort=
```

※rgsenderconfigの設定反映にはrgsenderサービスの再起動が必要です



12-7. 便利な使い方

ショートカットキー (セットアップモード)

メニューバーにあるセットアップモードのアイコン (十字の矢印) をクリックするか、キーボードの左Shiftキーを長押しした状態でSpaceキーを1回押すとセットアップモードに入ることができます。

セットアップモード中はSenderのウィンドウが薄暗くなります。このモードではSenderのウィンドウを移動させたり、ショートカットキーが有効になります。

セットアップモード中に「N」でSenderのウィンドウの最小化、「C」でRGSセッションの切断 (サインアウトはされません)、「M」で設定メニュー表示などが行え、よりRGSの操作が快適になります。

Setup Mode Hotkeys

M: Display this control panel

N: Minimize the Receiver window

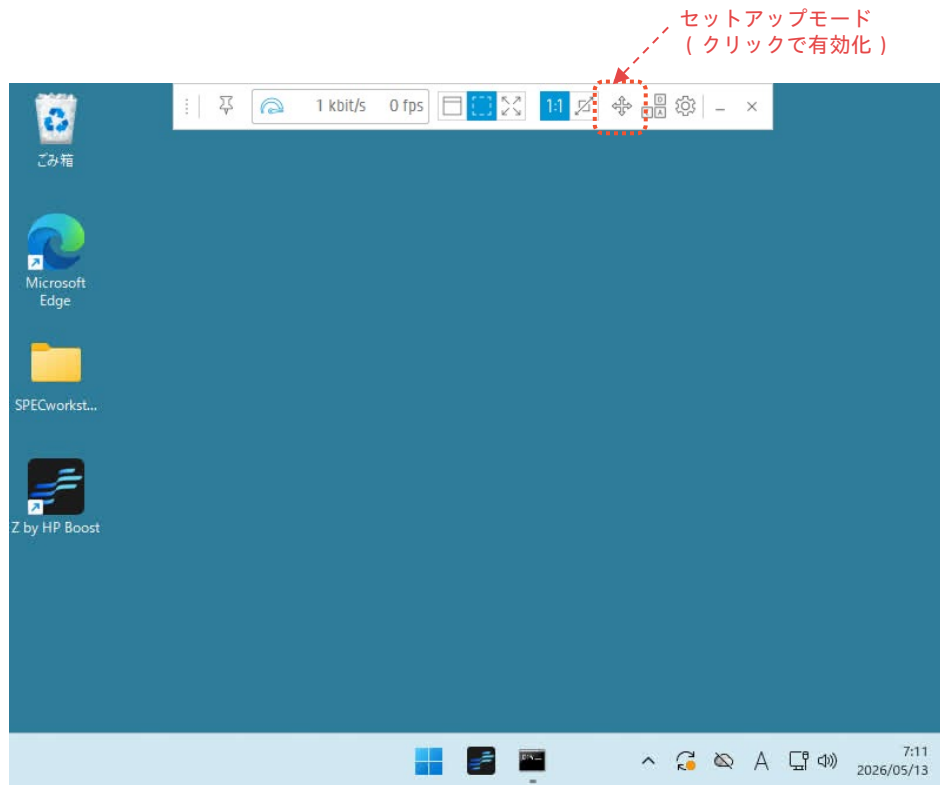
C: Close the Receiver window

G: Toggle Game Mode

H: Hide the Toolbar

F: Fit the Receiver window to the Sender desktop

T: Toggle the Receiver window to be always on top



通常の状態



セットアップモード中

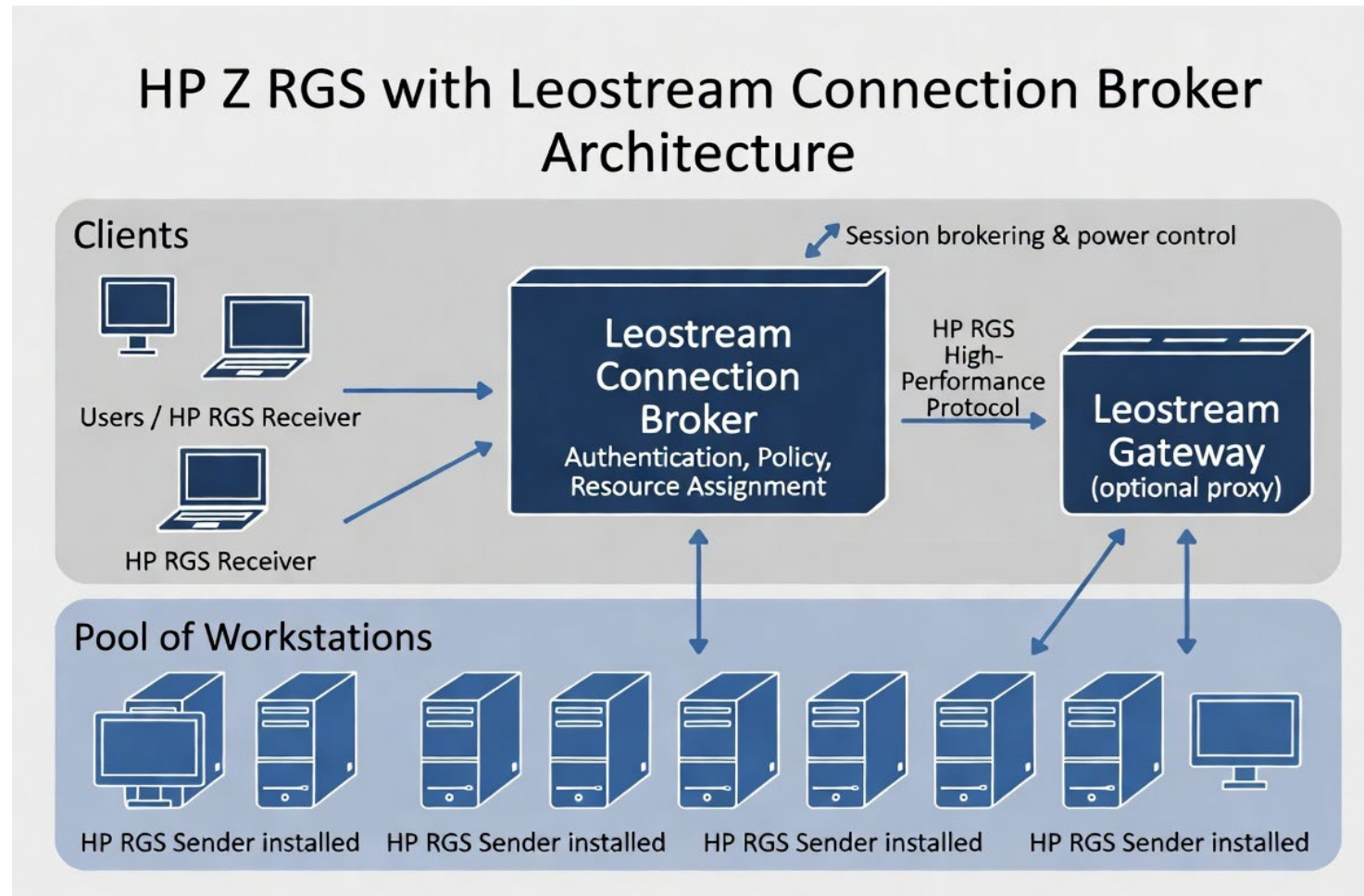
Senderのウィンドウ全体が暗くなる

12-8. 便利な使い方

LEOSTREAM (コネクションブローカー)

3rdパーティ製のソフトウェアで「LEOSTREAM Connection Broker」というものがあり、現時点ではRGSがサポートされている唯一のコネクションブローカーになります。空いているワークステーションをプール内から割り当てたり、セッションや電源の管理、ポリシーの割り当て、ゲートウェイ経由ならVPN不要で社内にあるワークステーションに接続することもできます。RGSで運用するワークステーションの台数が多い場合、コネクションブローカーが必要になってきますので、LEOSTREAMにご興味がある方は代理店やシステムインテグレーターにご相談ください。

※HPではLEOSTREAMのご提案、販売、導入、システム構築などはしておりません。



13-1. FAQ (よくあるご質問)

< Q.1 >

Senderへ接続できない。

< A.1 >

SenderとReceiverが通信できる状態にあるかどうか、Senderへログオンするユーザーのパスワードが設定されているかどうか、ユーザー名とパスワードが正しいかどうか、Sender側に「rgsender」というWindowsのサービス開始状態にあるかどうか、ファイアウォールでブロックされていないか (通常TCP/UDPポート番号42966を使用)、SenderとReceiverの初回インストール後にOSの再起動をしているか等をご確認ください。

< Q.2 >

TeamViewerやSplashtopのように双方がインターネット接続可能な状態ならVPN不要で社内のワークステーションへ直接接続出来る機能はありますか？

< A.2 >

RGSにはそのような機能はありません。VPNなどで直接通信ができる環境でご利用下さい。もしくはLEOSTREAMのゲートウェイ環境を導入されることでゲートウェイ経由で接続できるようになります。

< Q.3 >

SenderとReceiverのバージョンが違ってても接続できますか？

< A.3 >

ほとんどの組み合わせでは問題なく接続できますが、一部機能がうまく動かなかったりすることもありますので、できる限りバージョンを合わせていただくようにお願いします。



13-2. FAQ (よくあるご質問)

< Q.4 >

AVCを有効にしたらパフォーマンスが悪くなってしまった。

< A.4 >

AVCを使う場合、H.264 CODECを使い、Sender側で画像の差分情報をエンコードし、Receiver側でそれをデコードして表示します。デフォルトのHP3 CODECに比べ、多くのハードウェアリソースを必要とします。(※Sender側はエンコード用にCPUかGPUを選択可能、Receiver側はデコード用にCPUのみ)
本ドキュメントの「[2. RGSv26のシステム要件](#)」に記載してあるスペックがSender、Receiverともに必要となります。

< Q.5 >

セッション毎に帯域制限をかける機能はありますか？

< A.5 >

RGSのに帯域制限をかける機能はありません。ネットワーク機器の機能、3rdパーティー製アプリケーションの機能等をお使い下さい。具体的な数値設定はできませんが、RGSの設定で画質の調整、フレームレートの上限の設定、画像圧縮CODECの切り替え、Windows側での解像度変更、WindowsのGUIのデザインの変更によってネットワーク帯域を抑えることができます。

< Q.6 >

Senderの台数が多くなり、セッション管理を行うコネクションブローカーが必要になりました。RGS対応のコネクションブローカーはありますか？

< A.6 >

3rdパーティー製ではLEOSTREAMがRGSをサポートしています。



13-3. FAQ (よくあるご質問)

< Q.7 >

Senderへ接続した際、Sender側のワークステーションに接続されているモニターの映像が消え、黒い画面になってしまう。

< A.7 >

セキュリティ上の観点から初期設定でSenderへ接続した際にはモニターが接続されていてもデスクトップ画像が映らない仕様になっています。Sender側のモニターにも表示したい場合は、「SenderConfigApp」を使い「Enable monitor blanking on Sender computer when a remote user connects」のチェックをオフにすることが必要です。具体的な設定は「[10-9. 設定メニューの解説 \(Sender \)](#)」をご確認ください。

< Q.8 >

RGSのGUIは英語のみでしょうか？日本語への変更は可能でしょうか？

< A.8 >

英語表記のみとなります。

< Q.9 >

Sender側ワークステーションにモニターを接続していなくても使用できますか？

< A.9 >

モニターレスやモニターの電源がオフの状態の場合、初期設定ではグラフィックスが正常に機能しないため黒画面になる、操作を受け付けない、3D表示がされない等の挙動になる仕様です。モニターレスのSenderに接続して使用するには仮想ディスプレイの設定が必要になりますので、「[11-2. モニターレイアウトの解説](#)」の設定を実施ください。

13-4. FAQ (よくあるご質問)

< Q.10 >

Sender側から送られてきた解像度がReceiver側のモニター解像度と合わない。

< A.10 >

Receiver側の解像度にピッタリ合わせる場合は、設定メニューの「Set Sender display(s) to match Receiver display(s)」に チェックを入れSenderへ接続すると、Sender側デスクトップの解像度がReceiver側と同じ解像度に変更された状態で画面転送されます。ただし、Receiver側の解像度をSender側で設定できない場合、エラーメッセージが表示され、Sender側でもともと設定されていた解像度のまま画面転送されます。

RGSは拡大表示/縮小表示の機能がありますので、同じ解像度にはできない場合でもこの機能を使うことでモニターの画面 ピッタリになるようにSenderのデスクトップを表示することができます。詳細は「[11-1. モニターレイアウトの解説](#)」をご確認ください。

< Q.11 >

SenderやReceiverをインストールしたいマシンへリモートデスクトップ (RDP) で接続し、遠隔でインストールすることはできますか？

< A.11 >

RDP経由でもインストール可能です。インストール完了後に自動的にOS再起動がかかる仕組みになっています。

< Q.12 >

ReceiverやSenderをサイレントインストールすることはできますか？

< A.12 >

対応しています。サイレントアンインストールも可能です。

Senderの場合 : `SenderSetup64.exe /s /z"/autoinstall /agreetolicense /sso /usb /clipboard /noreboot /registrationcode=XXXX-XXXX-XXXX-XXXX /proxyserver=proxy.example.com /proxyport=8080"`

⇒リモートUSB有効、リモートクリップボード有効、シングルサインオン、再起動しない、クラウドのレジストレーションコードの設定、レジストレーションコード接続用のProxyの設定

Receiverの場合 : `ReceiverSetup64.exe /s /z"/autoinstall /agreetolicense /usb=localremote /clipboard /noreboot"`

⇒USBはローカルリモート設定、リモートクリップボード有効、再起動しない



13-5. FAQ (よくあるご質問)

< Q.13 >

旧バージョンをインストール済みですが、最新バージョンを上書きインストールすることはできますか？

< A.13 >

Receiver、Senderモジュールともに上書きインストールすることができます。サイレントインストールを使い、自動的に上書きインストールすることもできます。

< Q.14 >

RGSで使うデフォルトのポート番号 (42966) を変更できますか？

< A.14 >

Sender側の「SenderConfigApp.exe」を起動し、「Network」タブの「Sender network port」の番号を変更します。ReceiverからSenderへ接続する際にはIPアドレスまたはホスト名の後に「:変更後のポート番号」を付けて接続します。詳細は「[10-12. 設定メニューの解説 \(Sender \)](#)」をご確認ください。

< Q.15 >

コラボレーションを無効化し、他のユーザーへ画面共有しないようにしたい。

< A.15 >

Sender側Windowsのレジストリ設定で可能です。詳細は「[12-4. 便利な使い方](#)」をご確認ください。

< Q.16 >

RGSを使い、Sender側ワークステーションの電源管理はできますか？

< A.16 >

RGSの機能では出来ませんが、HP Zシリーズのワークステーションであれば、Intel AMTやWake on LANの機能を使い、ワークステーションの電源をリモートでONにすることができます。オプション品ですが、HP Remote System Controllerを使うことでより高度なリモート管理ができます。詳細は「[12-2. 便利な使い方](#)」をご確認ください。



13-6. FAQ (よくあるご質問)

< Q.17 >

マルチディスプレイ状態のReceiverにSender側も同じマルチディスプレイ環境にして画面転送できますか？

< A.17 >

Sender側ワークステーションのグラフィックスカードにモニターが接続されている場合、アクティブなモニターの枚数分のデスクトップ画像がReceiver側に転送されますので予めSender側にもReceiverと同じ枚数のモニターを取り付けておく必要が出てきます。それを回避するためにSender側ワークステーションをモニターレスにし、仮想ディスプレイの設定を行えば、Receiverと同じレイアウトを仮想的に作り出し、画面転送することができます。

< Q.18 >

SenderやReceiverの設定を変更したのに変更が反映されていません。

< A.18 >

Senderの設定を変更した場合、Windowsのサービス「rgsender」の再起動が必要になります。Receiverの設定を変更した場合、一旦Receiverアプリを「×」をクリックして終了し、起動しなおしてください。

< Q.19 >

AVC機能を使うために必要なアクティベーションは一度行えば2回目以降は不要でしょうか？


< A.19 >

AVCを有効にした状態で初回接続のみインターネット経由でのアクティベーションが必要で、2回目以降の接続はアクティベーションは不要となります。

< Q.20 >

インターネットでのアクティベーションをしないとRGSは使用できないのでしょうか？

< A.20 >

 アクティベーションが必要なのはAVC (高圧縮のCODEC) の機能を使う場合とクラウドライセンスを使用する場合のみです。

13-7. FAQ (よくあるご質問)

< Q.21 >

クラウドライセンスで登録したSenderを後からローカルライセンスを参照するように変更できますか？

< A.21 >

変更できます。ローカルライセンスを参照していたSenderをクラウドライセンスに切り替えることもできます。

< Q.22 >

テクニカルサポート窓口はありますか？

< A.22 >

有償ライセンスをご購入いただいている場合、ワークステーション用のテクニカルサポート窓口までご連絡ください。電話やメールでのサポートなり、オンサイトサポートはありません

電話番号：0120-206-042 ガイダンス1→3

また、英語になりますがRGS用のフォーラムもありますのでご利用ください。

<https://h30434.www3.hp.com/t5/HP-Z-Remote-Graphics-Software-RGS/bd-p/RGS>

< Q.23 >

RGSのライセンスを購入する前に評価をしてみたい

< A.23 >

以下URLにアクセスの上、英語で申請してください。評価ライセンス発効後、EメールでSender50台分が30日間利用可能なライセンスコードが届きます。

<https://app.smartsheet.com/b/form/019d42e8715371a788d66f82478a549b>

詳細は「[4-2. RGSのライセンス設定](#)」をご参照ください。



14-1. トラブルシューティング

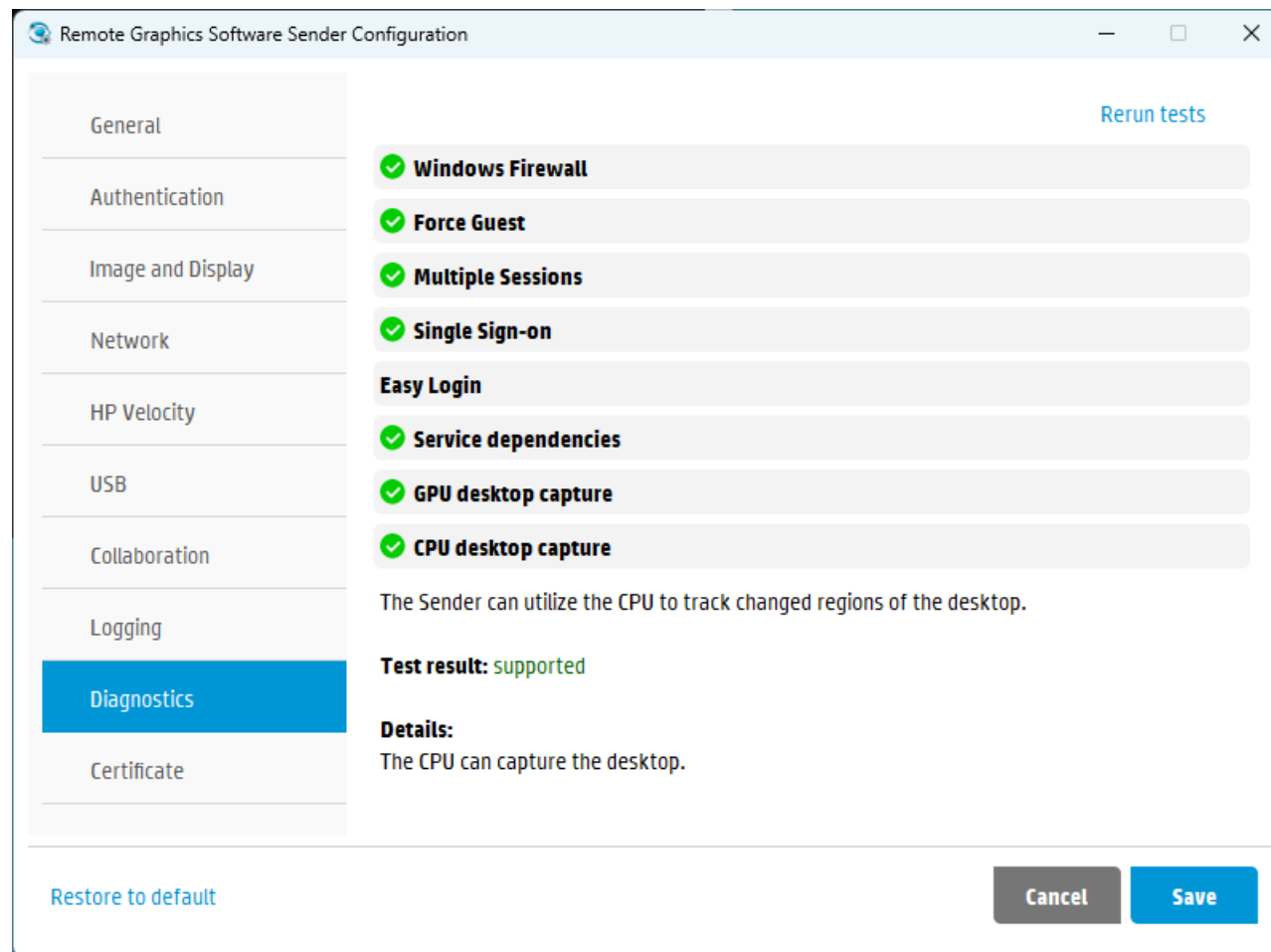
ReceiverからSenderへ接続するための確認項目

- ① ワークステーション側にSenderソフトウェア、端末側にReceiverソフトウェアが正常にインストールされおり、RGS初回インストール後のOSの再起動がされていること
- ② Sender側の「HP Z Remote Graphics Software Sender Service」 (rgsender) サービスが「開始」状態にあること
- ③ ReceiverとSenderが直接通信できる状態であること (例 : PING等の疎通がある)
- ④ Sender側のWindowsファイアウォール設定で「rgsender.exe」による通信が許可されていること (※通常、Senderインストール時に自動的に許可設定されます)
- ⑤ 社内ネットワーク上で「TCP/UDP 42966」のポート番号が開放されていること
- ⑥ Sender側のWindowsユーザーにパスワードが設定されていること
- ⑦ Sender側のWindowsユーザーがローカルログオン可能なこと
- ⑧ Sender側のワークステーションがモニターレスの場合、仮想ディスプレイの設定がされていること
- ⑨ Sender側のワークステーションにNVIDIAのグラフィックスドライバーが正常にインストールされていること
- ⑩ Receiver側から接続するSenderが信頼しない設定になっていないこと (電子証明書設定)
- ⑪ Sender側がクラウドのライセンスサーバーもしくはローカルのライセンスサーバーにアクセスし、ライセンスが取得できること
- ⑫ ライセンスが失効していないこと
- ⑬ 購入されたライセンス数をRGSで接続するセッション数が超えていないこと

14-2. トラブルシューティング

Senderの診断ツール

Senderのインストールフォルダに「SenderConfigApp.exe」があります。そのEXEを管理者権限で起動後、「Diagnostics」タブに移動し、各項目のアイコンがグリーン（正常）になっているかどうかご確認ください。

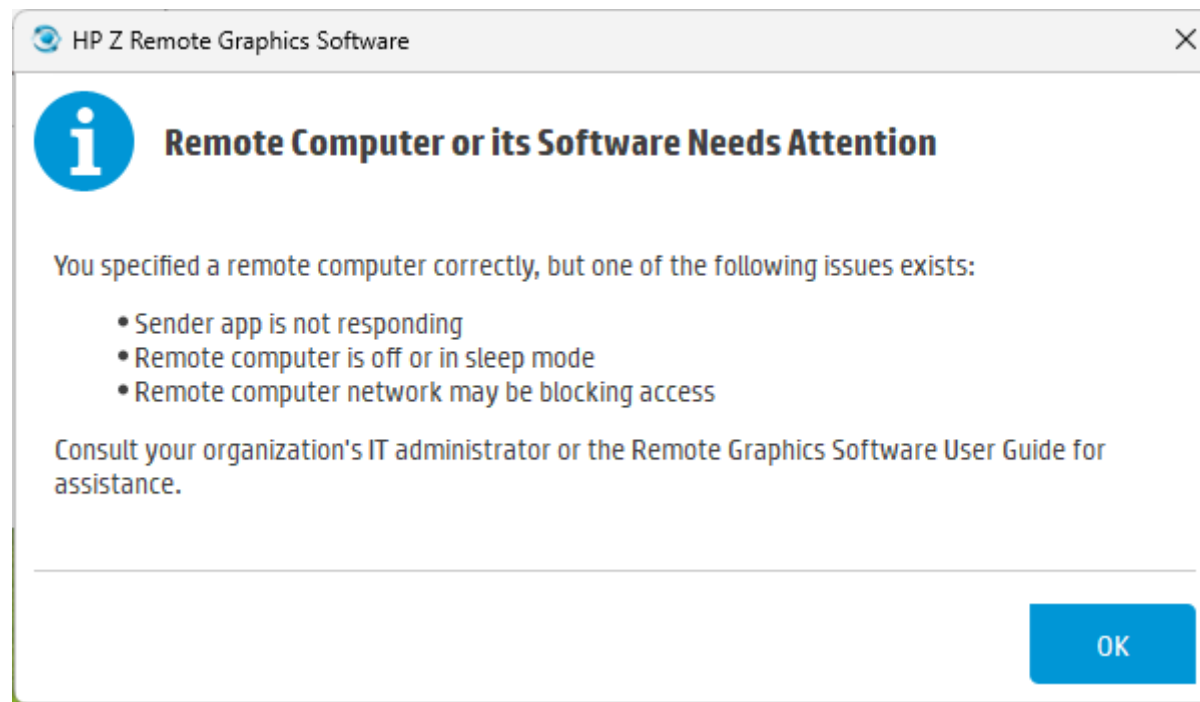


14-3. トラブルシューティング

<メッセージ: Remote Computer or its Software Needs Attention >

SenderのIPアドレスまたはホスト名入力後、「Connect」を押した後にSenderに接続できずタイムアウトした際に表示されます。

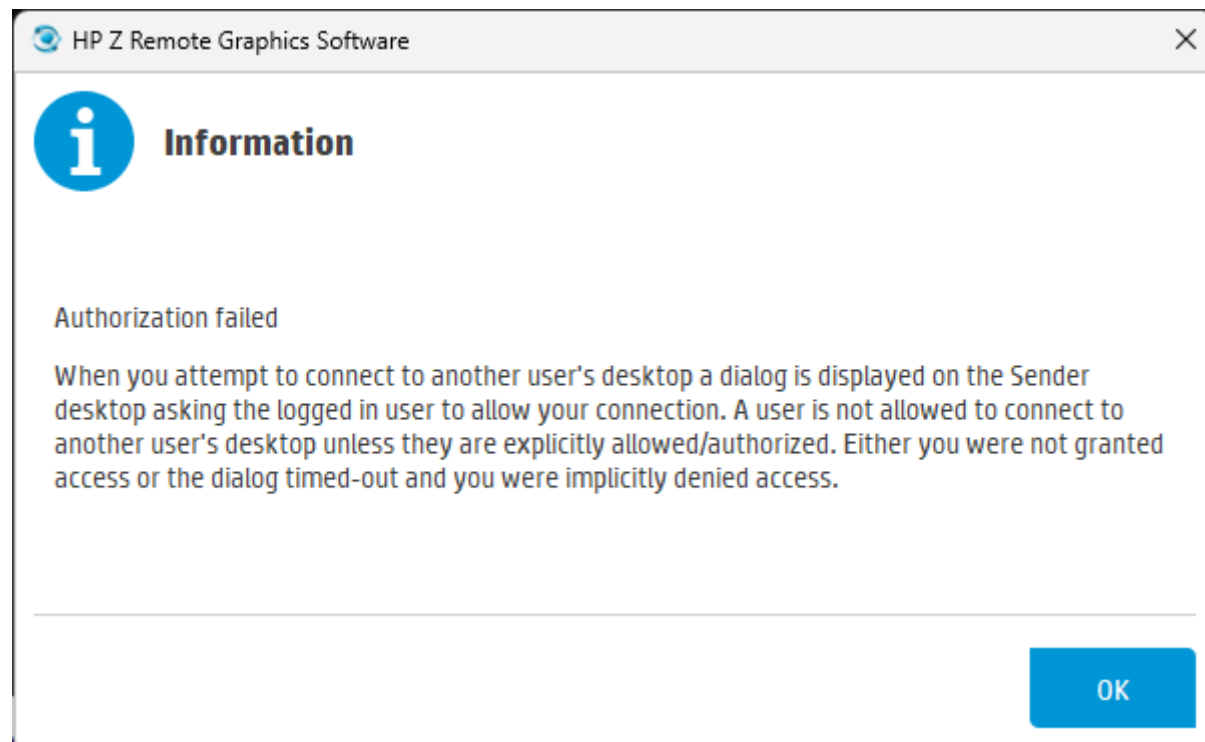
Windowsのユーザー認証まで到達していませんので、「Senderと通信ができていない」、「Firewallでブロックされている」、「Senderのrgsenderサービスが起動していない」、「証明書でNoを選んで登録されてしまっている」などの原因が考えられます。



14-4. トラブルシューティング

<メッセージ:Authorization failed>

Senderへの通信後、ユーザー認証に失敗した場合は表示されます。Sender側のワークステーションでサイン可能なユーザー名とパスワードを再度確認して接続してください。また、誰か別のユーザーがSenderを利用している場合にも表示されます。

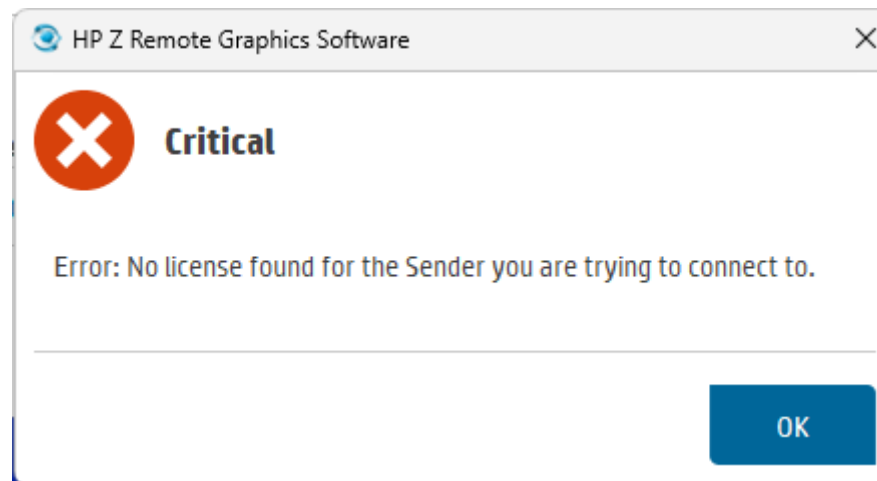


14-5. トラブルシューティング

<メッセージ:Error: No license found for the Sender you are ~>

ReceiverからSenderへ接続し、ユーザー認証通過後、Senderが有効なライセンスをサーバーへ確認しに行った際にライセンスが取得できなかった場合に表示されます。

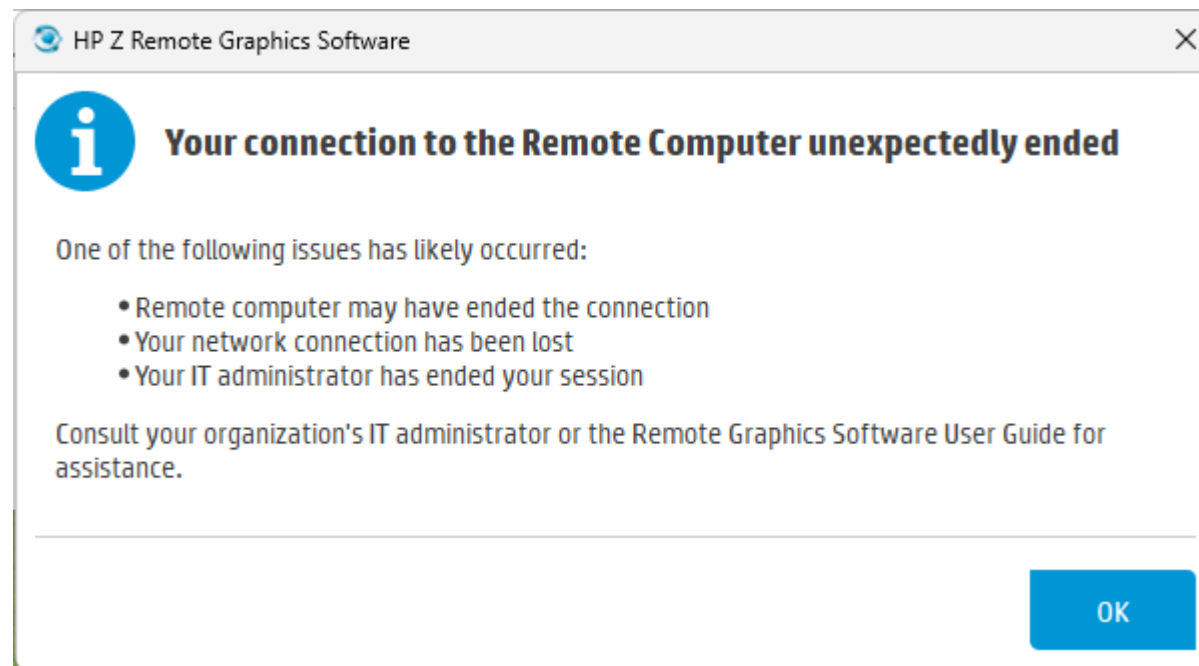
Sender側がクラウドライセンスもしくはローカルライセンスへ正常にアクセスできているか、Sender側でライセンスの設定が適切にされているか、ライセンスサーバーへの通信がファイアウォールやProxyで遮断されていないかどうか、ライセンスの有効期限が切れていないかなどをご確認ください。



14-6. トラブルシューティング

<メッセージ:Your connection to the Remote Computer Unexpectedly ended >

ReceiverからSenderへ接続し、Senderのデスクトップ画面が表示されている状態で通信障害などが発生し、RGSのセッションが終了してしまった際に表示されます。



14-7. トラブルシューティング

<メッセージ:ローカルコンピューターのHP Z Remote Graphics Software~>

Sender側のWindowsサービス「rgsender」が自動的に開始されず、手動で開始しようとしても依存関係によりサービスが開始されない場合があります。

Windows標準の「Remote Desktop Service」が「無効」状態にあると、「rgsender」サービスが「Remote Desktop Service」を起動できないため、RDPを使っていなくても「Remote Desktop Service」は「手動」または「自動」にし、「無効」にはしないで下さい。



15. 参考URL集

- ◆RGSトライアルライセンスリクエストフォーム (英語)
<https://app.smartsheet.com/b/form/019d42e8715371a788d66f82478a549b>
- ◆RGSサポートフォーラム (英語)
<https://h30434.www3.hp.com/t5/HP-Z-Remote-Graphics-Software-RGS/bd-p/RGS>
- ◆HP Liveサポートナビ
<https://jp.ext.hp.com/v-ivr/>
- ◆HP Z Remote Graphics Software ユーザーガイド (英語)
https://repos.datascience.hp.com/rgs/26.02.1/RGS_26.02.1_UserGuide.zip
- ◆HP Z Remote Graphics Software Quick Specs (英語)
https://repos.datascience.hp.com/rgs/26.02.1/RGS_26.02.1_QuickSpec.pdf
- ◆HP Z Remote Graphics Software リリースノート (英語)
https://repos.datascience.hp.com/rgs/26.02.1/RGS_26.02.1_Readme.pdf
- ◆HP Anyware License Server 25.10 for Windows 管理者ガイド
https://anyware.hp.com/web-help/pcoip_license_server/windows/25.10/



Thank You

